事業年度	平成２７年度
工事種別	新営工事（建築工事）
工事番号	防災工－１

工事名　　可児市消防団消防車庫第４分団第１部新築工事

◎注意事項

この内訳書の工事項目及び数量は、積算する上での参考資料です。
積算の際は、設計図面にて工事項目及び数量を拾い出し積算して下さい。

可児市　　総務部　　防災安全課

当初 設計書

工事番号	防災工-１	工事箇所	可児市　久々利　地内	施設名	消防団消防車庫	
工事名	可児市消防団消防車庫第４分団第１部新築工事					

理　　由	工　事　概　要
既設消防団消防車庫は昭和５６年建築であり経年劣化により老朽化していることや待機室が狭いことから解体し別敷地に新築することとする。また、建築敷地の西面道路及び東面水路部を消防車乗入等のため改良する。	建築改修工事　一式 ・消防車庫新築工事：建物（鉄骨造2階建て、床面積93.60㎡）×1、 ホース乾燥塔×1、外構（敷地面積924.45㎡） ・既設消防車庫解体工事：建物（RC造平屋建て、床面積約65.98㎡） ×1、櫓×1、外構（敷地面積約165.73㎡） ・道路・水路改良工事 電気設備工事　一式 機械設備工事　一式

金　　額	円	内消費税相当額	円

特　記　仕　様　書

１．一般事項

⑴　受注者は、工事請負契約書、可児市建設工事共通仕様書及び特記仕様書に基づき施工するものとする。なお、特記仕様書は共通仕様書に優先する。

⑵　請負業者は、本工事が「可児市工事品質証明実施要領」の対象となる場合、要領に基づき品質の証明を実施しなければならない。

⑶　受注者は、受注時、変更時、完成時の各時点において工事請負代金額が500 万円以上の工事について、工事実績情報システム（コリンズ）に基づき、受注・変更・完成・訂正時に工事実績情報として「登録のための確認のお願い」を提出し監督員の確認を受けた後に、受注時は契約後、土曜日、日曜日、祝日等を除き10 日以内に、登録内容の変更時は変更があった日から、土曜日、日曜日、祝日等を除き10 日以内に、完了時は完成後、土曜日、日曜日、祝日等を除き10 日以内に、訂正時は適宜登録機関に登録申請をしなければならない。変更登録時は、工期、技術者に変更が生じた場合に行うものとし、工事請負代金のみの変更の場合は、原則として登録を必要としない。なお、変更時と完成時の間が10日間に満たない場合は、変更時の提示を省略できる。

⑷　提出・提示書類は別添「可児市建設工事における取扱い書類一覧表」に基づき実施するものとする。また、工事打合簿（指示、協議、承諾は除く）、確認・立会願い、夜間・休日作業届けの書類を提出する場合は、別添様式に基づき、電子メールにて提出するものとし、書面には署名または押印する必要はないものとする。これらに定めのない事項については、監督員と協議する。

⑸　本工事において以下に示す建設機械を使用する場合は、「特定特殊自動車排出ガスの規制等に関する法律（平成17年法律第51条）」に基づく技術基準に適合する機械、または、「排出ガス対策型建設機械指定要領（平成3年10月8日付建設省経機発第249号、最終改定平成22年3月18日付け国総施第291号）」、「排出ガス対策型建設機械の普及促進に関する規定（平成18年3月17日付け国土交通省告示第348号）」もしくは「第3次排出ガス対策型建設機械指定要領（平成18年3月17日付け国総施第215号）」に基づき指定された排出ガス対策型建設機械を使用しなければならない。

機　　種	備　　考
一般工事用建設機械 ・バックホウ ・トラックシャベル（車輪式） ・ブルドーザ ・発動発電機（可搬式） ・空気圧縮機（可搬式） ・油圧ユニット （以下に示す基礎工事用機械のうちベースマシンとは別に、独立したディーゼルエンジン駆動の油圧ユニットを搭載しているもの：油圧ハンマ、パイプロハンマ、油圧式鋼管圧入・引抜機、油圧式杭圧入引抜機、アースオーガ、オールケーシング掘削機、リバーサーキュレーションドリル、アースドリル、地下連続壁施工機、全回転型オールケーシング掘削機） ・ローラー類 （ロードローラ、タイヤローラ、振動ローラ） ・ラフテレーンクレーン	ディーゼルエンジン（エンジン出力7.5kw以上260kw以下）を搭載した建設機械に限る。

⑹　本工事、および可児市が発注する他の2件の工事については、発注者が施工管理上支障ないと認めた場合に限り現場代理人の兼務を認める。また本工事と他の2件の工事の請負代金の合計は2500万円以内とする。なお、受注により現場代理人が兼務となった他の工事の監督員に現場代理人兼務届を提出しなければならない。

2．産業廃棄物の適正処理について

⑴　請負者は、産業廃棄物が搬出される工事にあたっては、監督員の指示に従い、産業廃棄物関連書類の提出及び確認並びに処理施設の現地確認並びに建設廃棄物処理状況の管理を行い、産業廃棄物が最終処分に至るまで適正に処理されていることを確認しなければならない。

⑵　建設発生土については、工事間流用とし、流用先は監督員が指示する。都合により工事間流用ができなくなった場合は、別途協議する。ただし、建設発生土が100m3未満の場合はこの限りではない。また請負者の都合により処分場を変更する時は監督員に報告するものとする。

3．使用材料

⑴　アスファルト再生合材について
本工事で使用するアスファルト再生合材には「ささゆりクリーンパーク溶融スラグ」を混入するものとし、使用にあたっては、「溶融スラグの土木資材への利用に関するガイドライン（可児市）」によること。

⑵　コンクリート二次製品について
本工事に使用するコンクリート二次製品については、ささゆりクリーンパーク溶融スラグ混入資材を使用するものとし、施工前に溶出試験結果等の品質を証明する書類を提出し、監督員の許可を得ること。

⑶　生コンクートについて
本工事に使用する生コンクリート（均しコンクリートを除く）については、水セメント比60％以下とし、品質を証明する書類を提出して、事前に監督員の許可を得ること。

4．工事施工について

⑴　契約書18条第1項第1号から5号に係る設計図書の照査を行い、監督員の確認を受けて施工を行うこと。

⑵　請負者は、工事着手に先立ち、現場付近の地元住民等に対する周知、説明、説得等を行い、トラブルの生じないよう努めること。

⑶　工事による既設構造物の破損については、未然に防止するよう予め十分調査をし、また、支障を及ぼさないよう相当の防護工を施工しなければならない。なお、誤って損傷を与えた場合は、請負人の責任において復旧しなければならない。調査に際しては、記録保存の必要を認めた場合は写真撮影、測量等を行わなければならない。

⑷　工事着手前に、可児市基準点（世界測地系）を用い、境界（座標）を確認すること。また、特に指示しない限り、構造物を官民境界とするため、官民境界と構造物の位置を示した図面等にて施工した構造物が民地を侵していないことを報告すること。

⑸　施工区間と現道との取付については、交通の支障とならないよう充分留意すること。

⑹　必要に応じ交通整理員を配置し、安全を期さなければならない。また、夜間の安全確保についても十分な対策を施すこと。

5．工事保険について

本工事において、発注者、請負者及び全下請人を被保険者として、工事着手から工事目的物の引渡しまでの期間について、賠償責任保険（保険対象：第三者に与えた損害）及び工事保険（保険対象：工事目的物、工事材料及び仮設物等）に加入するものとする。

6．ワンデーレスポンスの取組について

⑴　この工事は、ワンデーレスポンス実施対象工事です。
「ワンデーレスポンス」とは受注者からの質問、協議、報告、承諾願、立会願等への回答は、基本的に「その日のうち」に回答するよう対応することです。ただし、即日回答が困難な場合は、いつまでに回答が必要なのかを受注者と協議のうえ、回答期限を設けるなど、何らかの回答を「その日のうち」にすることとする。

⑵　実施にあたっては、可児市工事監督におけるワンデーレスポンス実施要領に基づき実施する。

⑶　受注者は工事施工中において、問題が発生した場合や計画工程と実施行程を比較照査し、差異が生じた場合は速やかに監督員へ報告すること。

⑷　受注者は、施工計画書に基づいて適正な計画工程を作成し、工事の先々を予見しながら、施工するものとする。

7．電子納品について

「岐阜県電子納品要領」等に基づき、電子納品を行うこと。なお、電子納品の内容については、監督員と事前に協議し、決定すること。

8．暴力団等による不当介入における通報義務について

⑴　受注者は、契約の履行に当たって、暴力団又は暴力団員等から、事実関係及び社会通念等に照らして合理的な理由が認められない不当若しくは違法な要求又は契約の適正な履行を妨げる妨害を受けたときは、警察へ通報するとともに、可児市が行う契約からの暴力団排除に関する措置要綱（平成22年可児市訓令甲第47号）に定める様式第9号により可児市に報告しなければならない。なお、通報･報告がない場合は、可児市建設工事請負契約に係る指名停止措置要領に基づき、指名停止等の措置を行うことがある。

⑵　受注者は、暴力団又は暴力団員等による不当介入を受けたことにより、履行期間内に工事等を完了することができないときは、発注者に履行期間の延長変更を請求することができる。

9．その他

⑴　新築消防車庫建物は原則として年末夜警までに完成すること。

⑵　既設消防車庫は新築消防車庫完成後（引っ越し完了後）から解体すること。

⑶　道路･水路改良工事は近隣の稲作に支障が無い時期（稲刈り後）に施工すること。

その他図面特記仕様書による。

記号	工　事　名　称	摘　　要	数　量	単位	単　　価	金　　額	備　　考
	可児市消防団消防車庫第4分団第1部新築工事						
A	建築工事		1.0	式			
E	電気設備工事		1.0	式			
M	機械設備工事		1.0	式			
I	直接工事費　　計		1.0	式			
II	共通仮設費	(共通仮設積上分を含む)	1.0	式			
	純工事費　　計						
III	現場管理費		1.0	式			
	工事原価　　計						
IV	一般管理費等負担額		1.0	式			
	工事価格　計						
V	消費税相当額		1.0	式			
	総　合　計						

名　　称		仕　　様	数　量	単位	単　価	金　　額	摘　　要
A	建築工事						
A-1	直接仮設工事		1	式			
A-2	土工事･地業工事		1	式			
A-3	鉄筋工事		1	式			
A-4	コンクリート･型枠工事		1	式			
A-5	鉄骨工事		1	式			
A-6	ALC工事		1	式			
A-7	防水工事		1	式			
A-8	木工事		1	式			
A-9	屋根及び樋工事		1	式			
A-10	左官工事		1	式			
A-11	建具工事		1	式			
A-12	ガラス工事		1	式			
A-13	塗装工事		1	式			
A-14	内装工事		1	式			
A-15	雑工事		1	式			
A-16	外構工事		1	式			
A-17	解体撤去工事		1	式			

	名　　称	仕　　様	数　量	単位	単　価	金　　額	摘　　要
	計						

	名　　称	仕　　様	数　量	単位	単　価	金　　額	摘　　要
A-1	直接仮設工事						
	やりかた		46.8	㎡			
	墨出し	躯体･仕上共	93.6	㎡			
	外部足場	枠組本足場	250	㎡			
	内部足場	脚立足場	93.6	㎡			
	養生		93.6	㎡			
	清掃･片付け(施工中)		93.6	㎡			
	竣工時清掃		93.6	㎡			
	災害防止　水平	安全ネット	46.8	㎡			
	災害防止　垂直	グリーンネット	250	㎡			
	計						

名　　称		仕　　様	数　量	単位	単　価	金　　額	摘　　要
A-2	土工事･地業工事						
	根切	機械	59.2	m3			
	すきとり	機械	7.0	m3			
	埋め戻し	根切土使用	40.6	m3			
	発生土処分（再利用）	道路、水路改良部 埋戻しに利用	18.6	m3			
	砕石敷き	RC40-0	8.2	m3			
	防湿シート	ポリエチレンシートt=0.15	46.8	㎡			
	機械運搬費		1	式			
	柱状地盤改良	機械式攪拌深層混合処理工法	1	式			
	計						

	名　　称	仕　　様	数　量	単位	単　価	金　　額	摘　　要
A-3	鉄筋工事						
	異形鉄筋　D10	SD295A	0.16	t			
	〃　　D13	SD295A	0.86	t			
	〃　　D19	SD345	0.31	t			
	溶接金網敷込	6.0φ　＃150	46.8	㎡			
	鉄筋加工組立		1.33	t			
	材料運搬		1.33	t			
	計						

名　　称		仕　　様	数　量	単位	単　価	金　　額	摘　　要
A-4	コンクリート･型枠工事						
	捨てコンクリート	FC=18N　スランプ12cm	0.9	m3			
	土間コンクリート	FC=18N　スランプ15cm	12.1	m3			
	基礎･地中梁コンクリート	FC=21N　スランプ18cm	15.9	m3			
	2階スラブコンクリート	FC=18N　スランプ15cm	5.5	m3			
	コンクリート打設手間	ポンプ車損料を含む	1	式			
	普通型枠		37.8	㎡			
	打放型枠		31.7	㎡			
	型枠運搬		69.5	㎡			
	計						

	名　　称	仕　　様	数　量	単位	単　価	金　　額	摘　　要
A-5	鉄骨工事						
	角形鋼管	BCR295 □-200×200×9.0	1.25	t			
	〃	BCR295 □-200×200×6.0	0.67	t			
	〃	STKR400 □-100×100×3.2	0.07	t			
	H形鋼	SS400 H-350×175×7×11	1.61	t			
	〃	SS400 H-300×150×6.5×9	0.21	t			
	〃	SS400 H250×125×6×9	0.85	t			
	〃	SS400 H200×100×5.5×8	0.13	t			
	〃	SS400 H198×99×4.5×7	0.03	t			
	〃	SS400 H-150×75×5×7	0.13	t			
	山形鋼	SS400 L-50×50×6	0.07	t			
	リップ溝形鋼	SSC400 C-100×50×20×2.3	0.89	t			
	鋼管	STK400 42.7φ×2.3	0.02	t			
	平鋼	FB-45×4.5	0.02	t			
	鋼板	SN400C PL-19	0.12	t			
	〃	SN400C PL-16	0.10	t			
	〃	SN400C PL-12	0.06	t			
	〃	SN400B PL-9	0.29	t			
	〃	SN400B PL-6	0.05	t			

	名　　称	仕　　様	数　量	単位	単　価	金　　額	摘　　要
	〃	SS400 PL-4.5	0.05	t			
	縞鋼板	C.PL-6.0	0.27	t			
	ブレース丸鋼	M16	0.07	t			
	アンカーボルト	M16･L=400	6	本			
	高力ボルト	HTB　S-10　M20	294	本			
	〃	HTB　S-10　M16	248	本			
	中ボルト	M12	125	本			
	ターンバックル	M16用	12	箇所			
	ベースパック	20-09R　施工費共	6	箇所			
	デッキプレート	QL99-50-1.2同等品	0.61	t			
	工場溶接		363	m			
	工場加工組立		7.82	t			
	工場塗装		254	㎡			
	超音波探傷試験	自主検査	124	箇所			
	〃	第三者試験	37	箇所			
	鉄骨運搬		7.82	t			
	現場建て方		7.82	t			
	HTB本締め		7.82	t			
	アンカーボルト据付	M16	6	本			

	名　　称	仕　　様	数　量	単位	単　価	金　　額	摘　　要
	柱下均しモルタル	間柱	2	箇所			
	デッキプレート敷込		41.5	㎡			
	建方用揚重機		1	式			
	計						

名　　称		仕　　様	数　量	単位	単　価	金　　額	摘　　要
A-6	ALC工事						
	外壁ALC版	t100　平パネル 縦張り　免震工法（DR構法）	151.0	㎡			
	L型コーナー	350×350	24.6	m			
	副資材	DR構法用金物	151.0	㎡			
	通しアングル	L-65×65×6	55.2	m			
	開口アングル	L-65×65×6	34.8	m			
	ロックウール充填		43.2	m			
	ウレタンシーリング	外部版間のみ	151.0	㎡			
	斜め切断		12.0	m			
	現場切断加工費		151.0	㎡			
	荷取り手間		151.0	㎡			
	荷揚重機		151.0	㎡			
	電源	三相200V	1	式			
	残材処分		151.0	㎡			
	計						

名　　称		仕　　様	数　量	単位	単　価	金　　額	摘　　要
A-7	防水工事						
	シーリング	ポリウレタン系 PU-2　15×10	131.0	m			
	計						

名　　称		仕　　様	数　量	単位	単　価	金　　額	摘　　要
A-8	木工事						
	幅木	H=75	34.7	m			
	荷摺木	H=75	11.9	m			
	腰見切	H=25	4.9	m			
	天井廻り縁	30×30	6.5	m			
	壁合板　t＝5.5	F☆☆☆☆	12.9	㎡			
	壁合板　t＝12.0	F☆☆☆☆　掲示板下地	3.6	㎡			
	天井合板　t＝4.0	F☆☆☆☆	2.5	㎡			
	壁　出隅部見切	30×30	2.7	m			
	物入　中棚2段	W=750、W=600	1	式			
	便所　棚	W=205、L=1510	1	式			
	待機室　棚	W=600、D=300	1	式			
	計						

	名　　称	仕　　様	数　量	単位	単　価	金　　額	摘　　要
A-9	屋根及び樋工事						
	屋根カラーガルバリウム鋼板瓦棒葺	ｴﾊﾞｰﾙｰﾌたてひら同等品 t=0.6	78.2	㎡			
	軒先唐草	カラーガルバリウム鋼板t=0.6	19.2	m			
	けらば唐草	カラーガルバリウム鋼板t=0.6	16.3	m			
	軒先化粧キャップ		19.2	m			
	鼻隠し･けらば化粧パネル	カラーガルバリウム鋼板t=0.8 下地共	35.5	m			
	野地板硬質木片セメント板	t=18.0	78.2	㎡			
	同上下地防水シート	アスファルトルーフィング940	78.2	㎡			
	雪止アングル	ステンレス製　雪止金具共	19.2	m			
	棟包み鋼板	カラーガルバリウム鋼板t=0.6	9.6	m			
	同上下地金物		56	箇所			
	軒樋	塩ビ製角樋120 吊金物　ステンレス製@600共	19.2	m			
	飾り集水器	カラー	4	箇所			
	竪樋	硬質塩ビ製75φ　カラー 掴み金物　ステンレス製@900共	29.8	m			
	エルボ	硬質塩ビ製φ75　カラー	8	箇所			
	荷揚･運搬費		1	式			
	アルミ製軽量ユニット庇	D=600　W=1,200	1	式			
	計						

名　　称		仕　　様	数　量	単位	単　価	金　　額	摘　　要
A-10	左官工事						
	床コンクリート金こて押さえ	車庫･2階	88.7	㎡			
	モルタル木こて　タイル下地	便所	2.1	㎡			
	幅木モルタル金こて　H=250	車庫	16.1	㎡			
	幅木モルタル木こて　タイル下地	便所	1.8	㎡			
	幅木コンクリート打放面補修		9.0	㎡			
	床　磁器質45角タイル	便所	1.9	㎡			
	幅木　磁器質45角タイル	便所	1.5	㎡			
	ステンレス製ノンスリップ	階段	0.9	m			
	建具周囲モルタル詰	外部	33.5	m			
	計						

名　　称		仕　　様	数　量	単位	単　価	金　　額	摘　　要
A-11	建具工事						
	鋼製オーバースライドドアー	OD-1 W3900×H2850	1	箇所			
	鋼製片開き扉	AD-1 W750×H2000	1	箇所			
	アルミ製片開き扉	AD-2 W600×H1900	1	箇所			
	アルミ製引違い戸	AD-3 W1700×H2000	1	箇所			
	アルミ製片引き戸	AD-4 W2120×H2000	1	箇所			
	ガラリ付アルミ製突出し窓	AW-1 W500×H960	2	箇所			
	アルミ製引違い窓	AW-2 W1700×H1500	1	箇所			
	〃	AW-3 W1700×H1200	2	箇所			
	〃	AW-4 W1700×H900	1	箇所			
	計						

名　　称		仕　　様	数　量	単位	単　価	金　　額	摘　　要
A-12	ガラス工事						
	型板ガラス	t4.0　清掃共	1.3	㎡			
	フロート板ガラス	t5.0　清掃共	10.6	㎡			
	ガラス留シーリング	SR-1	113.0	m			
	計						

名　　称		仕　　様	数　量	単位	単　価	金　　額	摘　　要
A-13	塗装工事						
	外壁　防水型複層仕上塗材	アクリルゴム系 スチップル･ローラー工法	151.0	㎡			
	同上　下地調整材	C-1	151.0	㎡			
	軒天 合成樹脂エマルションペイント	EP　B種	27.9	㎡			
	内壁　防水型複層仕上塗材	アクリルゴム系 スチップル･ローラー工法	36.2	㎡			
	同上　下地調整材	C-1	36.2	㎡			
	鉄骨面 合成樹脂調合ペイント	OP　B種	23.3	㎡			
	同上　錆止塗装	B種	23.3	㎡			
	手摺面 合成樹脂調合ペイント	OP （細幅）　B種　錆止共	15.0	m			
	ボード面 合成樹脂エマルションペイント	EP　B種	100.0	㎡			
	木製幅木面 クリアーラッカー	CL （細幅）　下地処理共　3回	34.7	m			
	荷摺木 クリアーラッカー	CL （細幅）　下地処理共　3回	11.9	m			
	見切木 クリアーラッカー	CL （細幅）　下地処理共　3回	7.6	m			
	浸透性ｺﾝｸﾘｰﾄ強化材塗布		44.5	㎡			
	計						

名　　称		仕　　様	数　量	単位	単　価	金　　額	摘　　要
A-14	内装工事						
	床長尺塩ビシート	t2.5	40.3	㎡			
	壁化粧珪酸カルシウム板	t6.0	16.6	㎡			
	壁石膏ボード	t12.5　継目処理共	100.0	㎡			
	壁シージング石膏ボード	t9.5	48.7	㎡			
	壁掲示板クロス		3.6	㎡			
	天井化粧石膏ボード	t9.5	82.8	㎡			
	軒天珪酸カルシウム板	t6.0　目透し張	27.9	㎡			
	軽鉄壁下地	65形　@300	126.0	㎡			
	壁開口部補強	2000×2000程度	3	箇所			
	〃	1000×2000程度	7	箇所			
	軽鉄天井下地	19形	85.3	㎡			
	〃	25形	27.9	㎡			
	天井開口部補強	19形　600角程度	1	箇所			
	塩ビ製廻り縁	突付	70.9	m			
	下り壁塩ビ製見切		8.3	m			
	断熱材敷込み（2階）	24kg/m3品 グラスウールt100	46.8	㎡			
	床ワックス掛け		40.3	㎡			

	名　　称	仕　　様	数　量	単位	単　価	金　　額	摘　　要
	計						

名　　称		仕　　様	数　量	単位	単　価	金　　額	摘　　要
A-15	雑工事						
	スチール棚	4100×500×2500 棚板(合板t15.0)･塗装共	1	箇所			
	〃	5375×500×2500 棚板(合板t15.0)･塗装共	1	箇所			
	〃	1560×350×2500 棚板(合板t15.0)･塗装共	1	箇所			
	ステンレス製一槽シンク	450×600	1	箇所			
	防火服掛　ステンレス製フック	20箇所	1	式			
	〃　　〃	4箇所	1	式			
	ピクチャーレール	アルミ製　フック共	14.2	m			
	横型ブラインド	スラット25 AW-2　1700×1500	1	箇所			
	〃	スラット25 AW-3　1700×1200	2	箇所			
	〃	スラット25 AW-4　1700×900	1	箇所			
	天井点検口	600角　アルミ枠	1	箇所			
	流し台	L=1200　取付共	1	箇所			
	吊戸棚	L600×H700　取付共	1	箇所			
	換気フード	L=600　取付共	1	箇所			
	サイド台	W180×D550　天板ステンレス張	1	箇所			
	ステンレス製流し台水切カバー	L=1200	1	箇所			
	建物名板	200角カルプ文字･17文字	1	箇所			
	消防団紋章	250φ　セラミック製銀めっき	1	箇所			

	名　　称	仕　　様	数　量	単位	単　価	金　　額	摘　　要
	床見切アングル	L-50×50×6	1.0	式			
	計						

	名　　称	仕　　様	数　量	単位	単　価	金　　額	摘　　要
A-16	外構工事						
	＜敷地内＞						
	地先境界ﾌﾞﾛｯｸ 120*120*600		33.0	m			
	浸透性アスファルト舗装	再生ｸﾗｯｼｬｰﾗﾝt50浸透性ｱｽﾌｧﾙﾄt50、路床整正共	242.5	㎡			
	密粒アスファルト舗装	再生ｸﾗｯｼｬｰﾗﾝt50、密粒ｱｽﾌｧﾙﾄt50、路床整正共	602.2	㎡			
	駐車区画線	溶融式W=100	40.0	m			
	ホース乾燥塔	手動ウインチ取付共･基礎共	1	式			
	北面ｽﾛｰﾌﾟｺﾝｸﾘｰﾄL型擁壁		1	式			
	敷地境界北･西面及びｽﾛｰﾌﾟ部盛土		1	式			
	南面すきとり		1	式			
	＜道路･水路改良＞						
	蜜粒アスファルト舗装	再生ｸﾗｯｼｬｰﾗﾝt100、密粒ｱｽﾌｧﾙﾄt50、路床整正共	116.0	㎡			
	重力擁壁		1	式			
	ﾋｭｰﾑ管埋設工事		1	式			
	集水枡（現場打）		2	箇所			
	既設土側溝掘削･埋戻し		1	式			
	RVS側溝工事		1	式			
	ガードレール		1	式			
	西面道路既設埋設管撤去工事		1	式			

	名　　称	仕　　様	数　量	単位	単　価	金　　額	摘　　要
	計						

A-17	解体撤去工事						
	既存消防車庫	RC造　平屋建て	1	式			
	既設やぐら		1	式			
	ｱｽﾌｧﾙﾄ舗装撤去		1	式			
	埋め戻し、整地		1	式			
	既設給排水配管撤去		1	式			
	既設電気配線撤去		1	式			
	発生材積みこみ		1	式			
	発生材運搬		1	式			
	発生材処分		1	式			
	足場･養生費	防音ｼｰﾄ共	1	式			
	重機回送費		1	式			
	計						

名　　称		仕　　様	数　量	単位		金　　額	摘　　要
E	電気設備工事						
E-1	幹線設備工事		1	式			
E-2	電灯コンセント設備工事		1	式			
E-3	弱電設備工事		1	式			
E-4	空調換気設備工事		1	式			
	計						

名　　称		仕　　様	数　量	単位	単　価	金　　額	摘　　要
E	電気設備工事						
E-1	幹線設備工事		1	式			
E-2	電灯コンセント設備工事		1	式			
E-3	弱電設備工事		1	式			
E-4	空調換気設備工事		1	式			
	計						

	名　　称	仕　　様	数　量	単位	単　価	金　　額	摘　　要
E-1	幹線設備工事						
	合成樹脂可とう電線管　(隠蔽)	PF-16	3.0	m			
	耐衝撃硬質ビニル電線管(露出)	HIVE-28	4.0	m			
	エントランスキャップ	VE-28	1	個			
	電線ケーブル　(管内)	EM-CET 14sq	4.0	m			
	〃　　(隠蔽コロガシ)	〃	10.0	m			
	電線ケーブル　(管内)	EM-IE 5.5sq	3.0	m			
	〃　　(隠蔽コロガシ)	〃	10.0	m			
	接地棒　10φ　L=1,500	3連結	1	組			
	電灯盤 L-1	樹脂製　埋込型	1	面			
	電力計取り付け板	樹脂製	1	枚			
	計						

名　　称		仕　　様	数　量	単位	単　価	金　　額	摘　　要
E-2	電灯コンセント設備工事						
	電線ケーブル（隠蔽コロガシ）	EM-EEF 1.6-2C	113.0	m			
	〃　　（　〃　）	EM-EEF 1.6-3C	25.0	m			
	〃　　（　〃　）	EM-EEF 2.0-2C	32.0	m			
	〃　　（　〃　）	EM-EEF 2.0-3C	77.0	m			
	〃　　（　〃　）	EM-EEF 1.6-2C～2	11.0	m			
	樹脂製　アウトレットボックス	OB-44　小判塗代カバー付	27	個			
	照明器具　A　直付け	FSA-41038F　同等品･材工共	3	台			
	〃　　B　直付け	FSA42001F　〃	3	台			
	〃　　C　壁付け	HW725　〃	1	台			
	〃　　D　壁付け	HW275KT　〃	1	台			
	〃　　E　丸ダウン	NFM41726　〃	2	台			
	〃　　F　丸ダウン	NFK21786K　〃	1	台			
	〃　　G　直付け	NNF20293　〃	1	台			
	〃　　H　直付け	YA55849+YK25153　〃	1	台			
	〃　　I　直付け	YA53849+YK25153　〃	1	台			
	埋込スイッチ　　新金属プレート付	1P15A×1	1	組			
	〃　　〃	3W15A ×1	2	組			

	名　　称	仕　　様	数　量	単位	単　価	金　　額	摘　　要
	埋込スイッチ　新金属プレート付	1P15A×2+PL	1	組			
	〃　　〃	1P15A×6+PL	1	組			
	埋込コンセント　新金属プレート付	2P15A×1	4	組			
	〃　　〃	2P15A×2	10	組			
	〃　　〃	2P15A×1E	1	組			
	〃　　〃	2P15A ×2E	1	組			
	〃　　〃	2P20AE	1	組			
	埋込防水コンセント	2P15A×1E	2	個			
	自動点滅器　埋込	100V3A	2	個			
	計						

名　　称		仕　　様	数　量	単位	単　価	金　　額	摘　　要
E-3	弱電設備工事						
	合成樹脂可とう電線管（隠蔽）	PF-16	19.0	m			
	硬質ビニル電線管（隠蔽）	VE-16	1.0	m			
	ターミナルキャップ	VE-16	2	個			
	大型テレホンガイド	新金プレート付	2	組			
	樹脂アウトレットボックス	OB-44 小判塗代付	2	個			
	保安器収納箱	400*600*120	1	面			
	計						

	名　　称	仕　　様	数　量	単位	単　価	金　　額	摘　　要
E-4	空調換気設備工事						
	換気扇　EF-1	XFY-25EE5/43　同等品　材工共	1	台			
	〃　E-2	FY-25EM5　〃	1	台			
	換気扇　E-3	XFY-20EE5/43　同等品　材工共	1	台			
	〃　E-4	FY-08PDUK8　〃	2	台			
	〃　OA-1	FY-MNX042　〃	1	台			
	不燃枠25cm用		1	個所			
	不燃枠20cm用		1	個所			
	空調設備機器	RAS-632JDR同等品 冷房6.3kW/暖房7.1kW	1	個所			
	同上取付手間	配管･化粧ﾊﾟｲﾌﾟ、室外機架台共	1	個所			
	計						

名　　称		仕　　様	数　量	単位	単　価	金　　額	摘　　要
M	機械設備工事						
M-1	給水設備工事		1	式			
M-2	排水設備工事		1	式			
M-3	衛生器具設備工事		1	式			
M-4	ガス設備工事		1	式			
	計						

名　　称		仕　　様	数　量	単位	単　価	金　　額	摘　　要
M	機械設備工事						
M-1	給水設備工事		1	式			
M-2	排水設備工事		1	式			
M-3	衛生器具設備工事		1	式			
M-4	ガス設備工事		1	式			
	計						

名　　称		仕　　様	数　量	単位	単　価	金　　額	摘　　要
M-1	給水設備工事						
	水道用耐衝撃性塩化ビニル管	HIVP 20　　(屋外埋設)	28.0	m			
	〃	HIVP 20　　(一般)	2.0	m			
	硬質塩化ビニルライニング鋼管	SGP-VB 20　　(一般)	10.0	m			
	保温工事	ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝﾌｨﾙﾑ保温筒 ステンレスラッキング仕上	5.0	m			
	保温工事	ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝﾌｨﾙﾑ保温筒 隠蔽部	7.0	m			
	土工事		1	式			
	量水器等設置	量水器13φ市貸与品･申請共	1	式			
	計						

	名　　称	仕　　様	数　量	単位	単　価	金　　額	摘　　要
M-2	排水設備工事						
	硬質塩化ビニル管　(雨水)	VP100　　(屋外埋設)	20.0	m			
	〃　　(汚水)	〃　　(　〃　)	23.0	m			
	〃　　(　〃　)	VP75　　(　〃　)	4.0	m			
	〃　　(　〃　)	VP50　　(　〃　)	5.0	m			
	〃　　(　〃　)	VP75　　(便所)	1.0	m			
	〃　　(　〃　)	VP50　　(　〃　)	2.0	m			
	〃　　(　〃　)	VP50　　(一般)	7.0	m			
	排水金物	T3A-50	1	個			
	雨水小口径桝	90L 100-150　深さ400程度	2	組			
	〃	90Y100-150　深さ400程度	3	組			
	汚水小口径桝	90L 100-150　深さ400程度	2	組			
	〃	90Y100-150　深さ400程度	4	組			
	防露工事	ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝﾌｨﾙﾑ保温筒 ステンレスラッキング仕上	4.0	m			
	防露工事	ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝﾌｨﾙﾑ保温筒 隠蔽部	3.0	m			
	土工事		1	式			
	公共桝設置	申請共	1	式			
	計						

名　　称		仕　　様	数　量	単位	単　価	金　　額	摘　　要
M-3	衛生器具設備工事						
	洋風便器	GBC-110STU DT-C182U同等品 ｳｵｼｭﾚｯﾄ付･付属品一式共　材工共	1	組			
	収納付紙巻器	TSF-211同等品　材工共	1	個所			
	タオル掛け	KF-71同等品　材工共	1	個所			
	泡沫自在水栓	LF-12F-13同等品　材工共	2	個所			
	散水栓	LF-13G-13-CV 同等品　材工共 (B-3)共	1	個所			
	洗濯機用水栓	LF-35-13-CV同等品　材工共	1	個所			
	洗濯ﾊﾟﾝ	TP-32同等品　材工共	1	組			
	計						

名　　称		仕　　様	数　量	単位	単　価	金　　額	摘　　要
M-4	ガス設備工事						
	ガス給湯器	RUS-V51YT 同等品　材工共	1	台			
	配管用炭素鋼々管(白ガス官)	SGP 20　(屋外架空)	7.0	m			
	〃　　〃	〃　(一般)	2.0	m			
	集合装置		1	個			
	単口ガスコック		1	個			
	ボールコック		1	個			
	ガスフレキ	300L	1	本			
	塗装工事		4.0	m			
	計						

	名　　称	仕　　様	数　量	単位	単　価	金　　額	摘　　要
Ⅱ	共通仮設費積上分						
	交通誘導員　A		1	式			
	交通誘導員　B		1	式			
	化学物質の濃度測定	ﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ･ﾄﾙｴﾝ･ｷｼﾚﾝ･ｴﾁﾙﾍﾞﾝｾﾞﾝ･ｽﾁﾚﾝの5種　1箇所測定	1	式			
	計						

特記仕様書
（条件明示）

工事名　可児市消防団消防車庫第４分団第１部新築工事

下記項目、事項のうちレ印該当欄は、工事施工にあたって制約等をうけることになるので明示する。
なお、明示事項に変更が生じた場合及び明示されていない制約等が発生したときは、市と協議し適切な処置を講ずるものとする。

施工条件

明示項目		明示事項	制約条件等
工程	☐	1．関連する別途発注工事あり	☐ A．工種（　　）
			☐ B．期間（　　～　　）
	☐	2．他機関協議による工程条件あり	☐ A．工種（　　）
			☐ B．期間（　　～　　）
	☑	3．他機関との協議状況	☑ A．協議済機関及び内容（　防災安全課　）
			☐ B．未協議機関及び内容（　　）
	☐	4．占用許可状況（　　）	☐ A．許可済
			☐ B．申請中
	☑	5．建築確認	☐ A．許可済
			☑ B．申請中
	☐	6．河川区域、保全区域内作業あり	☐ A．許可済
			☐ B．申請中
	☐	7．文化財協議（教育文化財課）	☐ A．協議済内容（　　）
			☐ B．未協議内容（　　）
	☑	8．その他	☑ A．その他（　新築消防車庫建物を年末夜警までに完成すること　）
用地	☐	1．用地補償物件撤去まで着工制限あり	☐ A．区間（NO　　～NO.　　）
			☐ B．着工見込時期（　　）
			☐ C．内容（　　）
	☐	2．工事用地の未買収	☐ A．場所（　　）
			☐ B．処理の見込み時期　　）
			☐ C．未買収地への立ち入り可否　　）
	☐	3．仮設ヤードの有無	☐ A．官有地
			☐ B．民有地
			☐ C．その他（　　）
			☐ D．別途協議
	☐	4．その他	☐ A．その他（　　）
公害対策	☑	1．施工方法の制限あり	☐ A．騒音（　　）
			☐ B．振動（　　）
			☑ C．水質（　近隣の稲作等に支障がないよう配慮すること　）
			☐ D．その他（　　）
	☐	2．事業損失防止に関する調査あり	☐ A．調査の項目（　　）
	☐	3．環境影響調査あり	☐ A．生物・植物調査あり
	☐	4．その他	☐ A．アスベスト含有材あり
			☐ B．フロン回収あり
			☐ C．その他（　　）
安全対策	☐	1．交通規制あり	☐ A．全面通行止め
			☐ B．片側通行止め
			☐ C．時間制限あり（　　）
	☐	2．通学路あり	☐ A．迂回路あり
			☐ B．仮設歩道必要
	☑	2．交通整理員	☑ A．区間（道路・水路改良工事）配置人員　2　人/日
			☐ B．区間（　　）配置人員　　人/日
			☐ C．区間（NO　　～　　）配置人員　　人/日
			☐ D．交替要員あり
	☐	3．鉄道等の近接作業制限あり	☐ A．工法制限あり（　　）
			☐ B．作業時間制限あり　　）
	☐	4．バス路線（運行者との協議）	☐ A．協議済内容（　　）
			☐ B．未協議内容（　　）
	☐	5．その他	☐ A．その他（　　）
工事用道路	☐	1．一般道路（搬入路）の使用制限	☐ A．搬入経路指定あり
			☐ B．時間帯制限あり
	☐	2．仮設道路の設置条件あり	☐ A．一般交通供用あり
			☐ B．安全施設必要（　　）
			☐ C．路面工（　　）
			☐ D．工事完了後存続又は撤去（　　）
			☐ E．構造（　　）
			☐ F．用地（借地）
			☐ G．用地（公用地）
			☐ H．用地（その他）
	☐	3．その他	☐ A．その他（　　）
指定仮設備	☐	1．仮設物の指定又は一部指定あり	☐ A．工種（　　）
	☐	2．仮設構造物の転用、兼用あり	☐ A．工種（　　）
			☐ B．内容（　　）
	☐	3．その他	☐ A．その他（　　）

明示項目		明示事項	制約条件等
建設発生土建設（産業）廃棄物関係	☑	1．発生土砂等の有効利用、適正処理あり［場所が未確定］	☑ A．運搬距離（　7.0　Km
			☐ B．投棄料計上あり
			☐ C．整地（押土、敷均、締固等）必要
			☐ D．整地（押土）必要
	☐	2．発生土砂等の有効利用、適正処理あり［自工事へ流用］	☐ A．盛土、埋戻
			☐ B．ストックヤード利用あり（　　）
			☐ C．仮置場必要（　　）
			☐ D．運搬距離（　　Km）
			☐ E．仮置場の用地借上費計上あり
	☐	3．発生土砂等の有効利用、適正処理あり［他工事へ流用、または処分地指定］	☐ A．場所（
			☐ B．盛土、埋戻
			☐ C．整地（押土、敷き均し、転圧）あり
			☐ D．ストックヤード利用あり（　　）
			☐ E．仮置場必要（　　）
			☐ F．運搬距離（　　Km）
			☐ G．仮置場の用地借上費計上あり
			☐ H．処分料計上あり
	☐	4．発生土砂等の有効利用、適正処理あり［他工事からの流用］	☐ A．他工事名（
			☐ B．請負者運搬あり（運搬距離
			☐ C．盛土、埋め戻し
			☐ D．ストックヤード利用あり（　　）
			☐ E．仮置場必要（　　）
			☐ F．仮置場の用地借上費計上あり
	☐	5．産業廃棄物の処理条件あり［特別管理産業廃棄物］	☐ A．種類（　　）
			☐ B．場所（　　）
			☐ C．中間処理施設までの運搬距離（　　Km）
			☐ D．処理費計上あり
	☐	6．浄化槽、汲み取り便槽の取壊し処分あり	☐ A．槽内洗浄必要
			☐ B．可児市環境課と打合せの必要あり
	☑	7．「可児市が発注する公共工事から発生する産業廃棄物適正処理について」に基づく提出・提示書類あり	☑ A．産業廃棄物管理票（マニフェスト）
			☑ B．建設発生土処理地の関係図書
			☑ C．クレダス
			☐
工事支障物件	☑	1．占用支障物件あり（電気）	☑ A．移設時期（H　27　年　10　月頃）
			☐ B．移設時期（別途協議）
	☐	2．占用支障物件あり（電話）	☐ A．移設時期（H　　年　　月頃）
			☐ B．移設時期（別途協議）
	☐	3．占用支障物件あり（水道）	☐ A．移設時期（H　　年　　月頃）
			☐ B．移設時期（別途協議）
	☐	4．占用支承物件あり（下水道）	☐ A．移設時期（H　　年　　月頃）
			☐ B．移設時期（別途協議）
	☐	5．占用支障物件あり（ガス）	☐ A．移設時期（H　　年　　月頃）
			☐ B．移設時期（別途協議）
	☐	6．占用支障物件あり（ﾏﾝﾎｰﾙ蓋、仕切り弁蓋等）	☐ A．管理者による高さ調整（　　）
			☐ B．請負者による高さ調整（　　）
	☐	7．占用支障物件あり（その他）	☐ A．移設時期　（　　）
			☐ B．移設時期　（別途協議）
	☐	8．その他	☐ A．その他（　　）
排水工関係	☐	1．濁水、湧水処理条件あり	☐ A．方法（　　）
	☐	2．その他	☐ A．その他（　　）
再生材使用及び溶融スラグ	☑	1．再生材使用指定あり	☐ A．RC
			☐ B．アスファルト再生合材（30%再生）
			☑ C．アスファルト再生合材（100%再生）
			☐ D．溶融スラグ使用あり（　　）
			☐ E．再生材を使用できない場合別途協議
	☐	2．その他	☐ A．その他（　　）
その他	☐	1．現場発生材あり	☐ A．品名（　　）
			☐ B．納入場所　　）
	☐	2．支給材あり	☐ A．品名（　　）
			☐ B．引渡し場所（　　）
	☐	3．イメージアップあり	☐ A．仮設費（　　）
			☐ B．安全費（　　）
			☐ C．営繕費（　　）
			☐ D．特別なイメージアップ　　）
	☐	4．その他	☐ A．その他（　　）

可児市消防団消防車庫第４分団第１部新築工事

図　面　リ　ス　ト			
番号	図 面 名 称	番号	図 面 名 称
Ａ-01	建築工事　特記仕様書	Ｓ-01	鉄骨構造仕様書
Ａ-02	求積図・現況図	Ｓ-02	デッキプレート合成スラブ設計・施工標準
Ａ-03	附近見取図・配置図	Ｓ-03	鉄骨柱脚仕様書
Ａ-04	面積表・地盤高算定表・法的開口面積算定表	Ｓ-04	使用構造材料及び施工方法等計画書
Ａ-05	仕上げ表	Ｓ-05	ボーリング柱状図
Ａ-06	平面図	Ｓ-06	基礎伏図・基礎リスト
Ａ-07	立面図・断面図	Ｓ-07	各階梁伏図
Ａ-08	矩計図	Ｓ-08	小屋組伏図・鉄骨詳細図
Ａ-09	階段詳細図	Ｓ-09	軸組図
Ａ-10	展開図		
Ａ-11	建具表	Ｅ-01	電気設備工事 特記仕様書
Ａ-12	ホース乾燥塔参考図	Ｅ-02	電気設備配置図・機器表・盤図
Ａ-13	外構平面図	Ｅ-03	電気設備平面図
Ａ-14	外構図１		
Ａ-15	外構図２	Ｍ-01	機械設備工事 特記仕様書
Ａ-16	外構図３	Ｍ-02	機械設備配置図・機器表・凡例
Ａ-17	解体図	Ｍ-03	機械設備平面図

建 築 工 事 特 記 仕 様 書

設計概要

１．工事名称	可児市消防団第４分団第１部消防車庫新築工事
２．工事場所	岐阜県可児市久々利字八幡前896-11・930-1
３．区域地域等	用途地域：無指定地域　　防火地域：指定なし
４．建物概要	
主要用途	消防用自動車車庫・詰所
工事種別	新築
構造・構造形式	鉄骨造　ラーメン構造
基礎	鉄筋コンクリート独立基礎
床面積	建築面積：46.80㎡　延床面積：93.60㎡

1章　一般共通事項

1．特記仕様書の適用範囲
本特記仕様書は共通仕様書を特記するもので、各工事及び関連工事において該当工事の記載事項を適用する。
尚本特記仕様書の運用については下記の項による。

ａ．項目は番号に○印を記入したものを適用する。
ｂ．項目内の種別には●印を記入したものを適用する。

2．工事共通仕様書
図面及び特記仕様書に記載なき事項は下記仕様書による。
● 国土交通大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書（最新版）」（建築工事編）、(電気設備工事編)、(機械設備工事編)
○ 建築家協会　「工事共通仕様書」
● 可児市　「可児市建設工事共通仕様書」

3．設計図などの優先順位
（１）質疑回答書　（４）設計図書
（２）現場説明書　（５）工事標準仕様書
（３）特記仕様書

4．疑義
本工事の設計図書に関する疑義は工事契約前に質疑回答書により確認する事。
尚設計図に記載なくとも意匠上・構造上当然必要と思われるものは監督員の指示により施工しなければならない。また軽微な変更による請負金額の増減は行わない。

5．現場に常備すべき図書。
請負者者は、工事期間中現場事務所に、工程表・工事費内訳明細書・各関連法令集。設計図書一式（原寸版青図製本１部・縮小版青図製本１部を含む）等本工事に関する書類一式を常時備えつける。

6．提出図書
工事着工前に設計図書の全てを、ポリステルベースＡ３版に縮小し、二つ折り製本を2部提出する。
工事着工時及び、完成時の提出書類は監督員の指示による。

7．施工図の作成
施工図を事前に作成し監督員に提出し、承諾を得る。

8．材料
原則として材料はＪＩＳ規格品とする。
建設材料の製造所、製品及び施工業者等は特記されたもの又は同等以上とする。ただし同等以上とする場合は、同等以上であることが確認できる資料を提出し、承諾を得ること。

9．材料試験
使用材料のうち監督員より指示あるものは、その成績表を提出、又は監督員の認める試験所で試験を行い、成績表を提出する。

10．定例打合せ会議
工事の円滑な進行を計るため、監督員の指示により工事期間中定期的に各工事責任者を招集し、打合せを行なうものとする。請負者は、定例打合せ会議々事録をとり、その都度監督員の承認を得るものとする。

11．発生材の処理等
発生材は、請負者の負担により構外に搬出し、建設副産物処理推進要綱、資源の有効な利用の促進に関する法律等（ラージサイクル法）その他関係法令等に従い適切に処理する。
再生資源利用促進計画書、再生資源利用計画書は可児市建設工事共通仕様書により、施工計画を含めて提出する。
また、作成にあたり建設リサイクルデータ統合システム『ＣＲＥＤＡＳ』を利用すること。
再生資源利用計画書　　土砂：１００㎥3以上
　　砕石類及びｱｽﾌｧﾙﾄ混合物：取り扱い工事全て
再生資源利用促進計画書　　建設発生土：１００㎥3以上
　　ｺﾝｸﾘｰﾄ･ｱｽﾌｧﾙﾄ塊・建設発生土の合計：取り扱い工事全て

12．官公署等への手続
工事完成までに必要な官公署等への手続は請負者にて遅滞なく行ない、それに伴う費用は請負者の負担とする。

13．工事保証
１）本工事実施にあたり、施工担当の専門業者としての善意注意管理又は努力を怠り、その為に事故、損害を生じた場合当該業者はそれを保証しなければならない。
2）本工事の保証期間は契約書によるものとする。

14．道路の維持管理
本工事請負者は工事完了まで常に道路の通行に支障のないよう清掃など維持管理に努め、損傷を与えた場合は請負者の責任により速やかに補修する。

15．工事表示板等
工事表示板、確認表示板、その他関係法令表示板等について大きさ、取付位置、書体、材質をあらかじめ監督員と協議しする。

16．施工中の検査
各工事において係員の指示する行程に達した時、係員の検査を受け承認後次の工事に移る。
建築主事並びに関係官公署の立合検査を必要とするものについて請負者は、係員と打合せの上手続きを経て検査日を決める。尚官公署検査官の指示事項は、設計図に図示なくとも請負者の負担にて速やかにその指示に従う。

17．工事写真
工事写真は下記により説明を付け工事写真帳に整理し提出する。
ａ．工事着手前　ｂ．各工事における施工中・施工後
ｃ．その他監督員の指示する個所

18．完成写真
工事完成時に監督員の指示する個所を撮影し説明を付けアルバムに貼り提出する。

19．完成図書
完成図の種類は、設計図全てとし、二つ折り製本及び縮小製本を提出する。部数は、監督員の指示による。
完成図の種類は、1.7.1によるほか監督員の指示による。
又、電子データとして完成図をＣＤ－Ｒに記録して提出する。
保全に関する資料には、設置年月・製造年月・メーカー・緊急連絡先・メンテナンス内容と間隔についての事項をを記載すること。
完成書類は、完成後長期保存保管する書類とその他の書類とに分類し、提出する。

20．工事実績情報の登録
請負者は、可児市建設工事共通仕様書により工事実績データの作成および登録(請負金額500万円以上の場合)をおこなう。
次に示す期限内に工事実績情報として、『工事カルテ』を作成し、監督職員の承諾を得て(財)日本建設情報総合センター工事情報実績登録システム(ＪＡＣＩＣ)の工事実績情報システム(ＣＯＲＩＮＳ)に登録すること。
また登録後、ＪＡＣＩＣが発行する『工事カルテ受領書』の写しを監督職員に提出すること。
受注時監督職員への提出期限は、契約締結後１０日以内とする。
完了時監督職員への提出期限は、施工完了後１０日以内とする。
なお、施工中に受注時登録データの内容に変更があった場合は、変更があった日から１０日以内に変更データを提出する。

21．化学物質を発散する建築材料等
本工事の建築内部に使用する建築材料等は、設計図に規定する所要の品質及び性能を有するものとし、次の１～５を満たすものとする。
１．合板、木質系ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ、構造用ﾊﾟﾈﾙ、集成材、単板積層材、ＭＤＦ、ﾊﾟｰﾃｨｸﾙﾎﾞｰﾄﾞ、その他の木質建材、ｳﾚﾀﾝ樹脂板、仕上塗材及び壁紙は、ﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞを発散しないか、発散が極めて少ないものとする。
２．保温材、緩衝材、断熱材はﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ及びｽﾁﾚﾝを発散しないか、発散が極めて少ないものとすること。
３．接着剤はﾌﾀﾙ酸ｼﾞ-n-ﾌﾞﾁﾙ及びﾌﾀﾙ酸ｼﾞ-2-ｴﾁﾙﾍｷｼﾙを含有しない難揮発性の可塑材を使用し、ﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ、ﾄﾙｴﾝ、ｷｼﾚﾝ、ｴﾁﾙﾍﾞﾝｾﾞﾝを発散しないか、発散が極めて少ないものとする。
４．塗料はﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ、ﾄﾙｴﾝ、ｷｼﾚﾝ、ｴﾁﾙﾍﾞﾝｾﾞﾝを発散しないか、発散が極めて少ないものとする。
５．１･３及び４の建築材料を使用して作られた家具、その他の什器等はﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞを発散しないか、発散が極めて少ないものとする。
また、設計図書に規定する『ﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞの放散量』は、次の通り。
規定対象外
１ＪＩＳ及びＪＡＳのＦ☆☆☆☆規格品
２建築基準法施行令第２０条の５第４項による国土交通省認定品
３下記表示のあるＪＡ規格品
ａ.非ﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ系接着剤使用
ｂ.接着剤等不使用
ｃ.非ﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ系接着剤及びﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞを発散しない材料使用
ｄ.ﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞを発散しない材料使用
ｅ.非ﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ系接着剤及びﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞを発散しない塗料使用
ｆ.非ﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ系接着剤及びﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞを発散しない塗料等使用
第三種
１ＪＩＳ及びＪＡＳのＦ☆☆☆☆規格品
２建築基準法施行令第２０条の５第３項による国土交通省認定品
３旧ＪＩＳのＥ0規格品
４旧ＪＡＳのＥC0規格品

22．化学物質の濃度測定
施工完了時に下記の揮発性有機化合物の屋内濃度を測定し、厚生労働省が定める指針値以下であることを確認し、監督職員に報告すること。
測定する室は、２階待機室　１箇所とする。(２４時間以上)
測定方法　：　パッシブ型測定法
対象物質　：　ﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ、ﾄﾙｴﾝ、ｷｼﾚﾝ、ｴﾁﾙﾍﾞﾝｾﾞﾝ、ｽﾁﾚﾝ

23．工事保険の加入
本工事において、発注者、請負者、全下請人を被保険者として、工事着手から工事目的物の引渡しまでの期間について、賠償責任保険(保険対象：第三者に与えた損害)及び火災保険(保険対象：建築物)に加入すること。

2章　仮設工事

1．仮設電気・水道等
仮設水道及び仮設電気は請負者の負担による。又仮設便所、仮設事務所を設置する。

2．足場・仮囲い
ａ．足場・さん橋・仮囲い等は、関係法令等に従い適切な材料・構造のものとする。
ｂ．設置した足場・さん橋等は別契約の関係請負者に無償で使用させる。

仮囲い：敷地内に工事関係者以外の侵入を防ぐ為、Ａ型バリケードで区画する。

3章　土工事

1．根切り
根切は、周辺の状況・土質・地下水の状態などに適した工法とし、土砂が崩壊しない様、関係法令等に従い適切な法をつけるか山止めを設ける。

2．建設発生土処分
・構外搬出　処分先：可茂陸砂利組合の指定する処分場
・可児市建設発生土処理基準、岐阜県埋め立て等の規制に関する条例及び岐阜県建設発生土管理基準に従って適切に処分をおこなう。
（土砂等採取元証明書等の提出）
根切工事中に土壌が汚染されていると思われる場合、監督員と協議をする。

4章　地業工事

1．設計図による。

5章　鉄筋工事

1．鋼材の種別は設計図による。

2．設備・電気工事により生ずる開口補強は建築工事とする。

6章　コンクリート工事

1．コンクリートの種別
コンクリートはＪＩＳ表示許可工場のレデーミクストコンクリートとする。

2．計画調合
調合管理強度は標準仕様書による構造体強度補正値(S)を加えた値とする。

7章　鉄骨工事

1．検査等
超音波探傷等の検査は構造特記仕様書による。

2．鋼材の種別は設計図による。

3．防錆塗料
さび落とし、油その他付着物を取除き下記塗料を塗る。
● ＪＩＳ　Ｋ　５６２５　１種又は２種　２回塗り
○ ＪＩＳ　Ｋ　５６２１　１種　２回塗り

8章　ブロック及びＡＬＣパネル工事

1．ＡＬＣ工事
ＡＬＣ工事はロッキングウォール工法とする。

9章　防水工事

1．シーリング材

種別	場所	
○ポリサルファイド系	サッシ廻り	○変成シリコン系　外壁水切り
●ポリウレタン系	外部	

10章　石工事

施工に先立ち見本品の提出、割付図を作成し監督員の提出し承諾を受ける。又施工後は充分な養生を行う。

11章　タイル工事

1．前章に同じ。

12章　木工事

1．材料
特記なき限りラワン材は使用してはならない。

2．設計図記入寸法の内、造成材・内法材は仕上寸法とし、構造材・下地材は挽き立寸法とする。

3．工事中に汚れ・傷等のおそれのある場合は充分な養生を行う。

13章　屋根及びとい工事

1．屋根材料はカラーガルバリウム鋼板とし原板の穴あきに対するメーカーの10年保証書を提出する。

2．その他の材料などは設計図による。

14章　金属工事

防せい塗料は鉄骨工事に同じとする。

15章　左官工事

1．き裂の恐れのある部分は寒冷紗、平ラスを施す。

2．気温が２℃以下になる恐れのある場合は、作業を中止するか又は養生し採暖する。

16章　建具工事

1．金物については下記による。
● 見本品の提出　○ マスターキー
● キー取付札

2．オーバースライドドア
設計図による。

3．アルミ製建具
表面の処理は下記による。
● 電解着色　○ アルマイト仕上げ
○ クリヤー仕上げ

17章　塗装工事

1．調合ペイント
木部　下地処理の上２回塗
鉄部　防せい塗装の上２回塗

2．クリヤラッカー塗
下地処理の上３回塗

3．ユートン塗り
下地処理の上３回塗

4．アクリルゴム系防水形複層塗材（スチップル・ローラー工法）

18章　内装工事

1．使用材料はシックハウス対策として、全てＦ☆☆☆☆とする。

2．化粧ケイ酸カルシウム板は目地をシーリング、出隅はアルミジョイナーを使用。

19章　舗装工事

1．道路・水路改良部舗装の仕様は、可児市道路舗装基準による。

20章　排水工事

1．設計図による。

21章　雑工事

1．カーテン工事
ドレープ（シングル）とする。なおレールも本工事とする。

2．ブラインド工事　スラット巾25㎜（タフスラット）とする。

22章　解体工事工事

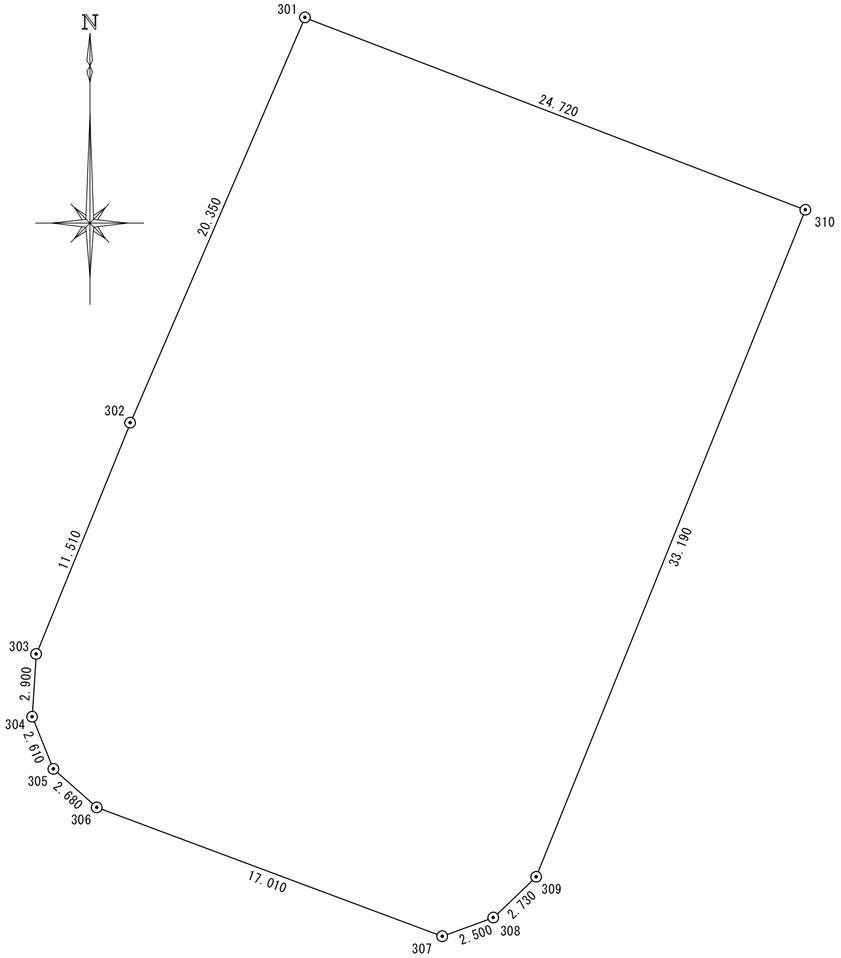
1．解体工事により既設公共構造物等を破損した場合は監督員と協議の上自費で復旧すること。

MEMO

一級建築士事務所
岐阜県知事登録
第８６３０号　一級建築士第93340号　野中　和弘
野中建築事務所

NO	DATE	工事名
A-01	H27.06	可児市消防団消防車庫第４分団第１部新築工事

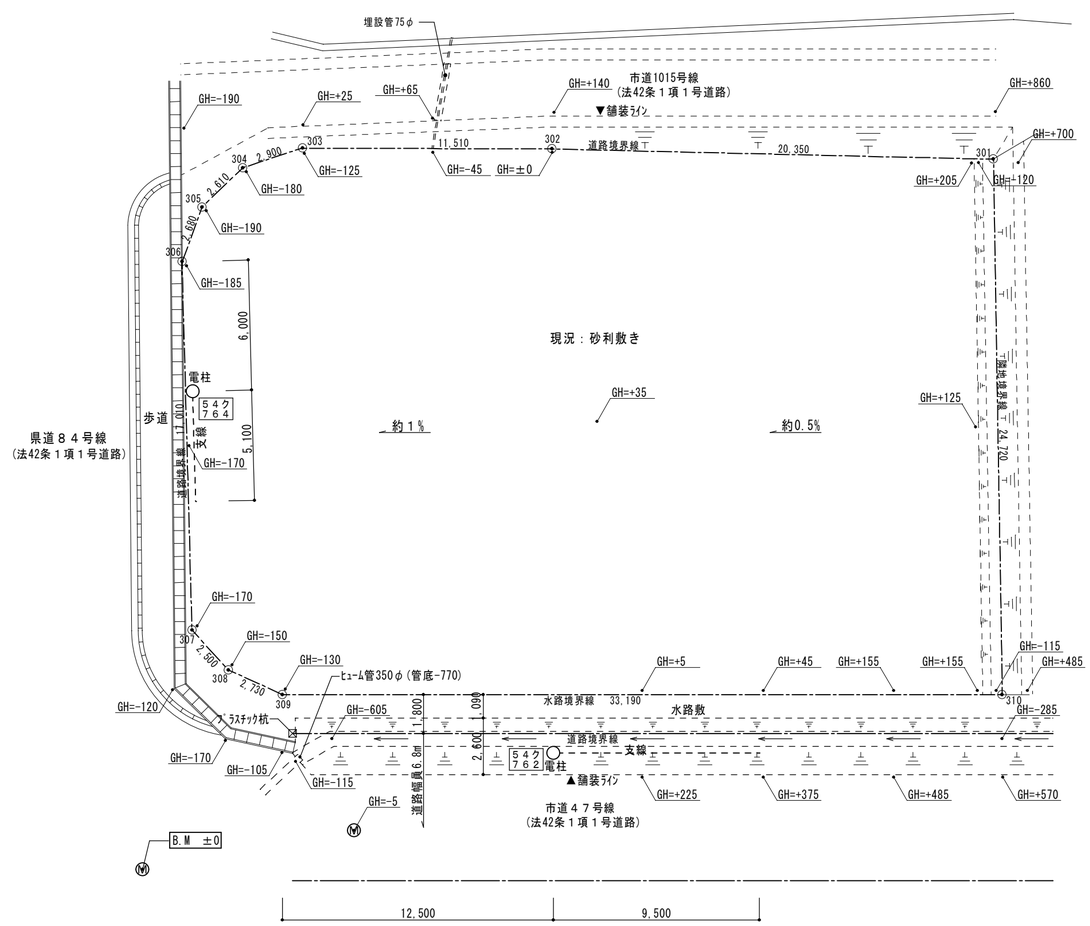
図面名　建築工事特記仕様書　SCALE 1:-



求積図　S=1:200

座　標　求　積　表

地　番	８９６－１１				
点　名	X	Y	$X_{n+1}-X_{n-1}$	$Y_n(X_{n+1}-X_{n-1})$	辺　長
301	-65777.330	-5482.186	-9.820	53835.066520	20.350
302	-65796.019	-5490.239	-29.353	161154.985367	11.510
303	-65806.683	-5494.571	-13.558	74495.393618	2.900
304	-65809.577	-5494.764	-5.314	29199.175896	2.610
305	-65811.997	-5493.786	-4.207	23112.357702	2.680
306	-65813.784	-5491.788	-7.725	42424.062300	17.010
307	-65819.722	-5475.848	-5.082	27828.259536	2.500
308	-65818.866	-5473.499	2.742	-15008.334258	2.730
309	-65816.980	-5471.525	32.667	-178738.307175	33.190
310	-65786.199	-5459.111	39.650	-216453.751150	24.720
		倍面積		1848.908356	
		面　積		924.4541780	
		地　積		924.45	㎡



現況図　S=1:200

凡　例	
記号	杭の種類
⊡	石　杭
⊞	コンクリート杭
⊠	合成樹脂杭（プラスチック）
□	プレート
⊗	金属鋲
⊕	刻印
▽	ペンキ塗印
⊙	木　杭
○	計算点

ＧＨ：現況レベル(mm)

※数値はB.Mからの高低差を示す。

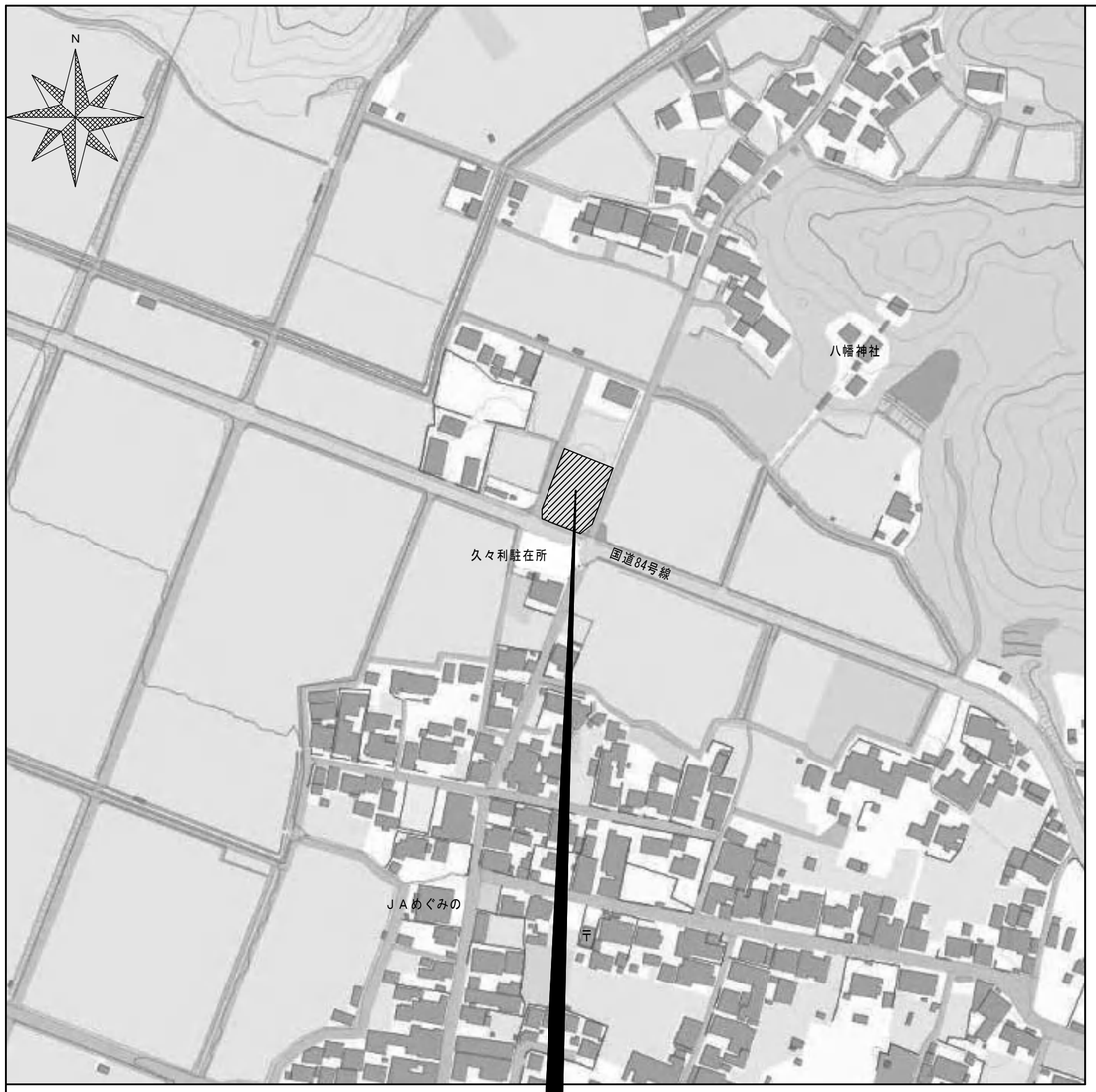
MEMO

一級建築士事務所
岐阜県知事登録
第８６３０号　一級建築士第93340号　野中　和弘
野中建築事務所

NO A-02　DATE H27.06

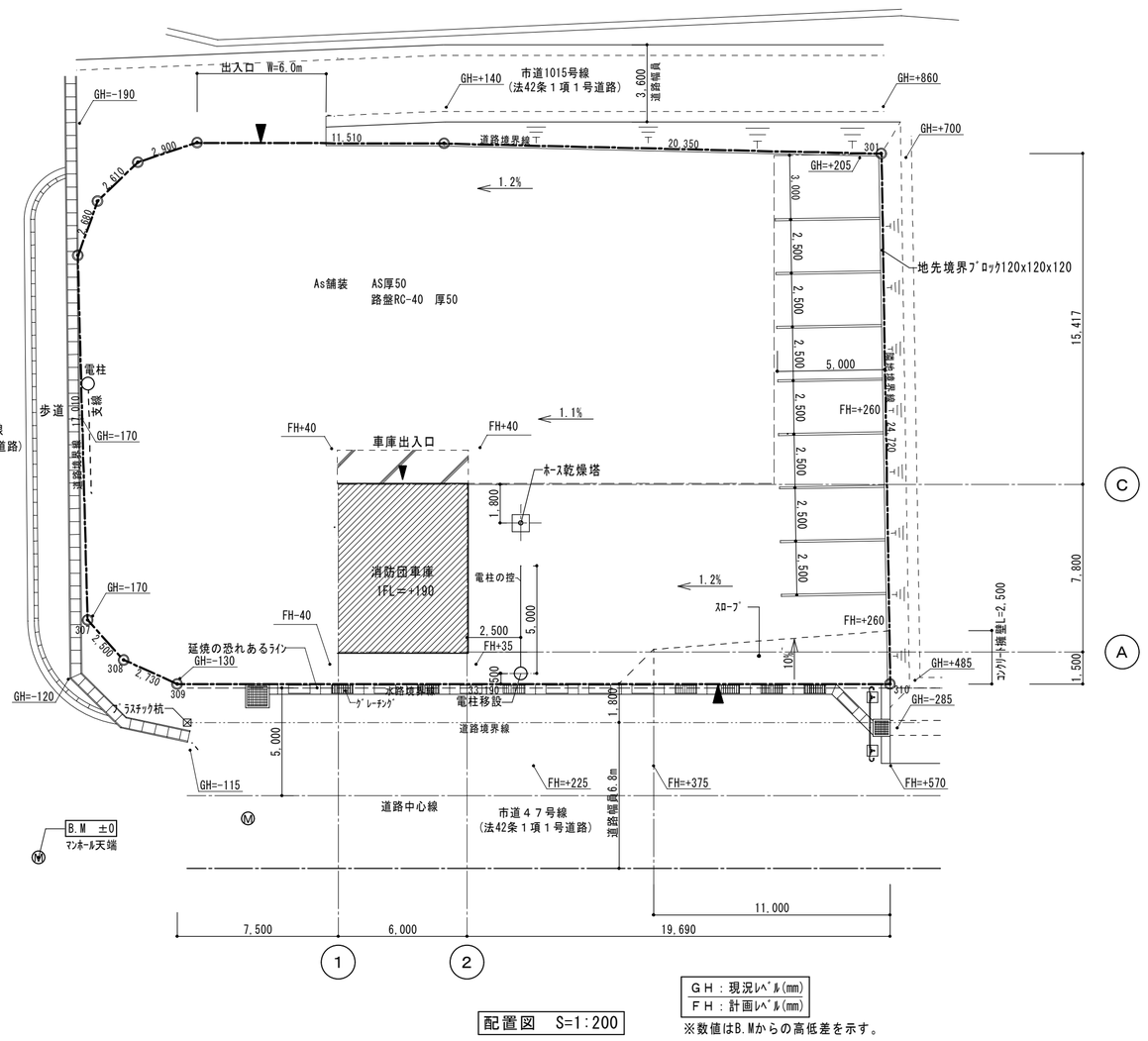
工事名　可児市消防団消防車庫第４分団第１部新築工事

図面名　現況図　SCALE 1:200



可児市久々利字八幡前８９６－１１

附近見取図　S=1:2,500



配置図　S=1:200

ＧＨ：現況ﾚﾍﾞﾙ(mm)
ＦＨ：計画ﾚﾍﾞﾙ(mm)
※数値はB.Mからの高低差を示す。

MEMO

一級建築士事務所
岐阜県知事登録
第８６３０号　一級建築士第93340号　野中　和弘

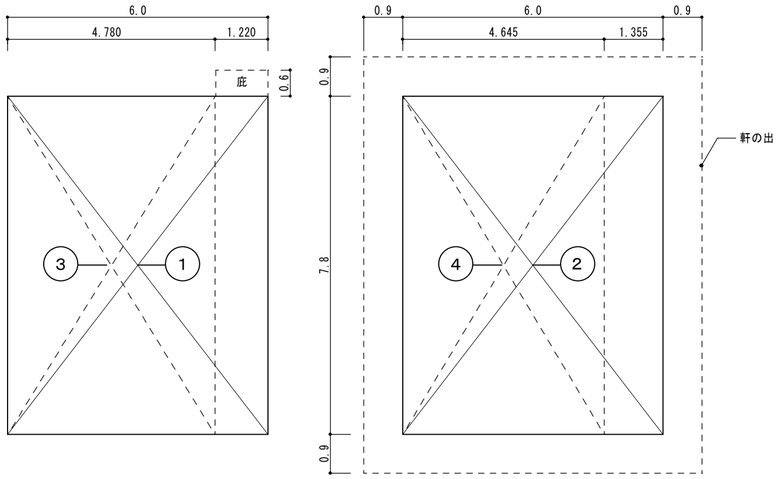
野中建築事務所

NO	DATE
A-03	H27.06

工事名　可児市消防団消防車庫第４分団第１部新築工事

図面名　附近見取図・配置図

SCALE 1: 2,500 / 200



消防団車庫１階平面図 S=1:100

消防団車庫２階平面図 S=1:100

符号	計算式	面積
1	6.000 × 7.800	46.8
2	6.000 × 7.800	46.8
3	4.780 × 7.800	37.284
4	4.645 × 7.800	36.231

消防団車庫

１階床面積	①＝46.80	46.80㎡
２階床面積	①＝46.80	46.80㎡
延べ床面積	46.80Ｘ2＝93.6	93.60㎡
建 築 面 積	①＝46.80	46.80㎡

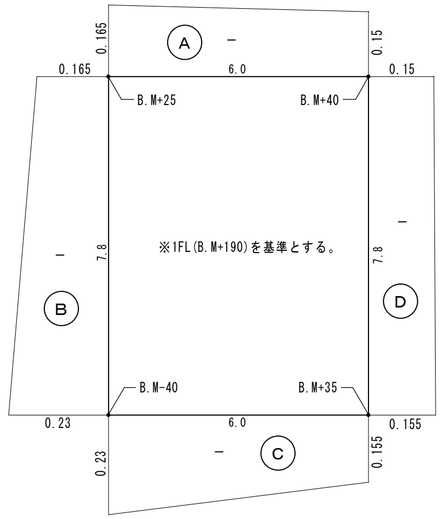
消防団車庫室面積

１階車庫床面積	③＝37.284	37.28㎡
２階待機室床面積	④＝36.231	36.23㎡

容積率対象面積

消防団車庫	93.60／5＝18.72＜37.28 自動車車庫は1/5が限度のため 93.60－18.72=74.88㎡	74.88㎡

	消防団車庫面積(容積率対象)
延べ面積	93.60㎡ (74.88㎡)
建築面積	46.80㎡
敷地面積	924.45㎡
建べい率	46.80/924.45x100=5.07%＜60%
容積率	74.88/924.45x100=8.10%＜200%



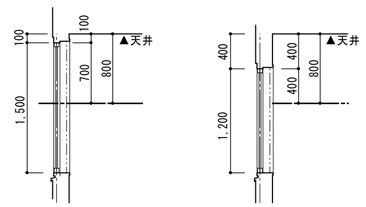
消防団車庫平面図 S=1:100(高さS=1:10)

消防団車庫地盤高算定表

記号	計算式					
A	(0.150 + 0.165) x	6.0	÷ 2 =	0.945	－
B	(0.230 + 0.165) x	7.8	÷ 2 =	1.5405	－
C	(0.230 + 0.155) x	6.0	÷ 2 =	1.155	－
D	(0.155 + 0.150) x	7.8	÷ 2 =	1.1895	－
合計(㎡)		4.83			
周長計(m)		27.600			

4.83 ÷ 27.6 = 0.175 m

①平均地盤高さ　1FL-0.175m(設計GL-0.025m)＝B.M＋15



排煙有効高さ算定図
待機室
（ＡＷ２）

排煙有効高さ算定図
待機室
（ＡＷ３）

採　光

階	室名	室面積 (㎡)	居室	非居室	必要開口面積 (A/20 ㎡)	建具記号	有効W (m)	有効H (m)	個数	補正係数	有効開口面積 (㎡)		判定
2	待機室	36.23	○		1.82	AW２	1.7	1.5	1	1	2.55	6.63	OK
						AW３	1.7	1.2	2	1	4.08		

換気

階	室名	室面積 (㎡)	居室	非居室	必要開口面積 (A/20 ㎡)	建具記号	有効W (m)	有効H (m)	個数		有効開口面積 (㎡)		判定
2	待機室	36.23	○		1.82	AW２	0.85	1.5	1		1.275	3.315	OK
						AW３	0.85	1.2	2		2.04		

排煙

階	室名	室面積 (㎡)	居室	非居室	必要開口面積 (A/50 ㎡)	建具記号	有効W (m)	有効H (m)	個数		有効開口面積 (㎡)		判定
2	待機室	36.23	○		0.73	AW２	0.85	0.7	1		0.595	1.275	OK
						AW３	0.85	0.4	2		0.68		

消防無窓階

階	床面積 (㎡)	必要開口面積 (A/30 ㎡)	建具記号	有効W (m)	有効H (m)	個数		有効開口面積 (㎡)	判定
1	46.80	1.56	AD1	0.80	2.00	1		1.60	OK
2	46.80	1.56	AW３	0.85	1.2	2		2.04	OK

※すべての窓が道に面する又は境界までの距離が４ｍ以上のため採光補正係数１を採用。

MEMO

一級建築士事務所
岐阜県知事登録
第８６３０号
野中建築事務所
一級建築士第93340号　野中　和弘

NO A-04　DATE H27.06

工事名 可児市消防団消防車庫第４分団第１部新築工事

図面名 面積表・地盤高算定表
法的開口面積算定表

SCALE 1:100

外　部　仕　上　表

屋　根	硬質木片セメント板ｔ＝18＋アスファルトルーフィング23kgの上カラーガルバリウム鋼板ｔ＝0.6瓦棒葺き（働き巾350）、雪止アングル（SUS304）、同取付金具、瓦棒丸型ｷｬﾌﾟ　軒先･けらば唐草 軒先化粧キャップ、棟板金具　他一式				庇	アルミ製軽量ユニット庇　既製品ＡＤ－1（アルフィン同等品）：Ｌ＝600×Ｗ＝1200　出入口片開きドアー上部のみ	
棟包み	カラーガルバリウム鋼板ｔ＝0.6曲げ加工棟下地金具留め				出入口	鋼製片開き戸、スチール製軽量オーバースライディングドア（ローヘッド型）	
軒先鼻隠し	木下地カラーガルバリウム鋼板ｔ＝0.6				建　具	アルミ製サッシ（カラー）	
ケラバ鼻隠し	木下地カラーガルバリウム鋼板ｔ＝0.6				ポーチ・犬走り	土間コンクリート金ゴテ仕上	
軒天井	ケイ酸カルシウム板ｔ＝6・一部有孔ケイ酸カルシウム板ｔ＝6 の上EP-G塗装				建物名板	200角カルブ文字（17文字）	
外　壁	北　面	ALCｔ＝100（縦貼）の上ｱｸﾘﾙｺﾞﾑ系防水形複層塗材Ｅ（スチップル･ローラー工法）	東　面	ALCｔ＝100（縦貼）の上ｱｸﾘﾙｺﾞﾑ系防水形複層塗材Ｅ（スチップル･ローラー工法）	消防紋章	鉛金鋳物製鍛メッキ仕上げ250φ	
	南　面	ALCｔ＝100（縦貼）の上ｱｸﾘﾙｺﾞﾑ系防水形複層塗材Ｅ（スチップル･ローラー工法）	西　面	ALCｔ＝100（縦貼）の上ｱｸﾘﾙｺﾞﾑ系防水形複層塗材Ｅ（スチップル･ローラー工法）	駐車場	アスファルト舗装、白線引き	
幅　木	コンクリート打放し補修仕上げ				ホース乾燥塔	手動ウィンチ式（ポールＨ＝14.4m、両側12本吊仕様）	
軒　樋	塩ビ製角型120（鉄芯入）カラー				ガードパイプ	建物出入口出隅部分に設置　スチール製既製品（ＴＯＥＸ　Ｒ60型）２箇所	
竪　樋	塩ビ製75φ　カラー						

内　部　仕　上　表

棟	階	室　名	仕上レベル FL±	ｺﾝｸﾘｰﾄ上端 FL±	床	巾　木	腰　壁	壁	天　井	天井高	回　縁	ブラインド	ブラインドボックス	備　考
	1	車　庫	－５０～±０	－５０～±０	コンクリート金ゴテ押えの上浸透性コンクリート表面強化材	モルタル巾木Ｈ＝250	－	ＡＬＣｔ＝100の上ｱｸﾘﾙｺﾞﾑ系防水形塗材仕上（ｽﾁｯﾌﾟﾙ） 石膏ボードｔ＝12.5の上ＥＰ塗装（ＬＧＳ下地）	化粧石膏ボードｔ＝9.5貼（ＬＧＳ下地）	３,０００	塩ビ製	－	－	スチール棚：３箇所（火点表示板収納付）、防火服掛フック４箇所 ステンレス一槽シンク：W600×D450　S-64（藤栄同等品）
		便　所	－５０	－１００	モルタル下地45角磁器質タイル貼	45角磁器質タイル貼 Ｈ＝300	－	シージングボードt9.5捨張り下地（ＬＧＳ下地） 化粧ケイ酸カルシウム板ｔ＝6貼	化粧石膏ボードｔ＝9.5貼（ＬＧＳ下地）	２,４００	塩ビ製	－	－	棚（造作）：W1500×D205
		階　段	－	－	縞鋼板　ＳＯＰ塗	側桁　ＳＯＰ塗	－	石膏ボードｔ＝12.5の上ＥＰ塗装（ＬＧＳ下地）	－	－	－	－	－	手摺
	2	階段ホール	±０	±０	コンクリート金ゴテ押えの上長尺塩ビｼｰﾄ貼ｔ＝2.5	木製・ＣＬ　Ｈ＝75	－	シージングボードt9.5捨張り下地（ＬＧＳ下地） 石膏ボードｔ＝12.5貼の上ＥＰ塗装	化粧石膏ボードｔ＝9.5貼（ＬＧＳ下地）	２,５００	塩ビ製	○ 巾＝25	——	天井点検口：アルミ製600×600
		待機室	±０	±０	コンクリート金ゴテ押えの上長尺塩ビｼｰﾄ貼ｔ＝2.5	木製・ＣＬ　Ｈ＝75	石膏ボードｔ＝12.5の上ＥＰ塗装（ＬＧＳ下地）	石膏ボードｔ＝12.5の上ＥＰ塗装（ＬＧＳ下地） 一部合板下地掲示板マグネットクロス張り	化粧石膏ボードｔ＝9.5貼（ＬＧＳ下地）	２,５００	塩ビ製	○ 巾＝25		天井ピクチャーレール：アルミ製、防火服掛フック20箇所程度
		(キッチン廻り)	±０	±０	コンクリート金ゴテ押えの上長尺塩ビｼｰﾄ貼ｔ＝2.5	木製・ＣＬ　Ｈ＝75	－	シージングボードt9.5捨張り下地（ＬＧＳ下地） 化粧ケイ酸カルシウム板ｔ＝6.0貼	化粧石膏ボードｔ＝9.5貼（ＬＧＳ下地）	２,５００	塩ビ製	○ 巾＝25	——	吊り戸棚：W-60M（クリナップ同等品）、 レンジフード：VH-62（K/I）（クリナップ同等品）、棚（造作）：W900×D450
		物　入	±０	±０	コンクリート金ゴテ押えの上長尺塩ビｼｰﾄ貼ｔ＝2.5	木製・ＣＬ　Ｈ＝75	－	合板貼ｔ＝5.5（ＬＧＳ下地）	合板貼ｔ＝4（ＬＧＳ下地）	２,５００	木製	——	——	中棚（造作）２段

内装の防火材料と認定番号

準不燃	QM-9828	石膏ボード	（準不燃石膏ボード	9.5mm）
不燃	NM-8619	石膏ボード	（不燃石膏ボード	12.5mm・15.0mm）
準不燃	QM-9824	化粧石膏ボード	（準不燃ジプトーン	9.5mm）
不燃	NM-0441	化粧石膏ボード	（不燃ジプトーン	9.5mm）
準不燃	QM-9826	シージング石膏ボード	（準不燃防水ボード	9.5mm・12.5mm・15.0mm）
不燃	NM-9639	シージング石膏ボード	（不燃防水ボード	12.5mm・15.0mm）
不燃	NM-8579	化粧ケイ酸カルシウム板	（化粧ケイカル板	6.0mm）

シックハウス対策

・内装仕上は、全てF☆☆☆☆（規制対象外建材）とする。
・接着剤はF☆☆☆☆（規制対象外建材）とする。
・グラスウールはF☆☆☆☆（規制対象外建材）とする。
・流し台等の備品は低ホルムアルデヒド品とする。
・クロルピリホスは使用しない。

塗料の種別と略号

合成樹脂塗料	SOP	合成樹脂調合ペイント	FUE	ふっ素樹脂エナメル
	VE	塩化ビニル樹脂エナメル	XE	エポキシ樹脂エナメル
	AE	アクリル樹脂エナメル	CE	塩化ゴム系塗料
	FE	フタル酸樹脂エナメル	LE	ラッカーエナメル
	UE	ポリウレタン樹脂エナメル		
合成樹脂	GEP	つや有り合成樹脂		
エマルション塗料		エマルションペイント		
	EP	合成樹脂エマルションペイント		
	EP-G	合成樹脂エマルションペイント（つや有）		
模様塗料	TEP	合成樹脂エマルション模様塗料		
	MP	多彩模様塗料		
透明塗料	CL	クリアラッカー		
	AC	アクリル樹脂ラッカークリア		
	UC	ポリウレタン樹脂ラッカークリア		
ローラー　仕上塗料	MR	マスチック塗材		
着色材	OS	オイルステイン		
防塵塗料	FLP	フロアー防塵塗料		
艶出し材	W	ワックス		

防火・耐火リスト

主要構造部の制限：無し

外壁（非耐力壁）：　ALC　　ｔ＝100
　延焼のおそれある部分：　耐火構造 Ｗｎ１２４２（縦貼）

屋根：　カラーＧＬ鋼鈑　ｔ＝０．４
　延焼のおそれある部分：　防火構造 令１０８条１項三号ハ

軒裏：　強化ロックウール軒天井材貼　ｔ＝１５
　延焼のおそれある部分：　防火構造 防火第１２８２号

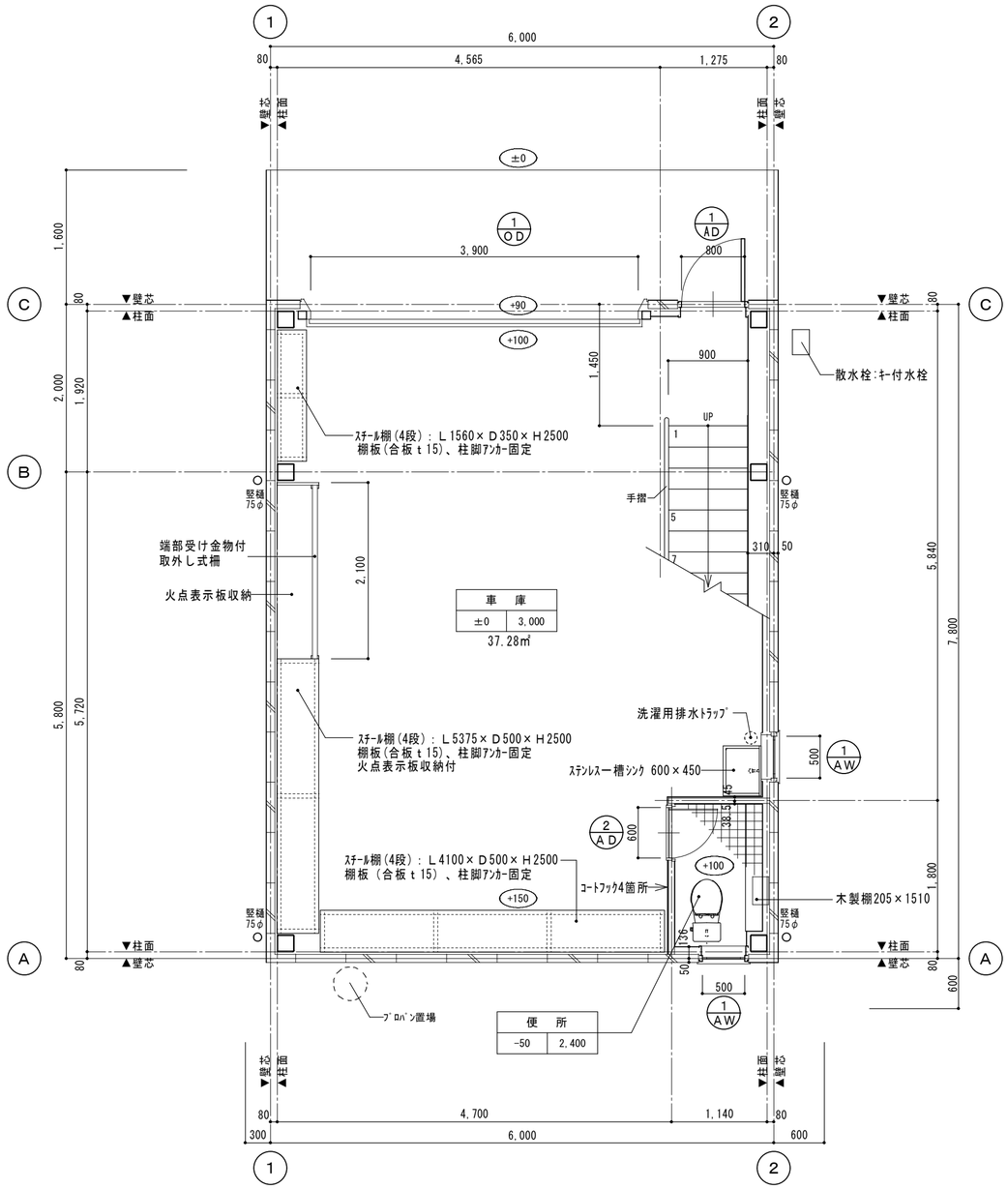
MEMO

一級建築士事務所
岐阜県知事登録
第８６３０号
野中建築事務所
一級建築士第93340号　野中　和弘

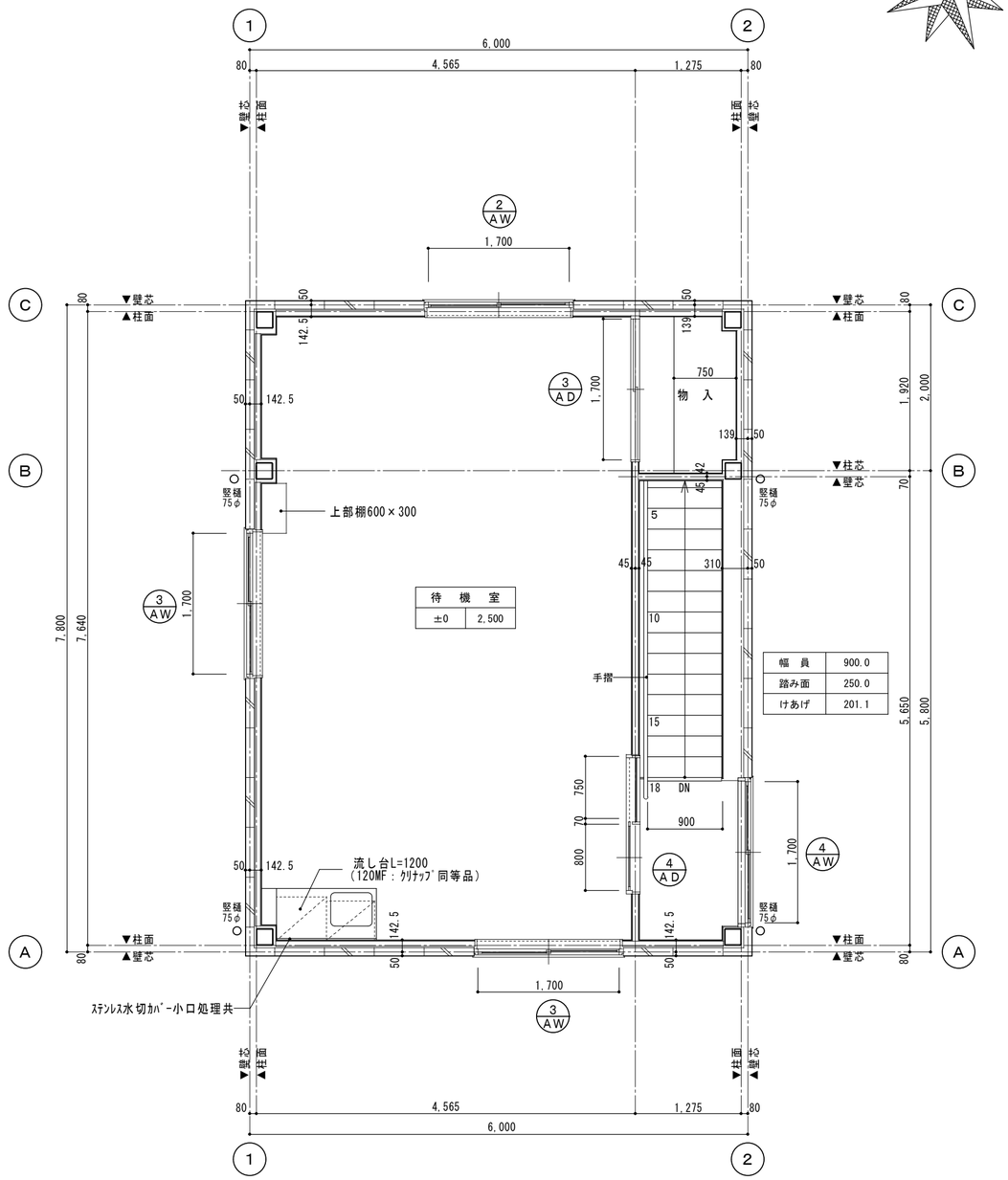
NO A-05　DATE H27.06

工事名　可児市消防団消防車庫第４分団第１部新築工事

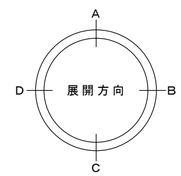
図面名　仕上げ表　SCALE 1:－



1階平面図　S=1/50



2階平面図　1/50



室　名	
FL±	CH：

MEMO

一級建築士事務所
岐阜県知事登録
第８６３０号

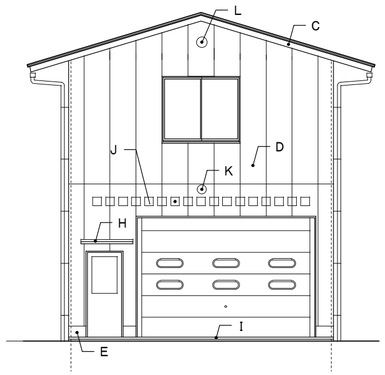
野中建築事務所

一級建築士第93340号　野中　和弘

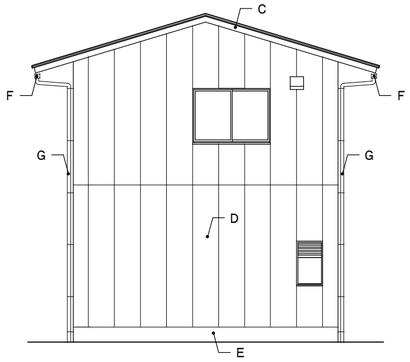
NO	DATE
A-06	H27.06

工事名　可児市消防団消防車庫第４分団第１部新築工事

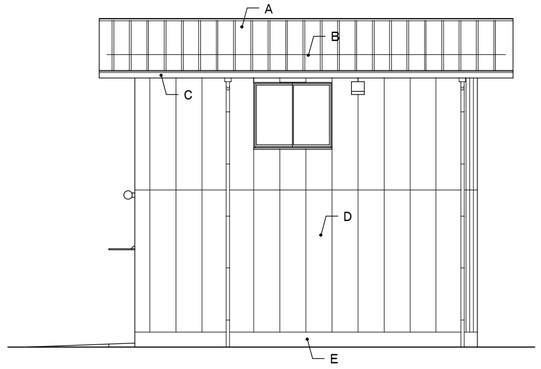
図面名　平面図　　SCALE 1:50



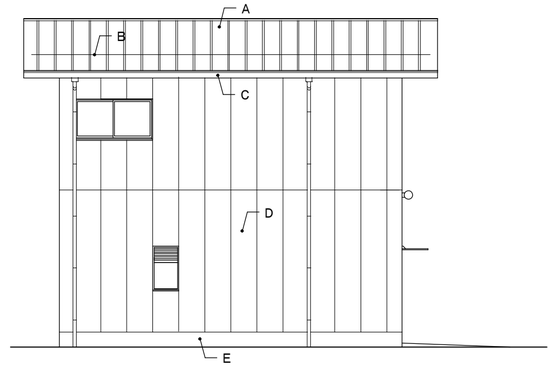
西側立面図　S=1/100



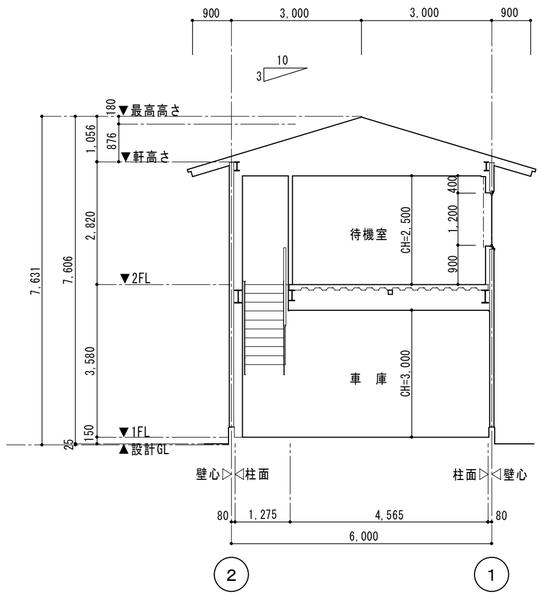
東側立面図　S=1/100



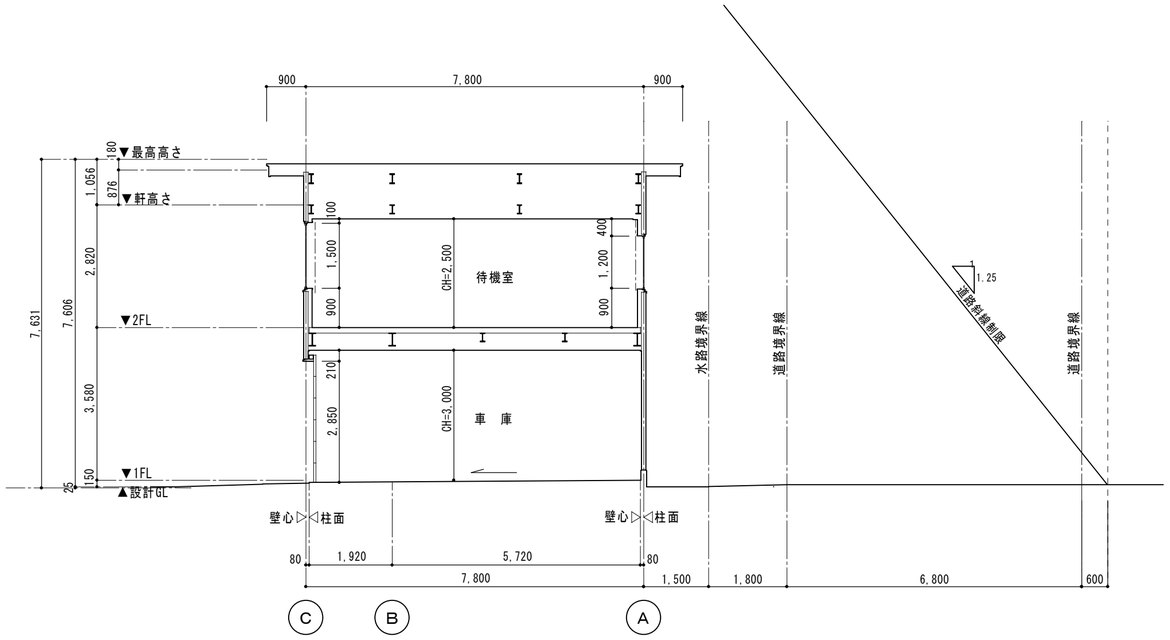
南側立面図　S=1/100



北側立面図　S=1/100



南－北　断面図　1/100



東－西　断面図　1/100

設計GL＝BM+40

凡　例	
A	屋根：ｶﾗｰｶﾞﾙﾊﾞﾘｳﾑ鋼板ｔ＝0.6 瓦棒葺(幅350)
B	雪止ｱﾝｸﾞﾙ：SUS304
C	破風：木下地ｶﾗｰｶﾞﾙﾊﾞﾘｳﾑ鋼板ｔ＝0.6曲げ加工
D	外壁：ALC厚100(縦張)の上ｱｸﾘﾙｺﾞﾑ系防水形複層塗材Ｅ仕上げ(出隅部ｺｰﾅｰﾊﾞﾈﾙ)
E	外巾木：コンクリート打放し補修
F	軒樋：塩ビ製角型120（カラー）
G	竪樋：塩ビ製75φ（カラー）
H	庇：ｱﾙﾐ軽量ﾕﾆｯﾄ庇
I	ﾎﾟｰﾁ：ｺﾝｸﾘｰﾄ金ｺﾞﾃ仕上げ
J	建物名板：200角ｶﾙﾌﾟ文字（17文字）
K	赤色灯：250φ
L	消防紋章：ｾﾗﾐｯｸ製銀ﾒｯｷ

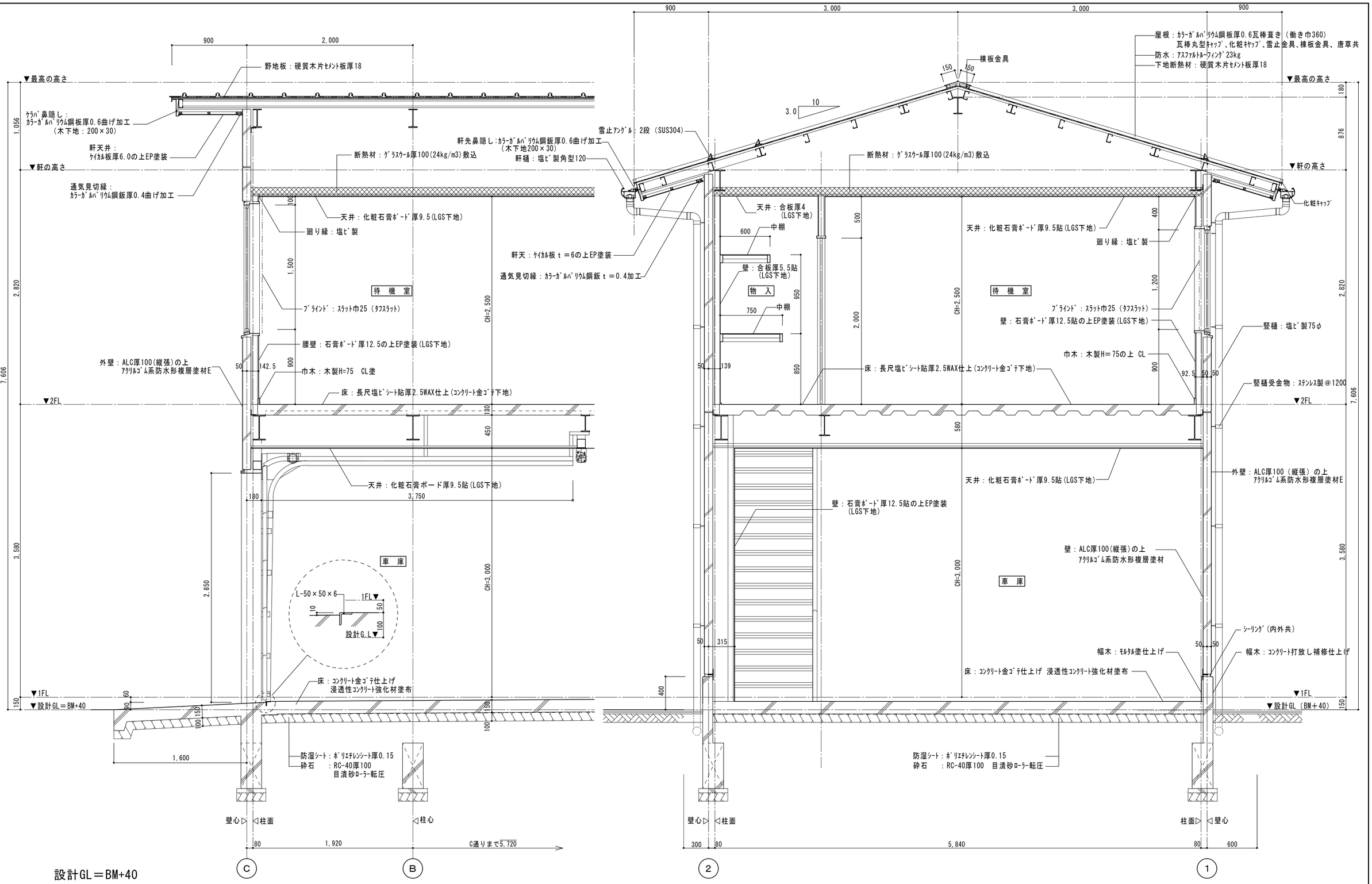
MEMO

一級建築士事務所
岐阜県知事登録
第８６３０号
野中建築事務所
一級建築士第93340号　野中　和弘

NO A-07　DATE H27.06

工事名　可児市消防団消防車庫第４分団第１部新築工事

図面名　立面図・断面図　SCALE 1:100



設計GL＝BM+40

MEMO

一級建築士事務所
岐阜県知事登録
第８６３０号

野中建築事務所

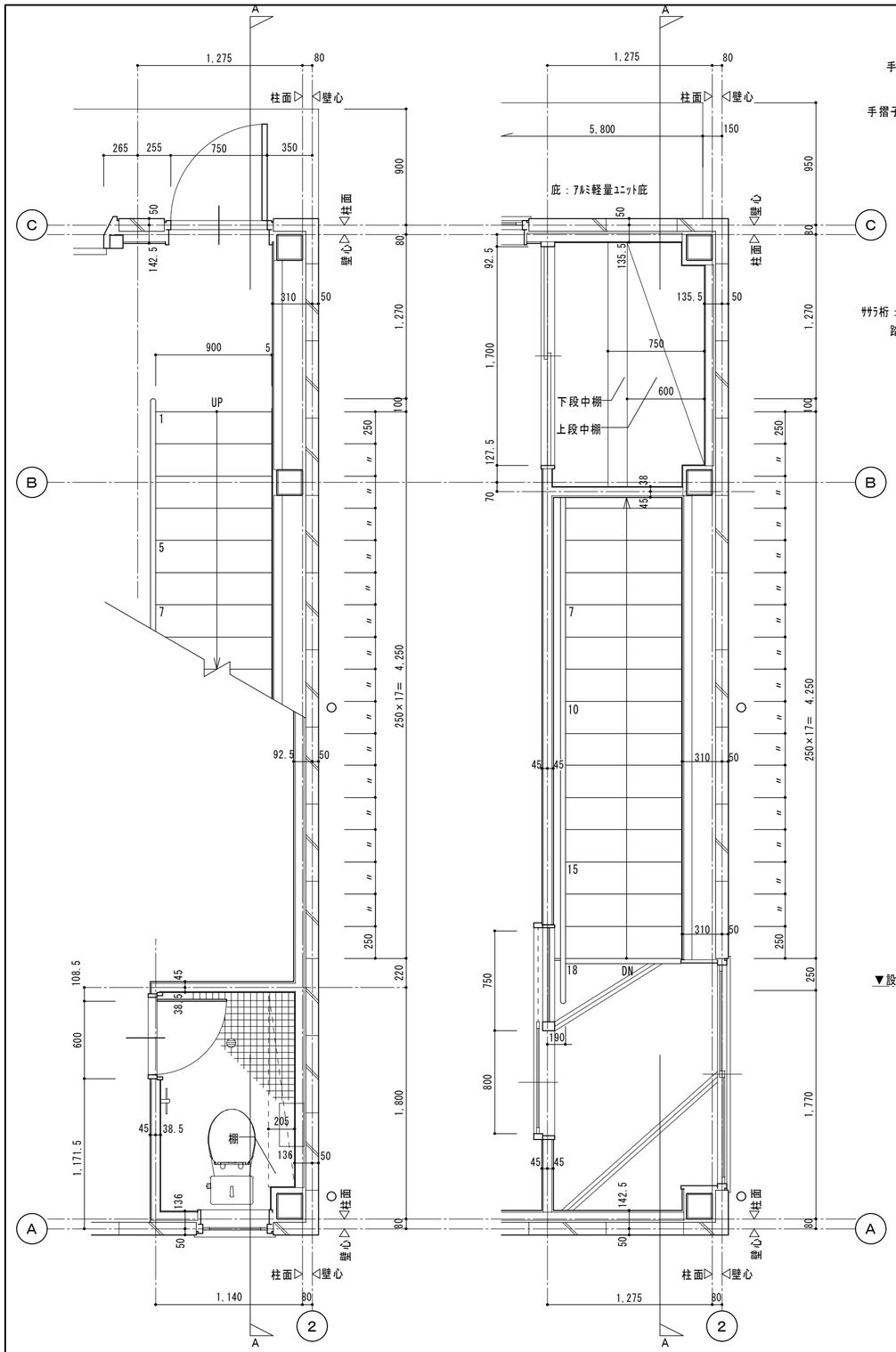
一級建築士第93340号　野中　和弘

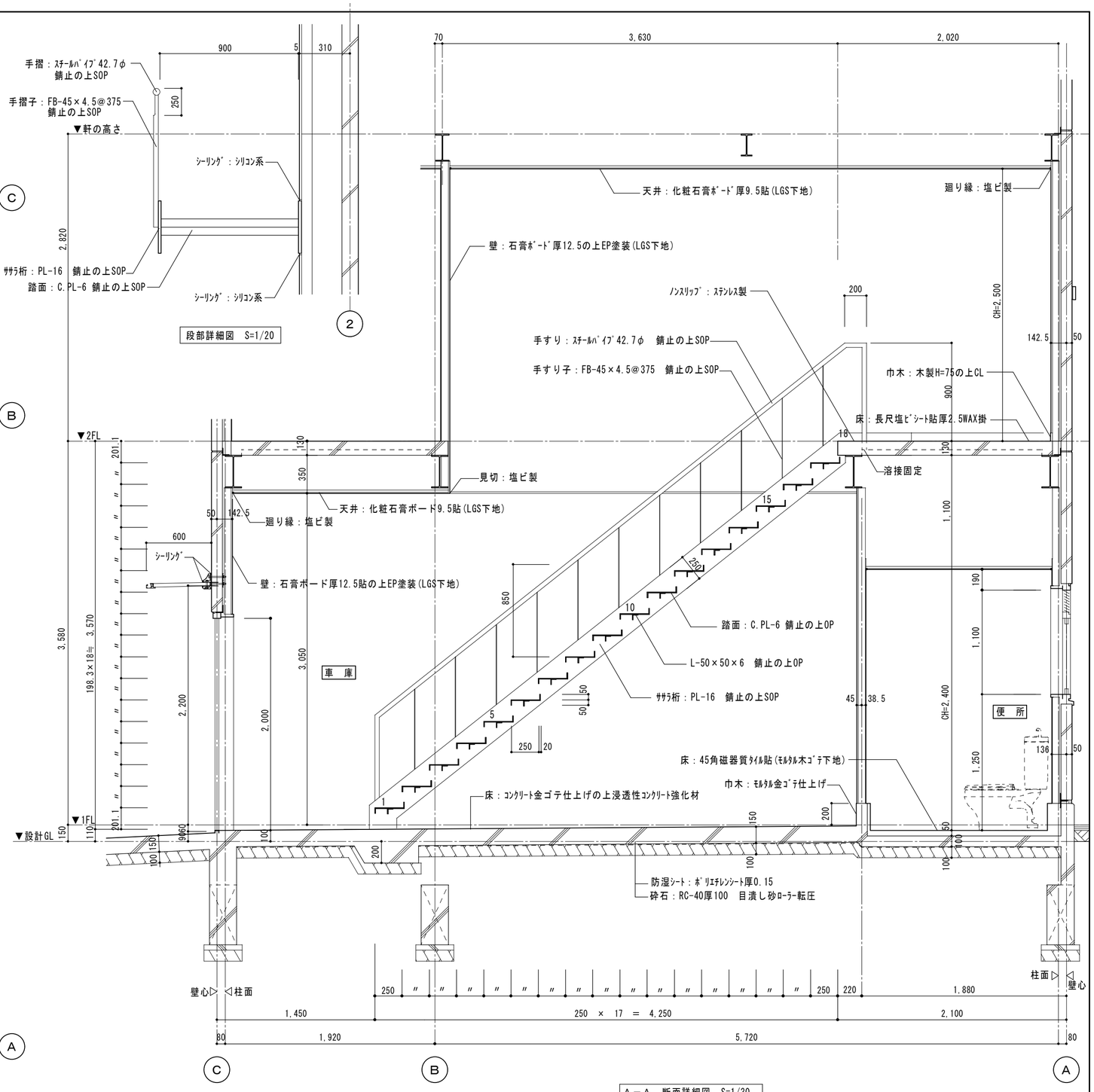
NO	DATE
A-08	H27.06

工事名　可児市消防団消防車庫第４分団第１部新築工事

図面名　矩形図

SCALE 1:30





MEMO

一級建築士事務所
岐阜県知事登録
第８６３０号

野中建築事務所

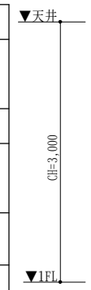
一級建築士第93340号　野中　和弘

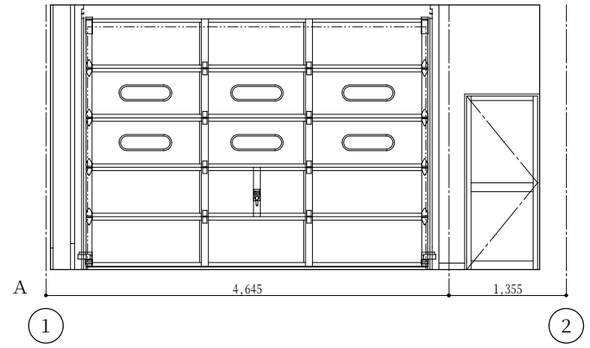
NO	DATE
A-09	H27.06

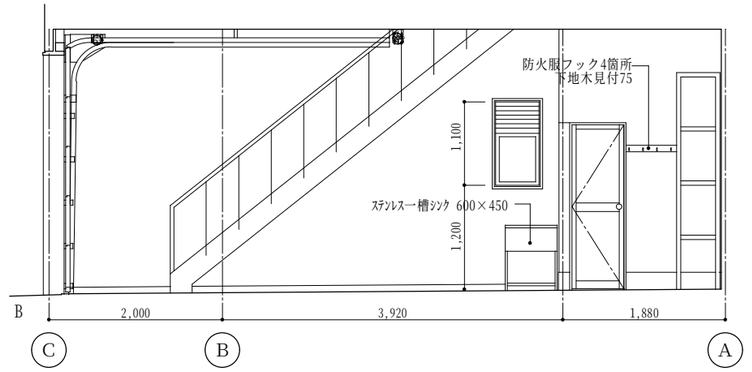
工事名　可児市消防団消防車庫第４分団第１部新築工事

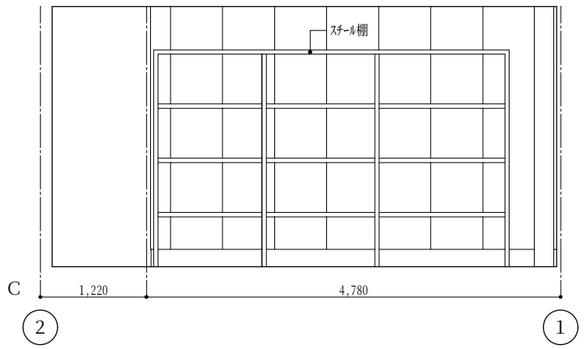
図面名　階段詳細図　SCALE 1:30

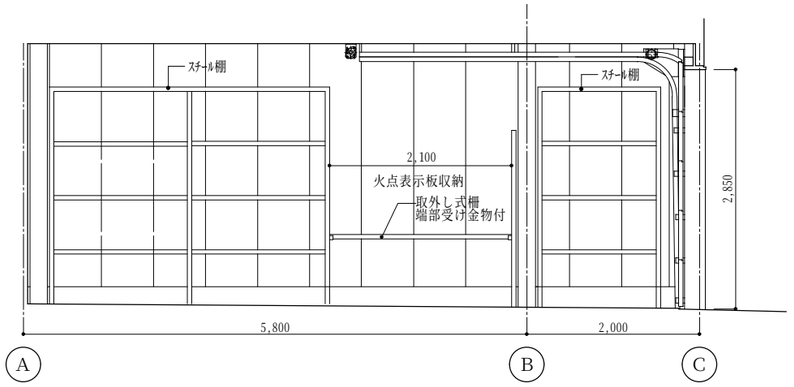
室名	車庫
床	ｺﾝｸﾘｰﾄ金ｺﾞﾃ仕上げ 浸透性ｺﾝｸﾘｰﾄ強化材塗布
巾木	ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾞﾃ仕上げ　H=250
壁	ALCの上ｱｸﾘﾙｺﾞﾑ系防水型複層塗材E 石膏ﾎﾞｰﾄﾞ厚12.5の上EP塗装
天井	化粧石膏ﾎﾞｰﾄﾞ厚9.5
備考	廻り縁：塩ﾋﾞ製



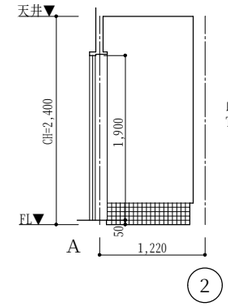


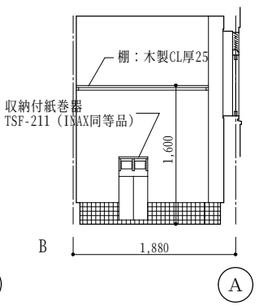


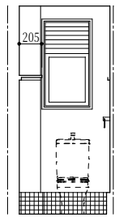


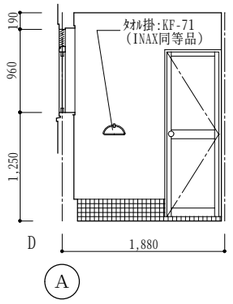


室名	便所
床	磁器質ﾀｲﾙ45角貼 ﾓﾙﾀﾙ木ｺﾞﾃ下地
巾木	磁器質ﾀｲﾙ45角貼(ﾓﾙﾀﾙ木ｺﾞﾃ下地)　H=300
壁	ｼｰｼﾞﾝｸﾞ石膏ﾎﾞｰﾄﾞ厚9.5＋化粧ﾀｲｶﾙ板厚6 (LGS下地)
天井	化粧石膏ﾎﾞｰﾄﾞ厚9.5 (LGS下地)
備考	廻り縁：塩ﾋﾞ製

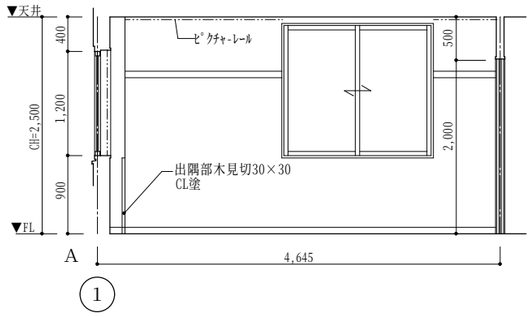


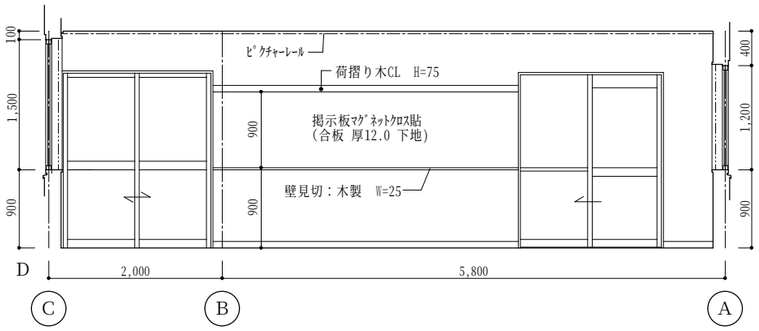


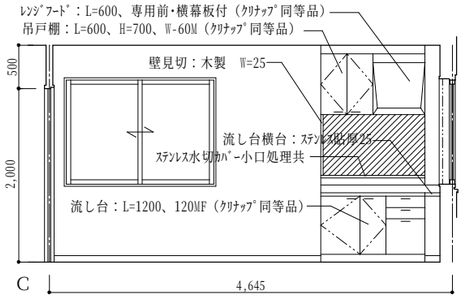


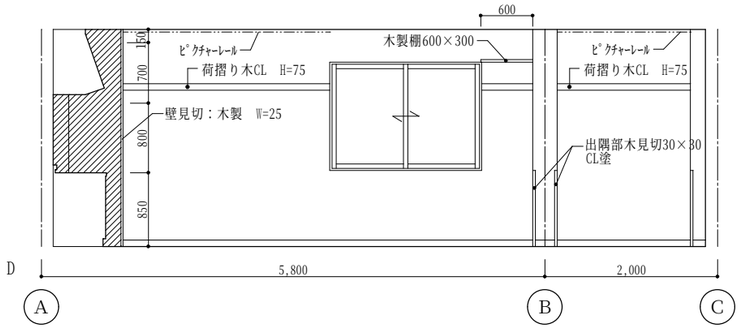


室名	待機室
床	長尺塩ﾋﾞｼｰﾄ貼厚2.5 ｺﾝｸﾘｰﾄ金ｺﾞﾃ下地
巾木	木製CL　H=75
壁	石膏ﾎﾞｰﾄﾞ厚12.5の上EP塗装(LGS下地) 一部合板下地掲示板ﾏｸﾞﾈｯﾄｸﾛｽ貼 斜線部：ｼｰｼﾞﾝｸﾞ石膏ﾎﾞｰﾄﾞ厚9.5の上化粧ﾀｲｶﾙ板厚6貼
天井	化粧石膏ﾎﾞｰﾄﾞ厚9.5 (LGS下地)
備考	廻り縁：塩ﾋﾞ製









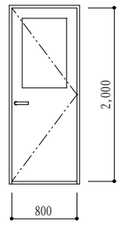
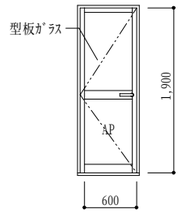
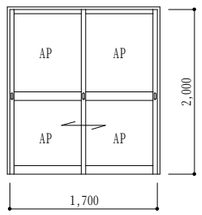
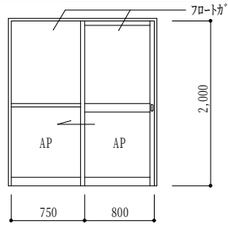
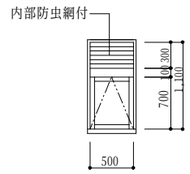
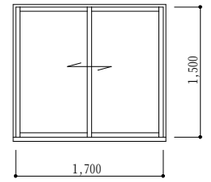
MEMO

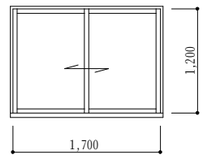
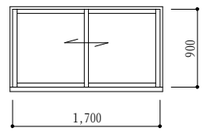
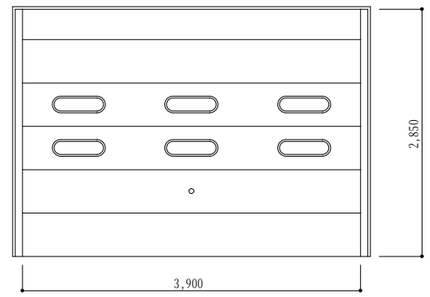
一級建築士事務所
岐阜県知事登録
第８６３０号
野中建築事務所
一級建築士第93340号　野中　和弘

NO	DATE
A-10	H27.06

工事名　可児市消防団消防車庫第４分団第１部新築工事

図面名　展開図　　SCALE 1:50

符号・位置	1 AD 車庫	2 AD 便所	3 AD 待機室	4 AD 待機室	1 AW 便所・車庫	2 AW 待機室
見込・個数	枠70 1	枠７０ 1	枠７０ 1	枠７０ 1	枠７０ 2	枠７０ 1
姿図・寸法						
型　　式	ｱﾙﾐ製片開き戸	アルミ製片開き戸	アルミ製引違い戸	アルミ製片引き戸	アルミ製ガラリ付突き出し窓	アルミ製引違い窓
仕上げ材	ｱﾙﾐｶﾗｰ	アルミカラー	アルミカラー	アルミカラー	アルミカラー	アルミカラー
ガラス（厚）	型板ガラス厚4	型板ガラス厚４	――――――	ﾌﾛｰﾄｶﾞﾗｽ厚5	型板ガラス厚４	ﾌﾛｰﾄｶﾞﾗｽ厚5
付属金物	ｱﾙﾐ三方枠、SUS沓摺 ﾚﾊﾞｰﾊﾝﾄﾞﾙ、丁番、本締り錠、ﾄﾞｱｸﾛｰｻﾞｰ、戸当り 他付属金物一式	ｱﾙﾐ三方枠、ｽﾃﾝﾚｽ沓摺、ﾚﾊﾞｰﾊﾝﾄﾞﾙ、丁番、表示錠、ﾄﾞｱｸﾛｰｻﾞｰ 戸当り 他付属金物一式	ｱﾙﾐ三方枠、ｽﾃﾝﾚｽﾚｰﾙ、戸車、引手 他付属金物一式	ｱﾙﾐ三方枠、ｽﾃﾝﾚｽﾚｰﾙ、戸車、引手、ｼﾘﾝﾀﾞｰ錠 他付属金物一式	ｱﾙﾐ額縁、水切、ﾊﾝﾄﾞﾙ、丁番、突き出しﾌｰﾑ 他付属金物一式	ｱﾙﾐ製額縁、水切、ｸﾚｾﾝﾄ、戸車 他付属金物一式
備　　考				参考品番：ﾄｽﾃﾑ　ﾕｰﾋﾟｱﾙ同等以上	片開き網戸	ｽﾃﾝﾚｽ製可動網戸

符号・位置	3 AW 待機室	4 AW 階段ホール	1 OD 車庫
見込・個数	枠７０ 2	枠７０ 1	７０ 1
姿図・寸法			
型　　式	アルミ製引違い窓	アルミ製引違い窓	スチール製オーバースライドドア
仕上げ材	アルミカラー	アルミカラー	塗装溶融亜鉛メッキ鋼板厚0.5
ガラス（厚）	ﾌﾛｰﾄｶﾞﾗｽ厚5	ﾌﾛｰﾄガラス厚５	網入り型板ガラス厚6.8
付属金物	ｱﾙﾐ製額縁、水切、ｸﾚｾﾝﾄ、戸車 他付属金物一式	ｱﾙﾐ製額縁、水切、ｸﾚｾﾝﾄ、戸車 他付属金物一式	ｽﾁｰﾙ三方枠厚1.6焼付け塗装、本締り錠 他付属金物一式
備　　考	ｽﾃﾝﾚｽ製可動網戸	ｽﾃﾝﾚｽ製可動網戸	

符号・位置	
見込・個数	
姿図・寸法	
型　　式	
仕上げ材	
ガラス（厚）	
付属金物	
備　　考	

注記）

1．アルミサッシュ性能
　耐風圧性　S-4
　気密性　　A-3
　水密性　　W-4

2．戸当りはｺﾞﾑ付あおり止め兼用戸当りとする。
　(全ての開き戸)

3．金物の材質は全て、ステンレス製とする。

4．鍵については、ｷｰﾌﾟﾗﾝを作成し、使用者の同意を得て作成を行うこと。

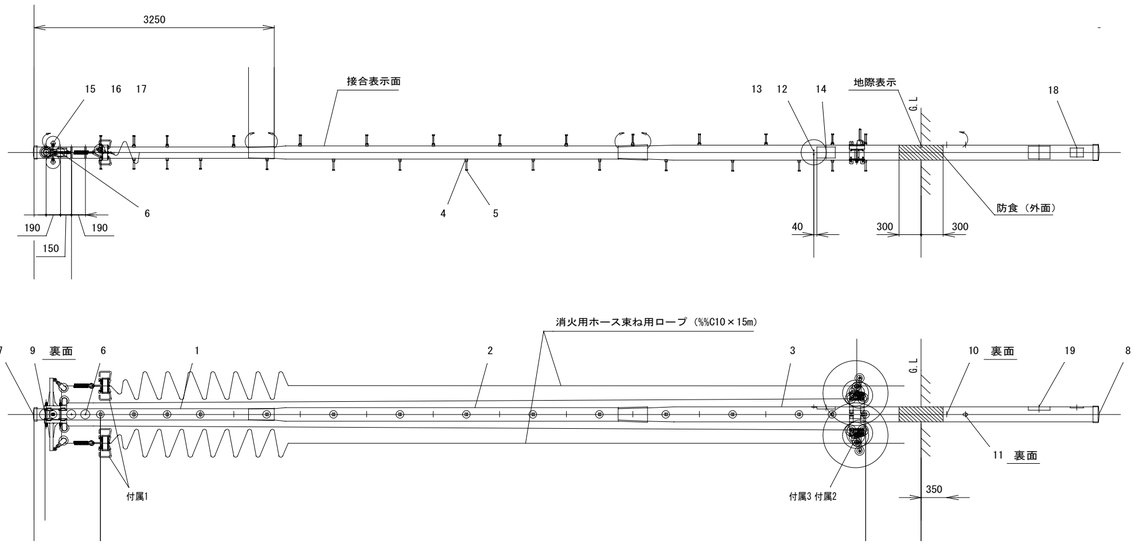
MEMO

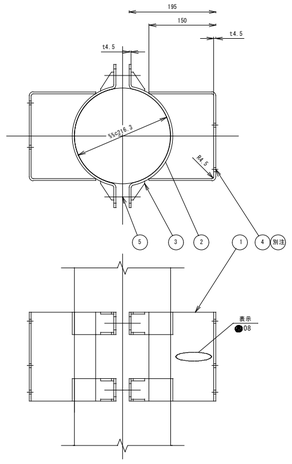
一級建築士事務所
岐阜県知事登録
第８６３０号
野中建築事務所
一級建築士第93340号　野中　和弘

NO A-11　DATE H27.06

工事名　可児市消防団消防車庫第４分団第１部新築工事

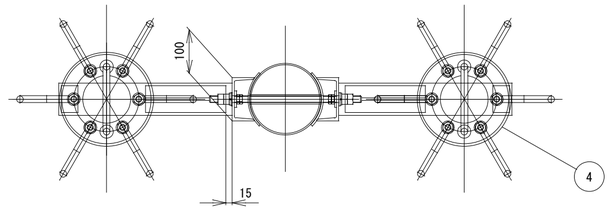
図面名　建具表　SCALE 1:50

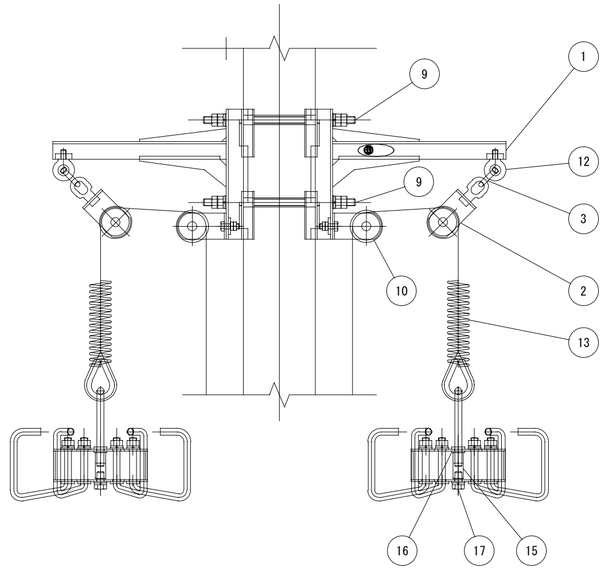


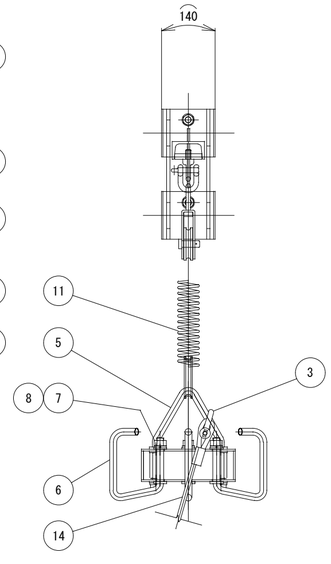


ウインチ架台（両側用：併用タイプ） 1/10

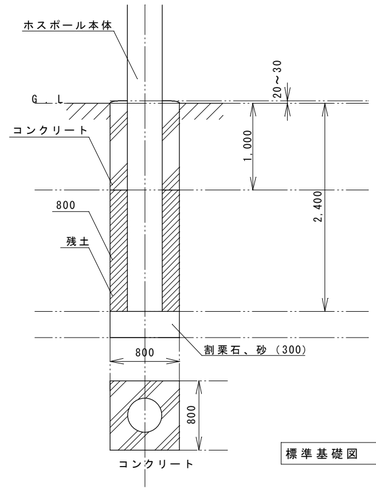
NAホスポール 14.4m-360kgf
〔バンドレス型 吊下装置取付タ イプ〕 1/50







ウインチ式吊下装置両側１２本バンドレス型 1/10



標準基礎図 1/50

ホース乾燥塔 仕様表　　ウスイ消防 ホース乾燥塔1型 同等品

手動ウインチ　　マックスブル工業又は同等品

	品名	個数	材質	備考
1	GM-3-SI型	2		ストッパー内臓 300kgｆ用

NAホスポール 14.4m-360kgf　〔バンドレス型 吊下装置取付タイプ〕　日本ネットワークサポートまたは同等品

品番	品名	個数	材質	備考	品番	品名	個数	材質	備考
1	φ165.2×3.3-3250	1	SS400		9	ゴムブッシュ〔φ20〕	1	EPDM	
2	φ193×3.2-5400	1	STK490		10	六角ボルト M6×12×12	1	しんちゅう	
3	φ216.3×4.5-6500	1	STK540		11	ゴムブッシュ（29×63有効径）	1	EPDM	
4	足場座〔C5型〕	29	SAPH370		12	商品ラベル	1	消銀-UTL ラミネート	
5	足場ボルト〔W5/8〕	29	強度区分 4.6		13	警告ラベル〔安全に関するご注意〕	1	白ユートテトロン ラミネート	
6	連通管〔φ21.7×1.9-165〕	4	STK400		14	安全帯取付用足場座〔C3型〕	4	SAPH370	
7	キャップ 〔φ165.2用〕	1	SPHC						
8	底キャップ〔φ216.3用〕	1	SPHC						

ウインチ架台（両側用：併用タイプ）　日本ネットワークサポートまたは同等品

品番	品名	個数	材質	備考	品番	品名	個数	材質	備考
1	ウインチ取付架台 t4.5	2	SS400		5	六角ボルトM16×70×38〔付W,SW,N〕	4	強度区分 4.6	
2	ウインチ取付バンド t4.5	4	SS400		付属	取扱説明書〔ウインチ式〕	1	－	
3	リブプレート t4.5	16	SS材		別注	マックスブルハンドウインチ	2式	－	
4	角根丸頭ボルトM8×20×20〔付W,SW,N〕	8	SUS304						

ウインチ式吊下装置両側12本バンドレス型　日本ネットワークサポートまたは同等品

品番	品名	個数	材質		品番	品名	個数	材質	備考
1	共架金物〔ウインチ式用〕	2組	SS400		10	六角ボルト M6×12×12	2	鋼・SUS材 強度区分 4.6	
2	ホース吊下げ用滑車〔φ75〕	2	鋼・SUS材		11	ゴムブッシュ（29×63有効径）	2	SUS302	
3	シャックル〔φ12〕	4	SS材		12	商品ラベル	2	SS400	
4	ハンガー金物〔円形タイプ〕	2組	SS400		13	警告ラベル〔安全に関するご注意〕	2	SUS材	
5	ハンガーフック〔φ16〕	2	SS400		14	安全帯取付用足場座〔C3型〕	2	ﾅｲﾛﾝ樹脂	
6	ホースフック 〔φ16〕	12	SS400		15	商品ラベル	4	SWCH	
7	六角ナット,W,SW〔M16用〕	12組	強度区分 4		16	警告ラベル〔安全に関するご注意〕	4	SPHC	
8	イダリング 〔M16〕	12	SUS304		17	安全帯取付用足場座〔C3型〕	4	強度区分 4.6	
9	長ねじボルト M16×350 付W×2,SW×2,N×4	2組	強度区分 4.6						

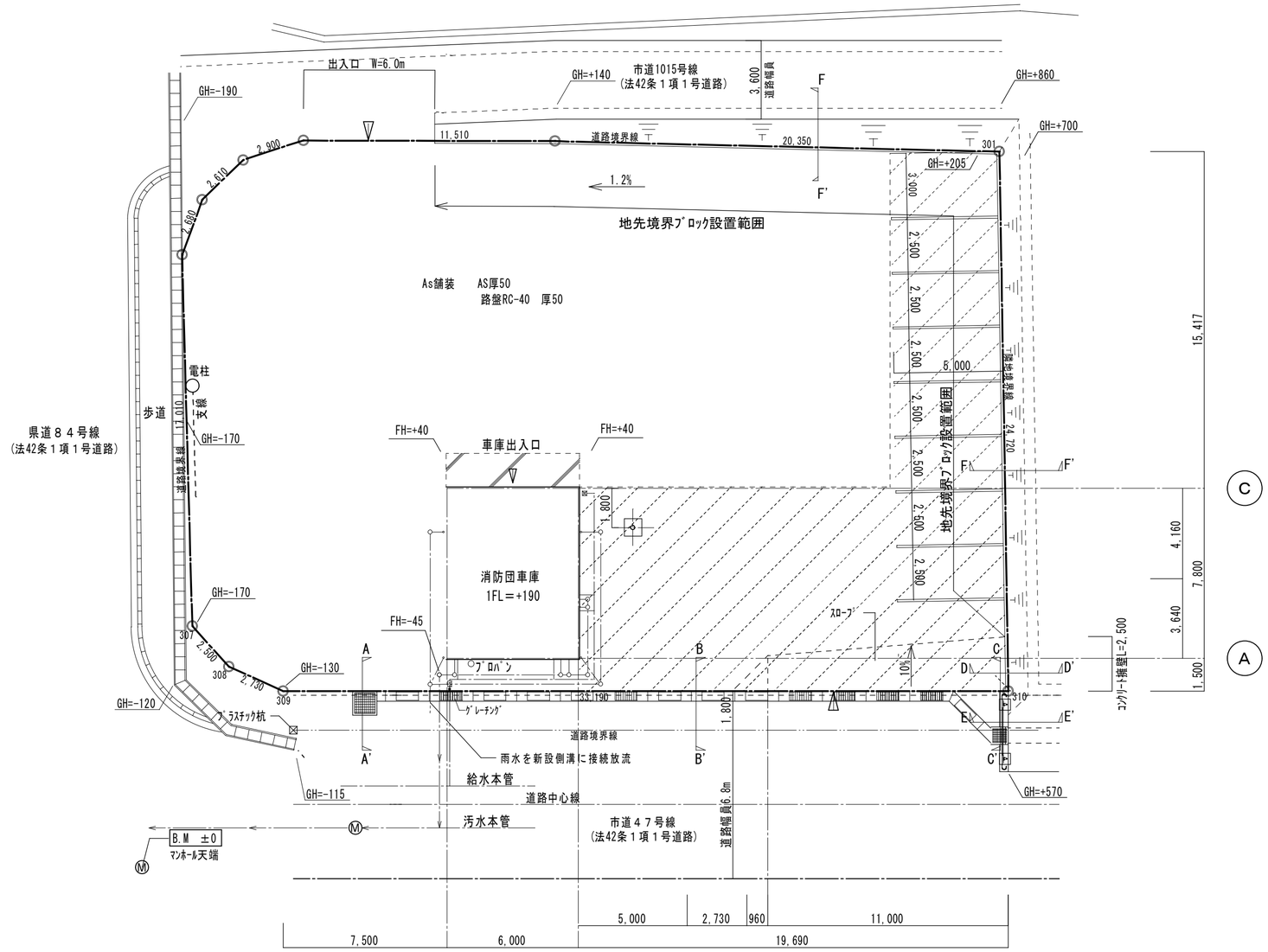
MEMO

一級建築士事務所
岐阜県知事登録
第８６３０号 一級建築士第93340号 野中 和弘
野中建築事務所

NO A-12　DATE H27.06

工事名 可児市消防団消防車庫第４分団第１部新築工事

図面名 ホース乾燥塔参考図　SCALE 1:10,50



ＧＨ：現況ﾚﾍﾞﾙ(mm)
ＦＨ：計画ﾚﾍﾞﾙ(mm)

※数値はB.Mからの高低差を示す。

浸透ｱｽﾌｧﾙﾄ部分を示す。

外構平面図 S:1/150

MEMO

一級建築士事務所
岐阜県知事登録
第８６３０号　一級建築士第93340号　野中　和弘

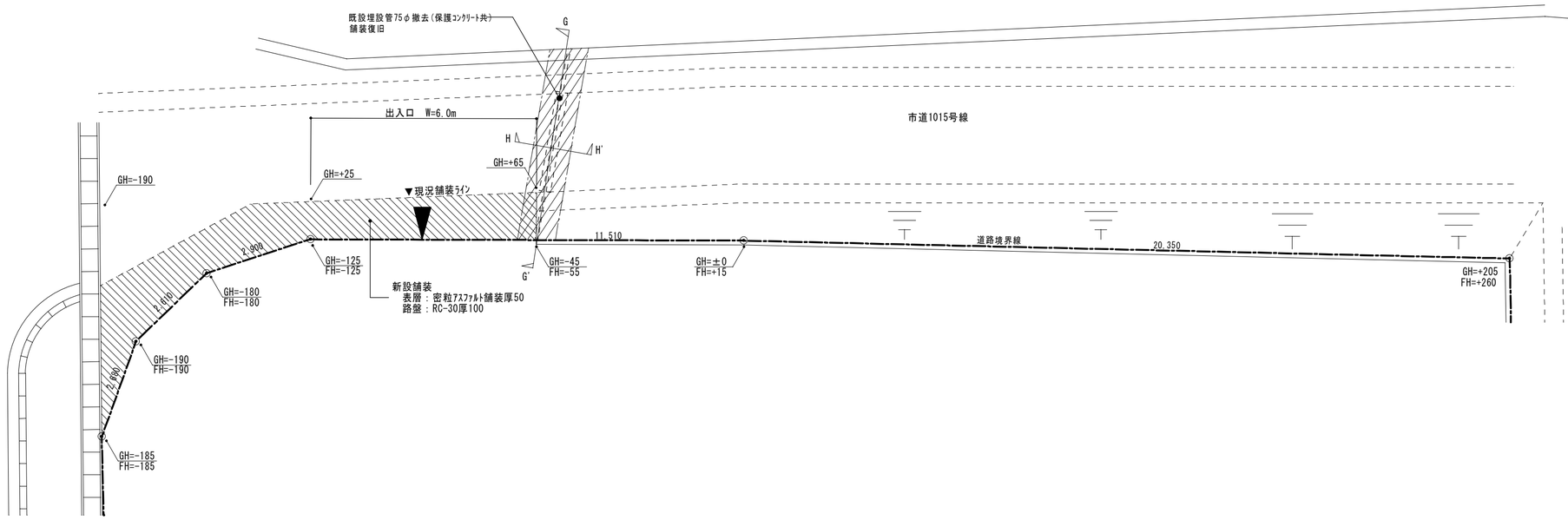
野中建築事務所

NO	DATE
A-13	H27.06

工事名　可児市消防団消防車庫第４分団第１部新築工事

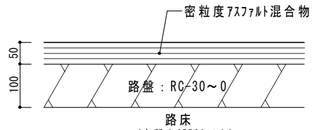
図面名　外構平面図図１　SCALE 1:150

西側道路改良図



敷地内ｱｽﾌｧﾙﾄ舗装詳細図　S=1:10

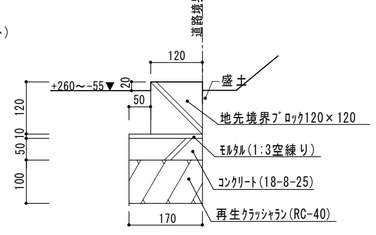
公道部ｱｽﾌｧﾙﾄ舗装詳細図S=1:10



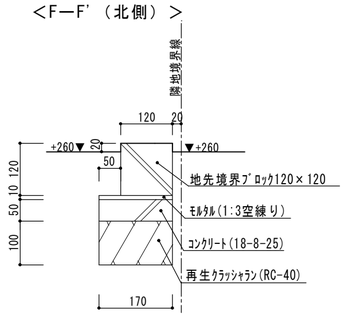
※公道部は可児市道路舗装基準による。

地先境界ﾌﾞﾛｯｸ詳細図　S=1:10

＜F—F'（西側）＞

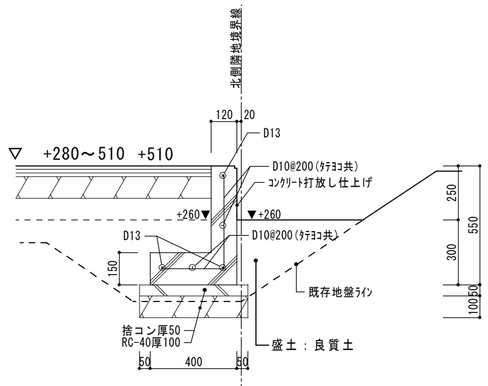


＜F—F'（北側）＞

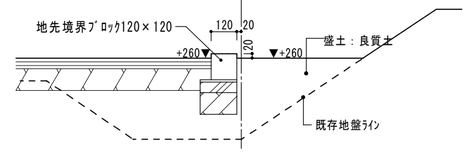


北側隣地境界線部詳細図　S=1:20

＜E—E'＞

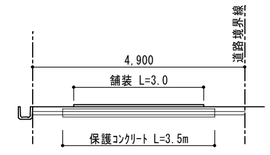


＜F—F'（北側）＞

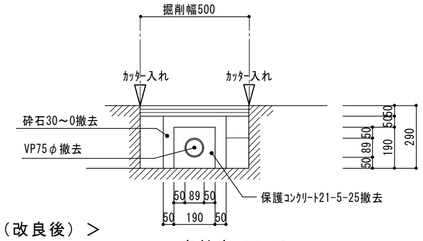


既設埋設管撤去部断面図　S=1:20

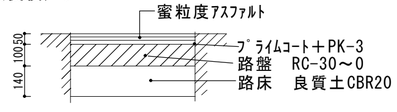
＜G—G'＞



＜H—H'（現況）＞



＜H—H'（改良後）＞



MEMO

一級建築士事務所
岐阜県知事登録
第８６３０号　一級建築士第93340号　野中　和弘

野中建築事務所

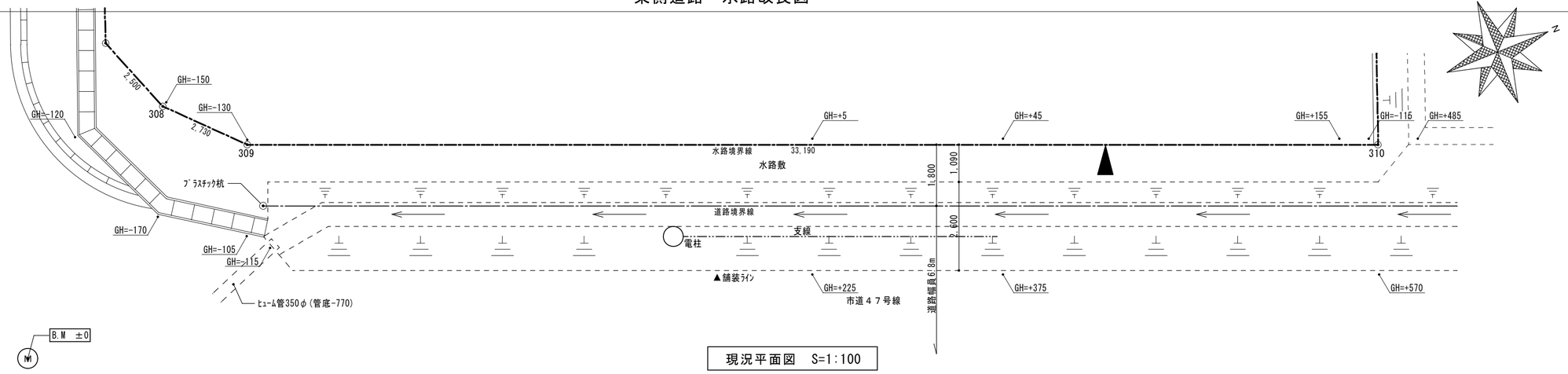
NO	DATE
A-14	H27.06

工事名　可児市消防団消防車庫第４分団第１部新築工事

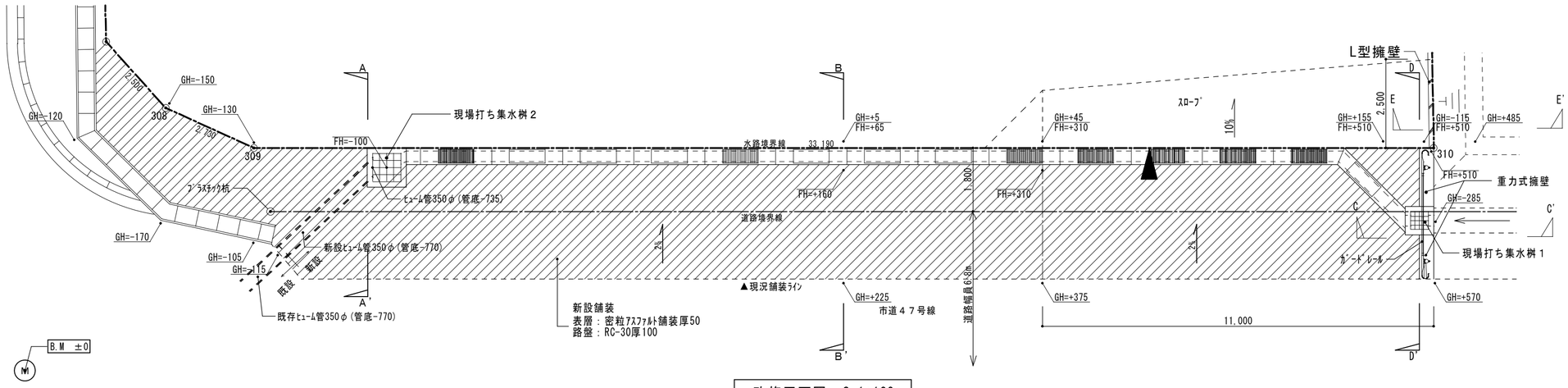
図面名　外構図１

SCALE 1:10,20,30
100

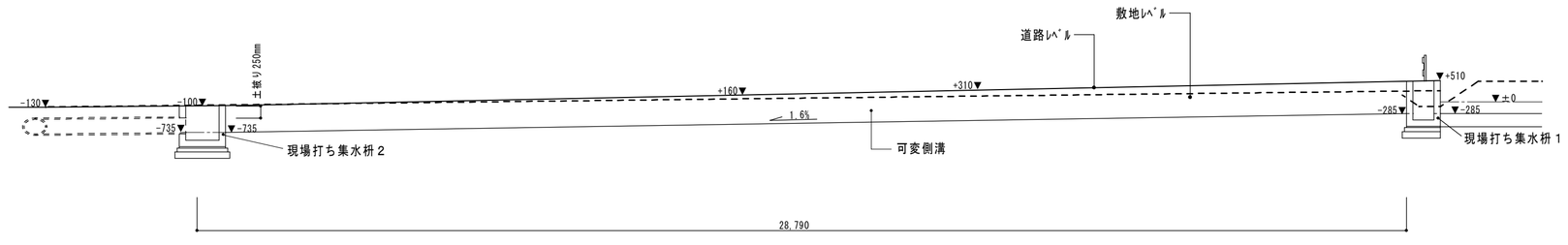
東側道路・水路改良図



現況平面図　S=1:100



改修平面図　S=1:100



可変側溝縦断図　S=1:100

GH：現況ﾚﾍﾞﾙ(mm)
FH：計画ﾚﾍﾞﾙ(mm)
※数値はB.Mからの高低差を示す。

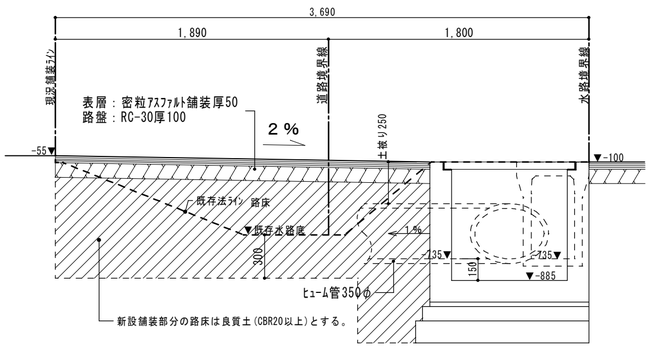
MEMO

一級建築士事務所
岐阜県知事登録
第８６３０号　一級建築士第93340号　野中　和弘
野中建築事務所

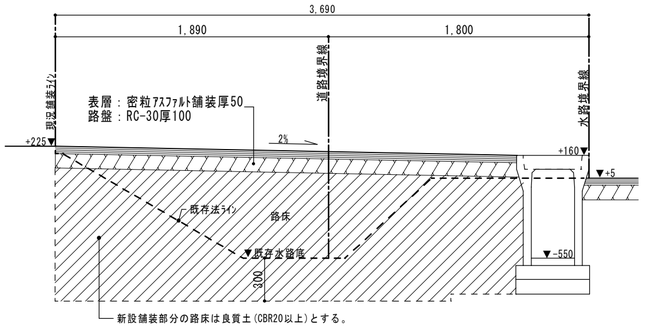
NO A-15
DATE H27.06
工事名 可児市消防団消防車庫第４分団第１部新築工事
図面名 外構図２
SCALE 1:100

水路部分横断断面図　S=1:30

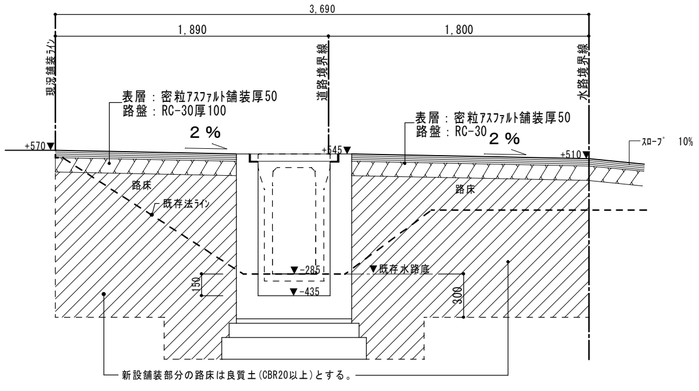
＜ A － A' ＞



＜ B － B' ＞



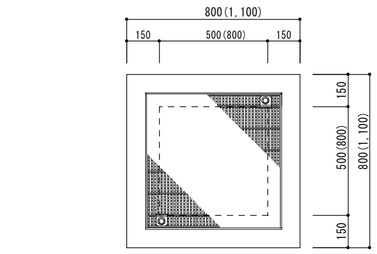
＜ C － C' ＞

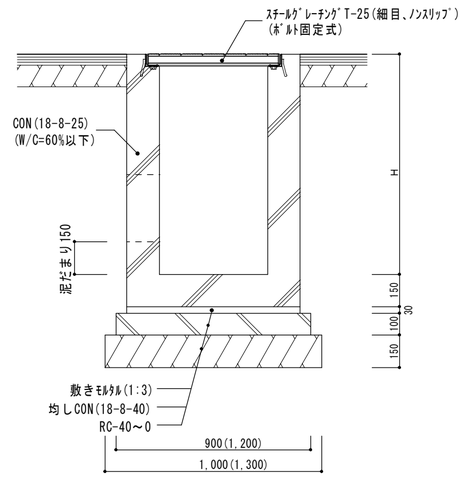


※　埋戻しには、建築敷地発生土の良質なものを含む

現場打ちｺﾝｸﾘｰﾄ集水桝断面詳細図　S=1:20）

＜ A － A' ＞

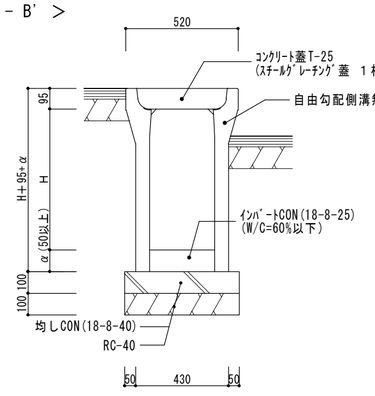




※(　)内寸法は、現場打ち集水桝２の寸法を示す。

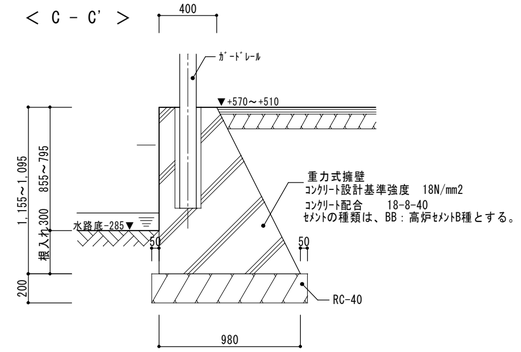
可変側溝300ﾀｲﾌﾟ断面詳細図　S=1:20

＜ B － B' ＞



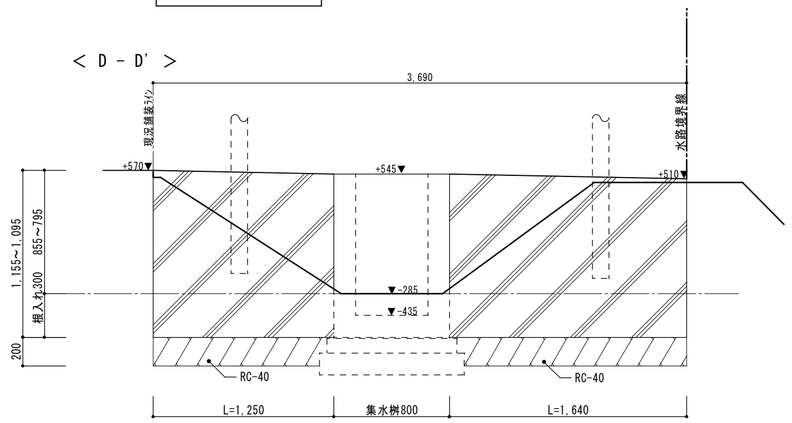
C-C' 断面図（重力式擁壁詳細図　S=1:30）

＜ C － C' ＞



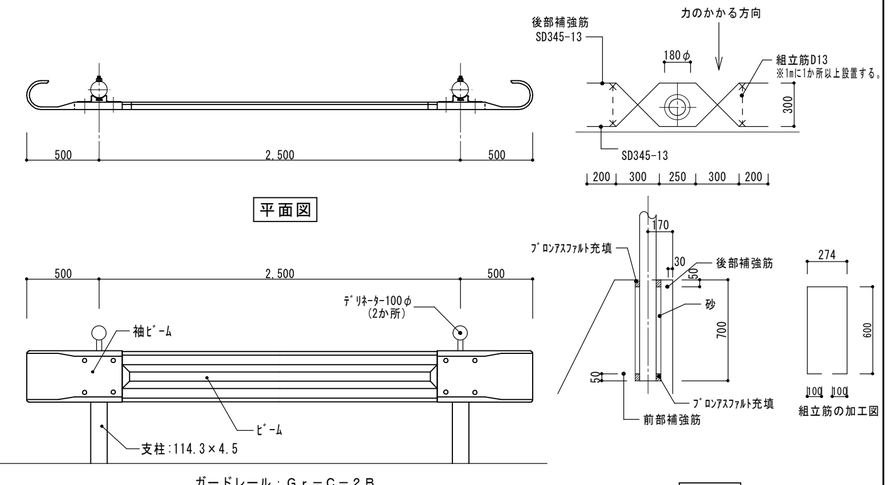
重力式擁壁断面図

＜ D － D' ＞



重力式擁壁展開図

ガードレール詳細図　S=1:30



MEMO

一級建築士事務所
岐阜県知事登録
第８６３０号　一級建築士第93340号　野中　和弘

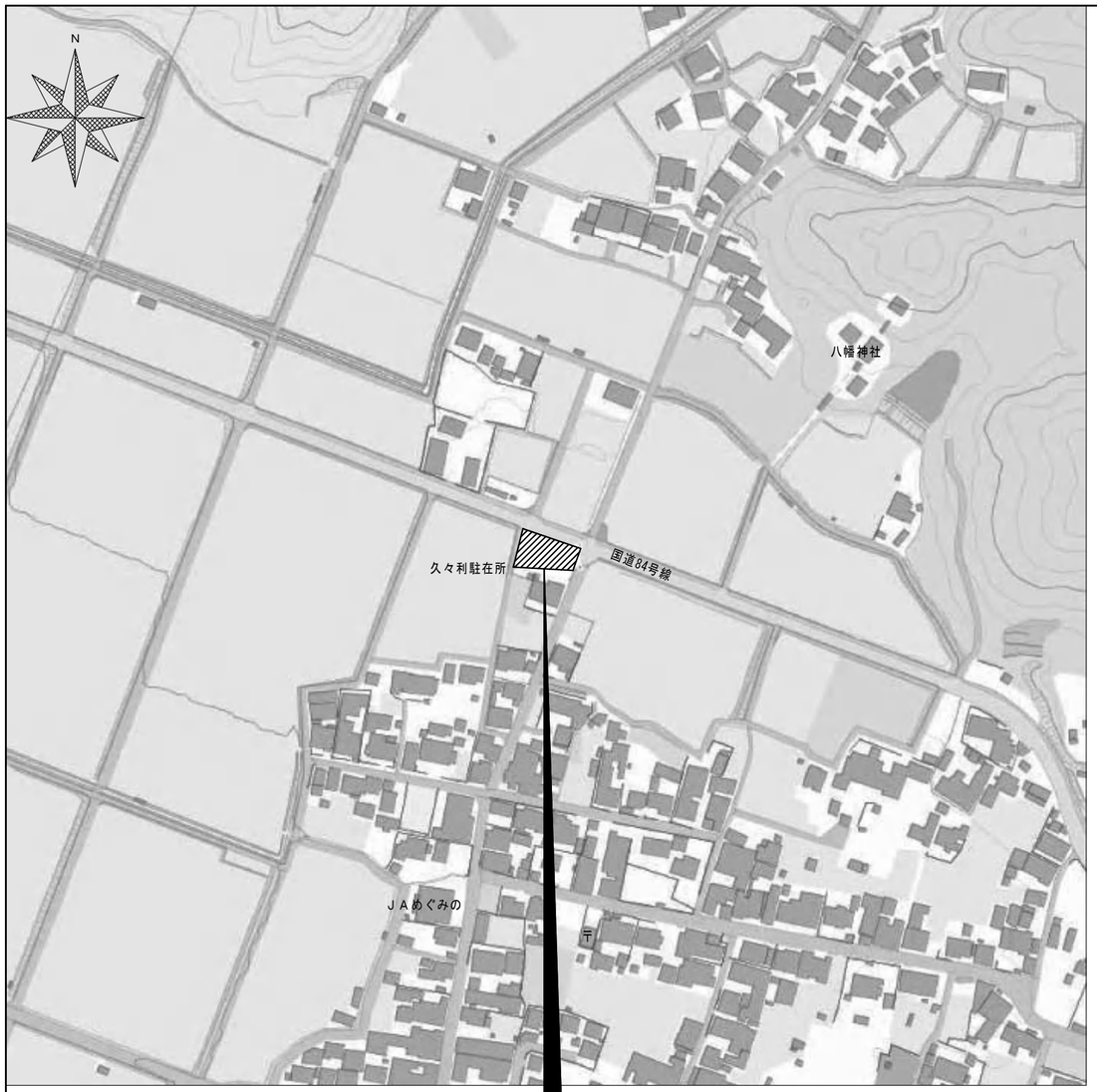
野中建築事務所

NO	DATE
A-16	H27.06

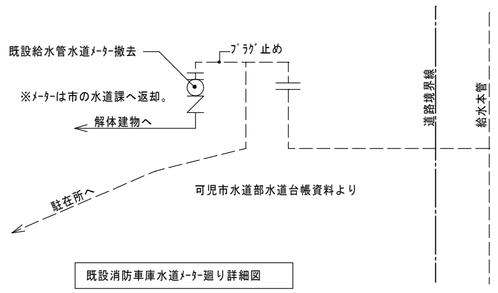
工事名　可児市消防団消防車庫第４分団第１部新築工事

図面名　外構図３

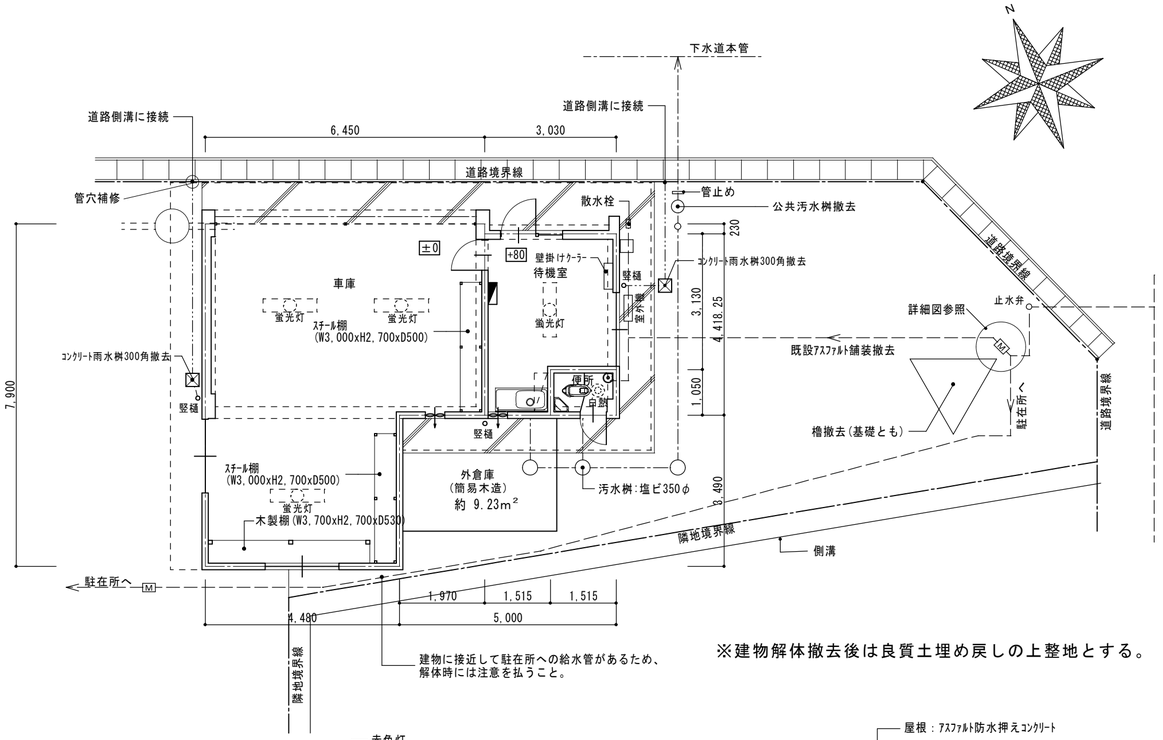
SCALE 1:20,30



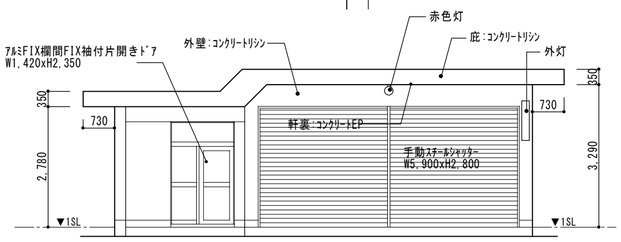
案内図　S=1:2500



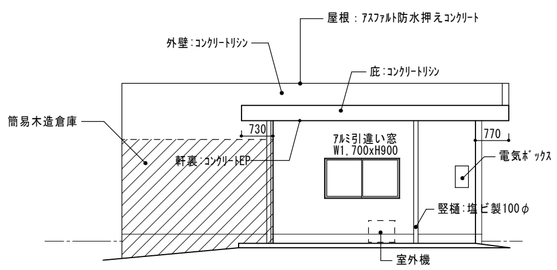
既設消防車庫水道ﾒｰﾀｰ廻り詳細図



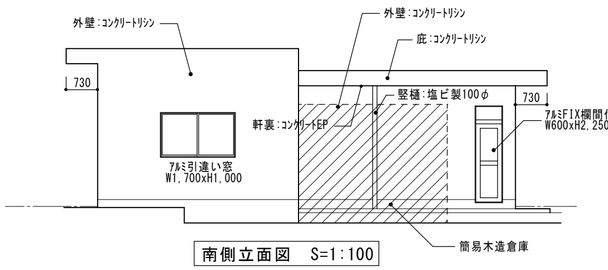
※建物解体撤去後は良質土埋め戻しの上整地とする。



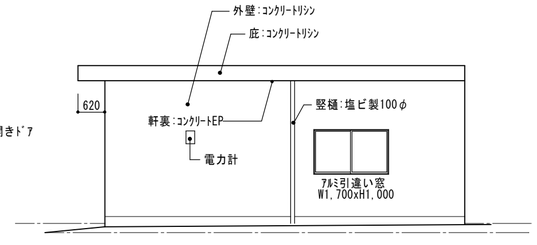
北側立面図　S=1:100



東側立面図　S=1:100



南側立面図　S=1:100



西側立面図　S=1:100

建　物　概　要	
地　名　地　番	岐阜県可児市久々利字八幡前
規　　模	ＲＣ造　　平屋建　（一部簡易木造倉庫あり）
床　面　積	約６５．９８㎡(内簡易木造倉庫9.23㎡)

解体建物仕上げ表

室　名	床	幅木	腰壁	壁	天井	廻り縁
車庫	ｺﾝｸﾘｰﾄ金ｺﾞﾃ仕上げ	ｺﾝｸﾘｰﾄ金ｺﾞﾃ　EP	ー	ｺﾝｸﾘｰﾄ打放し補修+EP	木毛ｾﾒﾝﾄ板	ー
待機室	ｺﾝｸﾘｰﾄ金ｺﾞﾃ仕上げ	木製　SOP　H=50	ー	ｺﾝｸﾘｰﾄ打放し補修+EP	ﾎﾞｰﾄﾞ+EP	木製
便所	ﾀｲﾙ貼	腰壁同材	ﾀｲﾙ貼H=1,000	ｺﾝｸﾘｰﾄ打放し補修+EP	ﾎﾞｰﾄﾞ+EP	木製

MEMO

一級建築士事務所
岐阜県知事登録
第８６３０号　一級建築士第93340号　野中　和弘
野中建築事務所

NO A-17　DATE H27.06

工事名　可児市消防団消防車庫第４分団第１部新築工事

図面名　解体建物図　SCALE 1:100

電気設備工事特記仕様書

工事概要

工事名称　　可児市消防団消防車庫第４分団第１部 新築工事
工事場所　　岐阜県可児市久々利字八幡前８９６－１１、９３０－１
構造規模　　鉄骨造　ラーメン構造　　延べ　93.60㎡

電気設備工事

工事項目

◎印又〇印は本工事に摘要するものとする。

⊙	電力引込設備工事	・	インターホン設備工事
・	受変電　〃	⊙	テレビ共聴　〃　（配管のみ）
⊙	幹線、引込　〃	・	ＩＴＶ　〃
⊙	電灯、コンセント　〃	・	自動火災報知　〃
⊙	照明器具　〃	・	避雷針　〃
⊙	電話配管　〃	・	屋外電気　〃
・	放送　〃	・	防火戸　〃

施工基準

本工事は上記工事項目を別図のように施工するもので、施工図及び仕様書に記載なき事項は国土交通大臣官房官庁営繕部監修の公共建築工事標準仕様書(電気設備工事編)・電気設備工事標準図・電気設備工事技術基準電力会社内線規程・消防法・建築基準法・その他関係法令に基づき完全に施工する事。

疑義

工事契約前に質疑回答書をもって確認する事。図面と仕様書が相違する場合、明記の無い場合、又は疑義の生じた場合は監督員の指示により施工の事。

申請手続

諸官庁及び電力会社等への申請手続は全て請負者が代行し、その費用は全額請負者の負担とする。

工事変更

本設計図に明記が無くても外観、構造及び技術上、当然必要と認められる工事は請負金額の範囲内に於いて監督員の指示に従い施工する事。

現場代理人の選出

本工事期間中は必ず専門技術者を現場代理人として工事監督者の任に当たること。

提出書類

工事範囲

	建築	電気	衛生	空調	別途
1．電気引み工事負担金		○			
2．電話機器及び配線		○ 配管のみ			
3．テレビ受信障害補償金					
4．受電後、引渡し迄の基本料金	○	○	○	○	
5．　〃　　使用電力料金	○	○	○	○	
6．電動機とその据付工事					
7．温、湿度調整関係の自動制御配管					
8．電極棒その据付工事					
9．エレベーター用電源開閉器及び負荷側の一切の工事					
10．エレベーターの非常用インターホンの配管工事					
11．天井埋込換気扇とその取付工事					
12．天井埋込壁照明器具の穴明け補強工事	○				
13．工事に関する申請業務の必要経費	○	○	○	○	
14．工事に関する試験、検査等の必要経費	○	○	○	○	
15．工事に必要なスリーブ及び点検口		○			
16．工事に必要なＢＣ，ＳＢＣ染スリーブ及び補強	○				
17．設備機器電源端子接続迄		○			

配管配線

一般事項

1．特記なき配線は６００Ｖビニール絶縁電線とする。
2．入選は標準の色分け配線とする。
3．電線相互の接続は圧着端子を使用する。
4．管の埋込み、又は貫通は監督員の指示に従い建造物の構造及び強度に支障のないように行う。
5．湿度の多い場所に施設する配管は防湿工事を施す。
6．ボックス廻りの配管はボンドをとる。
7．空配管にはビニール被覆鉄線（心線径１．６㎜）を入れる。
8．露出管路の塗装は指定ペンキ塗りとする。
9．天井位置ボックスをコンクリート打ち込みとする場合はコンクリートボックスを使用すること。
10．コンクリートに打ち込む位置ボックス、プルボックス等野内面は打込み後絶縁性錆止め塗装を施す。
11．防火区画貫通部においては、図面に記載なくとも金属管にて保護する。

(1) 引込

1．電圧、引込方式
⊙ 低圧　・ 高圧
⊙ 架空　・ 地中　・ 架空及び地中
2．引込柱
⊙ 電力会社より直接引込　・ 本工事にて構内引込柱建柱
3．電力引込負担金
⊙ 本工事　・ 別途

(2) 電力方式

1．高圧　・ 3φ3W　・6．6KV
2．動力幹線　・ 3φ3W　・２１０V
3．電灯幹線　⊙ 1φ3W　⊙２１０／１０５V
4．電灯回路　⊙ 1φ3W　・２００V　⊙ １００V

3．受変電設備工事

1．構造　・ 屋内開放型　・ 屋内キュービクル型
・ 屋内閉鎖型　・ 屋外キュービクル型
2．コンクリート基礎は本工事とする。

(4) 幹線、引込設備工事

1．配線方式
・ ＣＤ管　・ 金属ダクト　・ ケーブル　・ 金属管　・ ＰＦ管
⊙ ＨＩＶＥ管　・ ＦＥＰ管
2．電線ケーブル
⊙ ＩＶ　・ ＶＶ－Ｆ　・ ＣＶ　⊙ ＣＶＴ
3．送りスイッチ　盤

(5) 電灯、配電設備工事

1．配電方式
・ 金属管　・ 硬質ビニール管　・ フロアダクト　⊙ ＰＦ管　・ 金属線
・ ＣＤ
2．電線ケーブル
・ ＩＶ　⊙ EM-EEF　・ ＣＶ　・ ＣＶＴ
3．分電盤
4．配線器具

(6) 照明器具設備工事

器具は、設計図書に記載の姿図に基づき、承認を得た後、制作及び取付け等を行うものとする。
1．ＦＬ４０Ｗ以上はラビット高力率形
2．非常照明　・ 電源内蔵　・ 電源別途

(7) 電話配管設備工事

1．配管路　・ 金属管　・ フロアダクト　）ＷＡＹ　・ ＣＤ管
⊙ ＰＦ管
2．端子盤　端子取付用木板は１８㎜以上とする。
3．接地　接地は交換機用及び保安機用の一切を施工するものとする。

8．放送設備工事

1．各系統の放送機器の構成
2．図示なくても増幅器その他機器に接地工事を行う。

9．インターホン設備工事

設備系統　・ 親子式　・ 相互式　・

(10) テレビ共聴設備工事（配管のみ本工事）

1．各端子ＴＶセットにおける電界強度は７０ｄｂ以上とする。
2．アンテナ予定位置ならびに近隣の電界強度等を測定し、データを提出する。
又、系統におけるレベルダイヤフラムを提出する。
3．ＣＡＴＶ加入手続も本工事による。只し、入会金は別途とする。

11．ＩＴＶ設備工事

防犯、業務その他管理運用のために設置するＩＴＶ設備とし、テレビ制御盤、受像機の取付け及び配管配線を施工する。

12．自動火災報知設備工事

消防法、同施行令、同施工基準ならびに火災予防条例に従い施工するものとする。

13．避雷針設備工事

ＪＩＳＡ－４２１０による。その他は下記による。
接地極銅板のみにて基定の抵抗値が得られない場合は補助接地を行い基定の抵抗値を得るよう施工のこと。

14．屋外電気設備工事

1．外灯　・ 屋外幹線　・ 屋外弱電
2．管　・ トラフ　・ ＨＩＶＥ管　・ ＦＥＰ管
・ 硬質塩化ビニール管

15．防火戸設備

16．電話交換機設備

17．電気時計設備

18．表示器設備

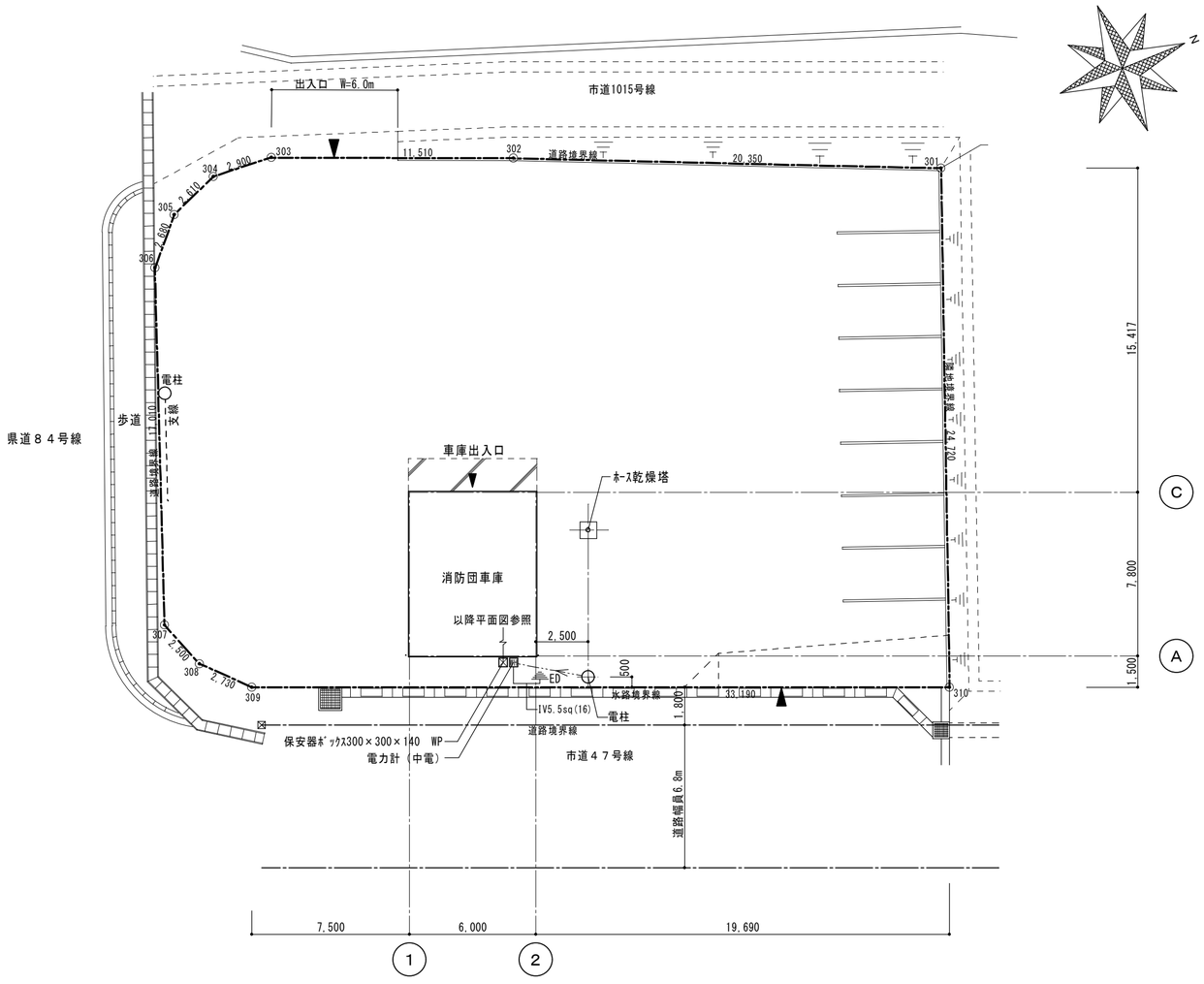
19．非常通報設備

メーカー等
評価名簿搭載メーカー、ＪＩＳマーク表示品
∴　その他監督員が認めたもの

MEMO

一級建築士事務所
岐阜県知事登録
第８６３０号　一級建築士第93340号　野中　和弘
野中建築事務所

NO E-01　DATE H27.06
工事名　可児市消防団消防車庫第４分団第１部新築工事
図面名　電気設備工事特記仕様書　SCALE 1:－



配置図　S=1:200

照明器具リスト

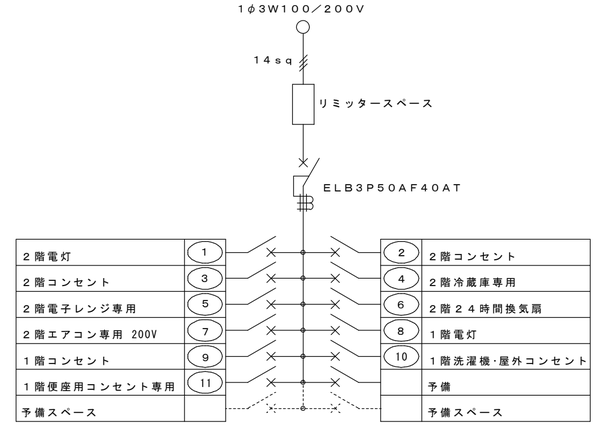
符号	型　式	参考品番	数量
A	ＦＨＦ３２Ｗ×１	ＦＳＡ４１０３８Ｆ	3
B	ＦＨＦ３２Ｗ×２	ＦＳＡ４２００１Ｆ	3
C	ＦＬ２０Ｗ×１	ＨＷ７２５	1
D	ＦＬ２０Ｗ×１	ＨＷ２７５ＫＴ	1
E	ＦＨＴ２４Ｗ×１	ＮＦＭ４１７２６	2
F	ＥＦＴ２２Ｗ×１	ＮＦ２１７８６Ｋ	1
G	ＬＥＤ２．２Ｗ×１ 赤色灯	ＮＮＦ２０２９３	1
H	ＪＤ５００Ｗ×１	ＹＡ５５８４９Ｋ	1
I	ＪＤ１００Ｗ×１	ＹＫ５３８４９Ｋ	1

換気扇リスト

	符号	型　式	ダクト径 φ	風量 m3／h	電源 相	電源 V	消費電力 W	付属品	参考品番	数量
24時間換気設備	ＥＦ－１	壁付格子タイプ換気扇 電気シャッター付	２５０	７１５	１	１００	１７．５	ウェザーカバー防鳥網付（ＳＵＳ製）・不燃枠	ＸＦＹ－２５ＥＥ５/４３	1
	ＥＦ－２	壁付換気扇 電気シャッター付	２５０	９１８	１	１００	２７．５	ウェザーカバー防鳥網付（ＳＵＳ製）・不燃枠	ＦＹ－２５ＥＭ５	1
	ＥＦ－３	壁付格子タイプ換気扇 電気シャッター付	２００	５０５	１	１００	１３．５	ウェザーカバー防鳥網付（ＳＵＳ製）・不燃枠	ＨＦＹ－２０ＥＥ５/４３	1
	ＥＦ－４	格子タイプパイプファン 電気シャッター付	１００	１０７	１	１００	４．６	ガラリ付ＳＵＳ製丸型フード	ＦＹ－０８ＰＤＵＫ８	2
	ＯＡ－１	角型給気レジスター　ブッシュ式 フィルター付	１００	－	－	－		防虫網付ＳＵＳ製丸型フード	FY-MNX042	1

Ｌ－１

樹脂製　蓋付　埋込形



MCB1P50AF20AT × 10
MCB2P50AF20AT × 2

河村電器CLA-3412-2FL同等品

MEMO

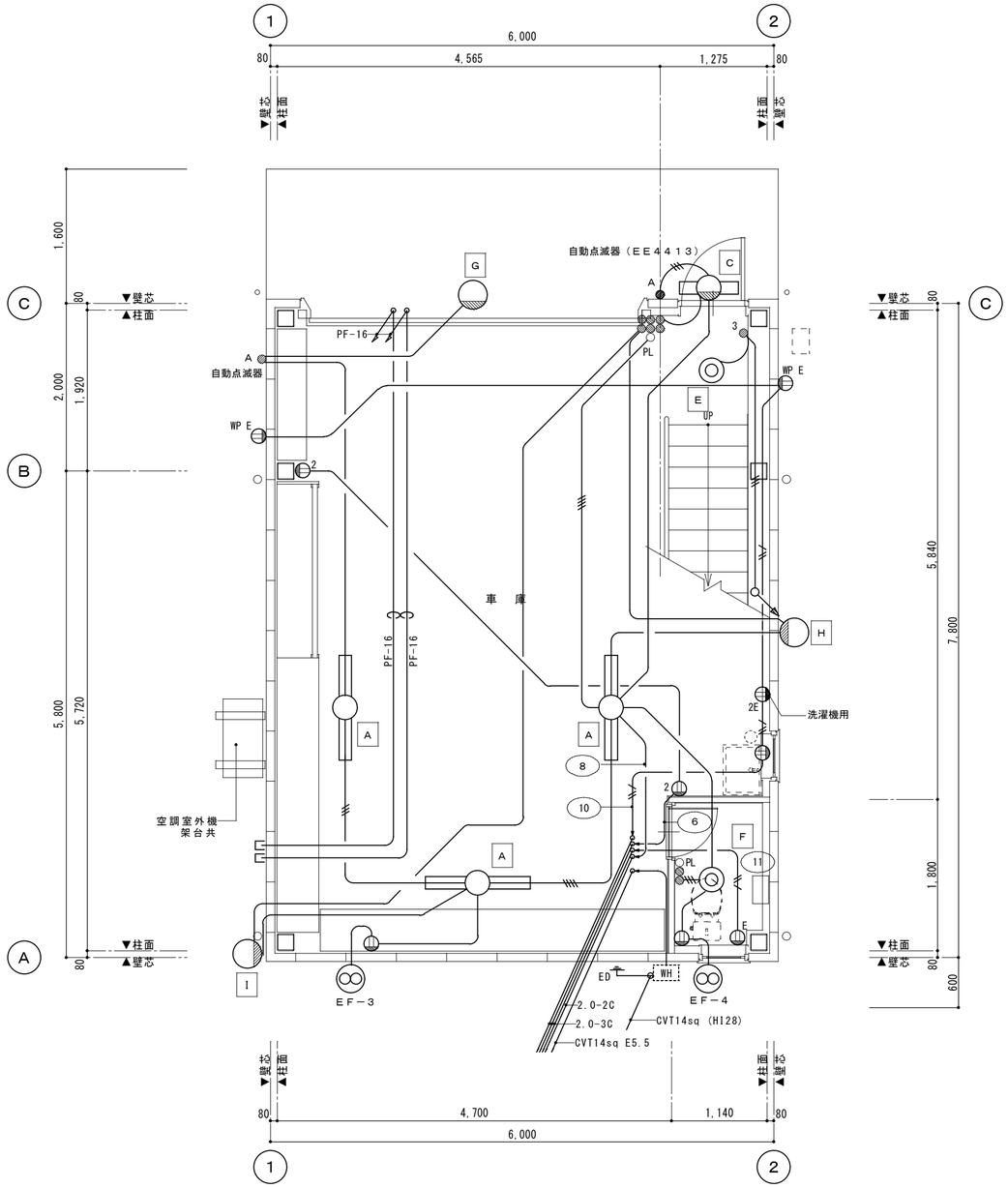
一級建築士事務所
岐阜県知事登録
第８６３０号
野中建築事務所
一級建築士第93340号　野中　和弘

NO	DATE
E-02	H27.06

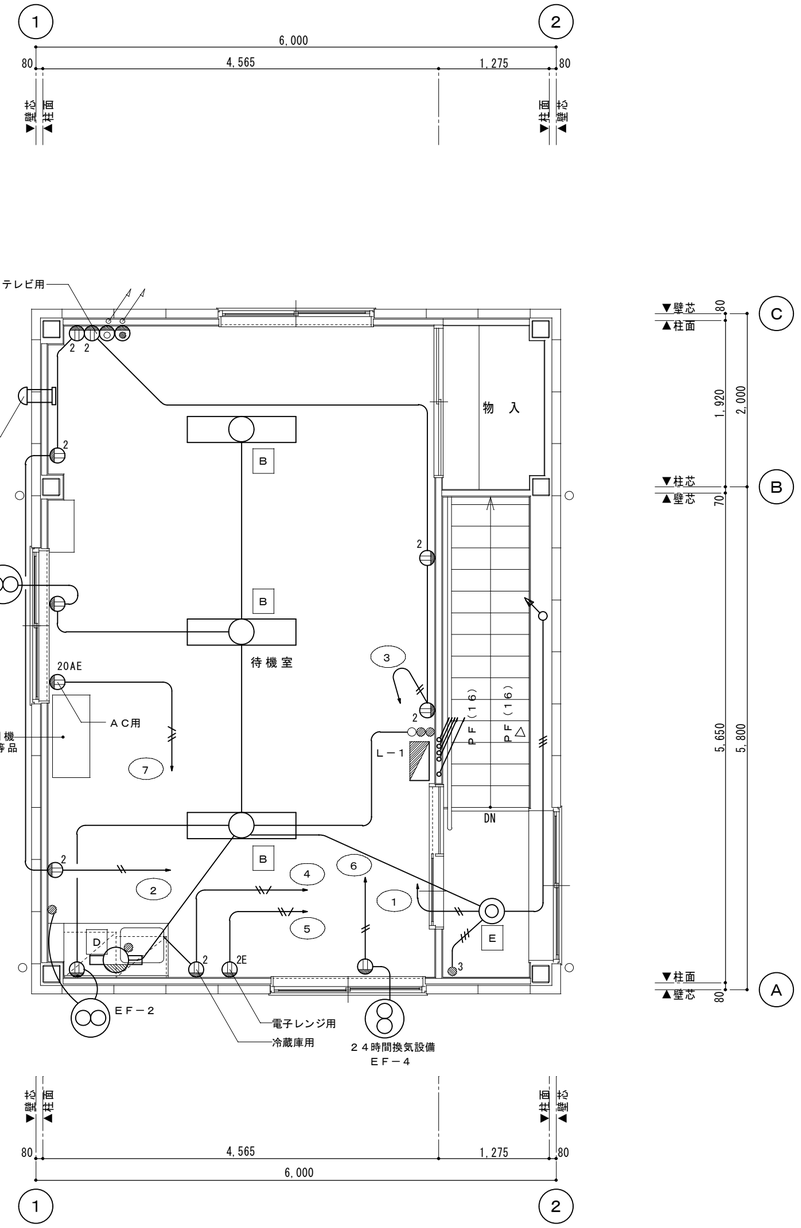
工事名　可児市消防団消防車庫第４分団第１部新築工事

図面名　電気設備配置図
電気設備機器表・盤図

SCALE 1:200



１階平面図　S=1/50



２階平面図　1/50

特記なき配線は、下記による。

- EM-EEF１．６－２Ｃ
- EM-EEF１．６－３Ｃ
- EM-EEF２．０－２Ｃ
- EM-EEF２．０－３Ｃ
- EM-EEF１．６－２Ｃ×２

MEMO

一級建築士事務所
岐阜県知事登録
第８６３０号　一級建築士第93340号　野中　和弘

野中建築事務所

NO E-03

DATE H27.06

工事名　可児市消防団消防車庫第４分団第１部新築工事

図面名　電気設備平面図　SCALE 1:100

機械設備特記仕様書

工事概要

工事名称　可児市消防団消防車庫第４分団第１部 新築工事

工事場所　岐阜県可児市久々利字八幡前８９６－１１、９３０－１

工事規模　鉄骨造　ラーメン構造　延べ　93.60㎡

工事仕様

施工基準

本工事施工に際しては、本仕様書、施工図並びに国土交通大臣官房官庁営繕部監修公共建築工事標準仕様書(機械設備工事編)・機械設備工事標準図（最新版）・消防法・建築基準法・その他関係法令に基づき完全に施工する事。（日本建築家協会、その他仕様書）

疑義

工事契約前に質疑応答書をもって確認する事。図面と仕様書が相違する場合、明記の無い場合、又は疑義の生じた場合は監督員の指示により施工の事。

申請手続

諸官庁等への申請手続は全て請負者が代行し、その費用は全額請負者の負担とする。

工事変更

本設計図に明記が無くても外観、構造及び技術上、当然必要と認められる工事は請負金額の範囲内に於いて監督員の指示に従い施工する事。

現場代理人の選出

本工事期間中は必ず専門技術者を現場代理人として工事監督者の任に当たること。

提出書類

監督員が指定するものを提出すること。

給排水衛生設備工事

工事項目

⊙印又は○印は本工事に適用するものとする。

○給水設備工事	・し尿浄化槽設備工事	・焼却炉設備工事
○排水通気設備工事	・消火設備工事	・ろ過設備工事
○給湯設備工事	○ガス設備工事	・油配管設備工事
○衛生器具設備工事	・仮設設備工事	・融雪設備工事

1．給水設備工事

①・既設量水器を新型へ改良以降給水栓まで。

２・重力方式は受水槽及揚水ポンプ、高架水槽を経て各給水栓まで。

③ 量水器　支給品　13　㎜　1　個

副量水器　本工事　㎜　個

④ 計量方式　⊙一括方式　・分割方式

５．受水槽　Ｖ＝　㎥　寸法　x　x　ｍＨ

６．高架水槽　Ｖ＝　㎥　寸法　x　x　ｍＨ

架台　＝　㎝　ｍＨ

７．揚水ポンプ　㎜　x　Ｌ／ｍｉｍｘ　ｍｘ　ｋＷ

台

・基礎　・本工事　・別途（建築工事）

⑧ 水圧試験

直圧部及びポンプアップ部（１７．５kg／cm －１時間以上）

その他　（１０Ｋｇ／ｃｍ２－１時間以上）

⑨・配管材料

○ＪＷＷＡＫ－１１６（ＶＬＰ）ＶＢ

⊙ＪＷＷＡＫ－１１８（耐衝撃ＨＩＶＰ）屋外埋設

・ＪＷＷＡＫ－１３２（ＰＤ）埋設　・水道用ポリエチレン管　（仮設）

・ＪＷＷＡＫ－１３２（ＰＢ）

⑩ 弁類

○一次側　ＪＩＳ１０Ｋ　ＧＶ（コアー付き）　６５Ａ以上　ＧＶ　ＪＩＳ１０Ｋ（ライニング）

・二次側　ＪＩＳ５Ｋ　ＧＶ（コアー付き）　６５Ａ以上　ＧＶ　ＪＩＳ１０Ｋ（ライニング）

○一次側　ＪＩＳ１０Ｋ　ＧＶ　（仮設）

⑪・備考

埋設深さ　・３００　⊙４５０　・６００　・７５０

2．排水、通気設備工事

① 排水方式　・分流式　⊙合流式

② 放流先　⊙下水本管　・一般排水路

③ 工事限界　各排水器具より汚水桝を経て既設下水配管接続まで。

④ 配管材料　⊙ＪＩＳＫ－６７４１（ＶＰ）　・ＷＳＰ－０３２（　ＴＡ）

・ＨＡＳＳ－２０３（排水用ＬＰ）　・ＪＩＳＡ－５３０３（ＨＰ）

・ＪＩＳＧ－３４５２（ＳＧＰ）（白）　・ＪＩＳＧ－５５２５（ＣＩＰ）

・石綿二層管（汚水）　・ＷＳＰ－０４２（ＶＡ）

・ＪＩＳＫ－６７７６（ＨＴ）（埋設）

⊙ＪＩＳＫ－６７４１（ＶＵ）

3．給湯設備工事

１．ボイラ　・立型　ｌｍ2燃焼　灯油　焚き　台

・壁掛

２．工事限界

３．配管材料　・ＪＩＳＨ－３３００（被覆銅管Ｌタイプ）

・ＪＩＳＧ－３４４８（ＳＵＳ管）

・耐熱ライニング管（ＨＴＬＰ）

４．弁類　・５０Ａ以下　ＪＩＳ１０Ｋ　ＧＶ

・６５Ａ以上　ＪＩＳ１０Ｋ　ＧＶ（ＳＵＳ製）

⑤ 給湯器　・ガス給湯器（元止式）

4．衛生器具設備工事

① 洗浄方式　大便器　⊙ロータンク方式　・フラッシュ弁方式　・センサー方式

小便器　・押ボタンフラッシュ方式　・センサー方式

② 工事限界　衛生器具及び附属品の取付けまで。尚軽量壁の場合は予じめ補強材を挿入して取付けること。

5．し尿浄化槽設備工事

１．単独式　１）分離接触バッキ式　製　人槽

２）合併処理槽　Ｖ＝　㎥／日

２．放流方式　３）自然放流

４）ポンプアップ式　ｍｍｘ　Ｉ／ｍｘｉｍ　ｍｘ　ｋｗ

台　相　Ｖ

３．放流水　・ＢＯＤ　（ＰＰＭ）　・ＳＳ　（ＰＰＭ）

４．放流先　・一般排水路

５．工事限界　本体及び内部１式（ブロワー、空気配管も含む）尚、電気工事の区分は操作盤への電源接続までを１次側（電気工事）として以降は本工事とする。

6．消火設備工事

１．（・屋内　・屋外）消火栓

２．スプリンクラー

３．泡消火　・型式　・固定　・移動

４．配管材料　・ＪＩＳＧ－３４５２（ＧＰ）　・ＳＧＰ－ＶＳ

7．ガス設備工事

① 供給方式　・都市ガス直結（供給会社の責任施工）

⊙プロパンガス（配管径は都市ガスサイズ）

② 工事限界　配管及び器具の取付調整まで。

③ 配管材料　⊙ＪＩＳＧ－３４５２（ＧＰ）　・被覆鋼管

都市ガスの場合は供給会社の認定品。尚ガスコックは全てコンセント型化流出防止装置付きとする。（湯沸器用は可とう管コック）

４．厨房設備工事

５．焼却炉設備工事

8．ろ過設備工事

１．材料　・ＪＩＳＫ－６７７６（ＨＴ）　・ＪｗｗＡＫ－１１８（ＨＩ）

・ＪＩＳＫ－６７４１（ＶＰ）　・ＪＩＳＧ－３４５２（白）

9．油管設備工事

１．材料　・ＪＩＳＧ－３４５２（黒）

１０．融雪設備工事

１．方式　源水槽より動力式とする。

２．配管材料　・ＪＩＳＫ－６７７６（ＨＴ）

⑪ 保温工事

保温の施工、種別、保温材の厚さは標準仕様書第３章２．３．５．～２．３．７表を適用する。

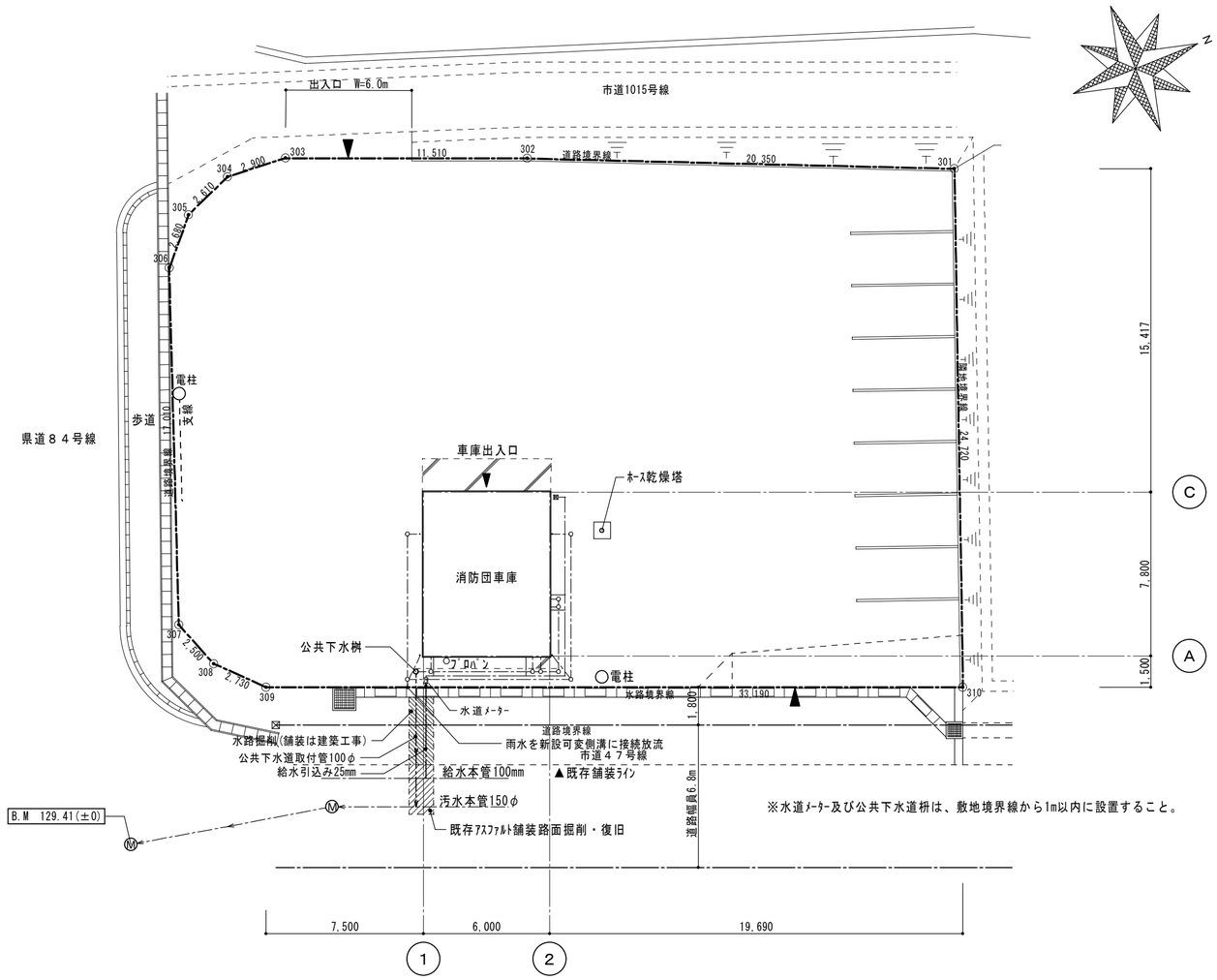
MEMO

一級建築士事務所
岐阜県知事登録
第８６３０号
野中建築事務所
一級建築士第93340号　野中　和弘

NO M-01　DATE H27.06

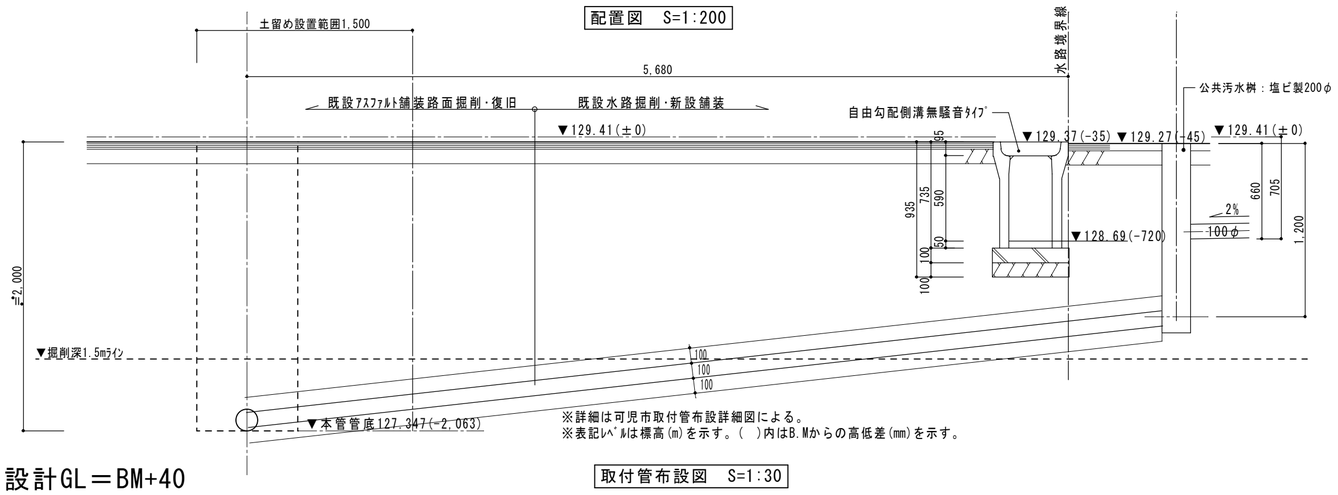
工事名　可児市消防団消防車庫第４分団第１部新築工事

図面名　機械設備工事特記仕様書　SCALE 1:-



配置図 S=1:200

※水道ﾒｰﾀｰ及び公共下水道桝は、敷地境界線から1m以内に設置すること。



※詳細は可児市取付管布設詳細図による。
※表記ﾚﾍﾞﾙは標高(m)を示す。( )内はB.Mからの高低差(mm)を示す。

取付管布設図 S=1:30

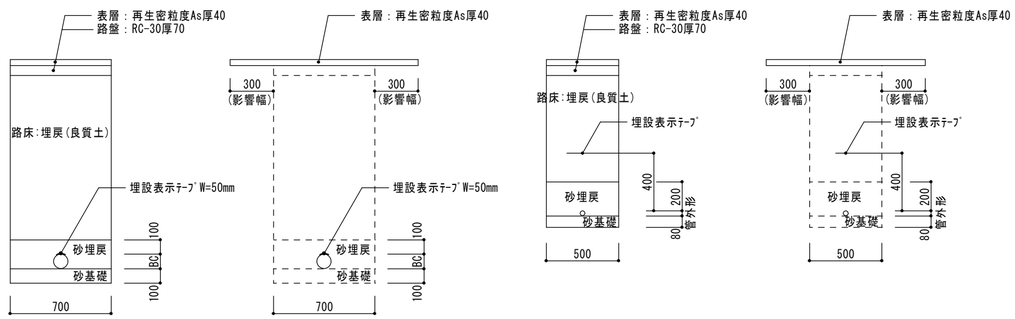
設計GL＝BM+40

配管凡例

	名称	配管位置	配管種類	記号	規格
———	給水管	屋外土中埋設配管	水道用耐衝撃性硬質塩化ビニル管	ＨＩＶＰ	JIS K 6742
		屋内埋設配管	水道用耐衝撃性硬質塩化ビニル管	ＨＩＶＰ	JIS K 6742
		屋内一般配管	水道用硬質塩化ビニルライニング鋼管	ＳＧＰ－ＶＢ	JWWA K 116
———	排水管	屋外土中埋設配管	水道用硬質塩化ビニル管(薄肉管)	ＶＰ	JIS K 6741
		屋内埋設配管	水道用硬質塩化ビニル管(一般管)	ＶＰ	JIS K 6741
		屋内一般配管	水道用硬質塩化ビニル管(一般管)	ＶＰ	JIS K 6741
——G———	ガス管	屋外土中埋設配管	ガス配管用ポリエチレン管	ＰＥ	JIS K 6774
		屋内埋設配管	ガス配管用ポリエチレン管	ＰＥ	JIS K 6774
		屋内一般配管	ガス配管用炭素鋼鋼管(白)	ＳＳ	JIS G 3452

衛生設備器具表

器具名称	器具参考品番	器具付属品(参考品番)・備考	数量
洋風便器	GBC－１１０ＳＴＵ	タンク(ＤＴ－Ｃ１８２Ｕ) ｳｵｼｭﾚｯﾄ付・付属品一式共	1
埋込収納付紙巻器	ＴＳＦ-２１１		1
タオル掛け	ＫＦ－７１		1
ガス給湯器	ＲＵＳ－Ｖ５１ＹＴ	元止め式５号 アングル止(ＬＦ－３ＳＴ－１３)、ガス可とう管コック、ガスフレキ 他付属品一式共	1
泡沫自在水栓	ＬＦ－１２Ｆ－１３		2
取外し式散水栓	ＬＦ－１３Ｇ－１３－ＣＶ	Ｂ－３	1
			1
ガスコック	一口コック	過流出安全弁付	1
ステンレス一層シンク	建築工事	排水接続 本工事	1
流し台	建築工事	排水接続 本工事	1
			1
洗濯用排水トラップ	ＴＰ－３２		1
洗濯機用水栓	ＬＦ－３５－１３－ＣＶ		1



※仕様は標準であり、現場の仕様と合わせること。

※仕様は標準であり、現場の仕様と合わせること。

MEMO

一級建築士事務所
岐阜県知事登録
第８６３０号 一級建築士第93340号 野中 和弘

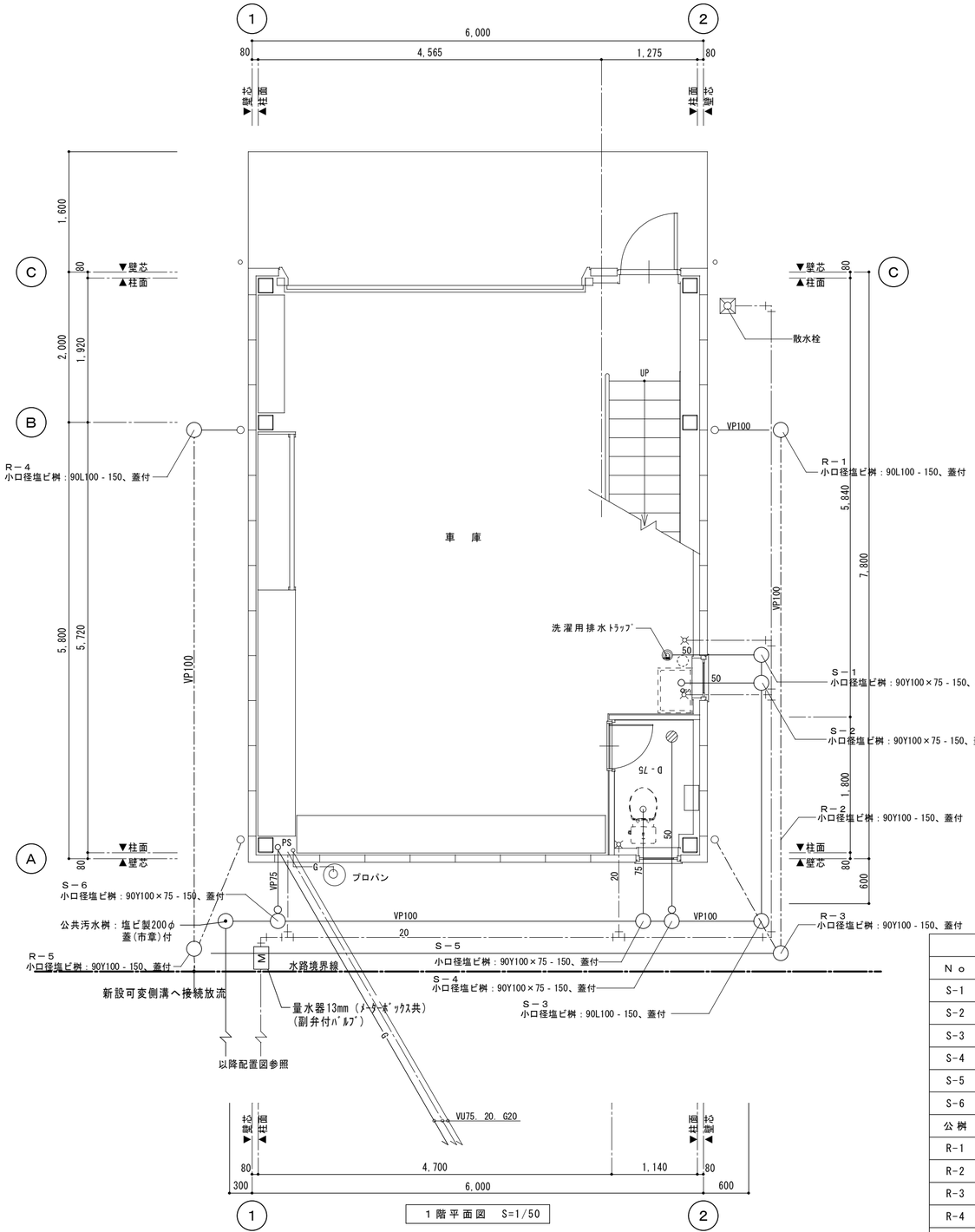
野中建築事務所

NO M-02 | DATE H27.06

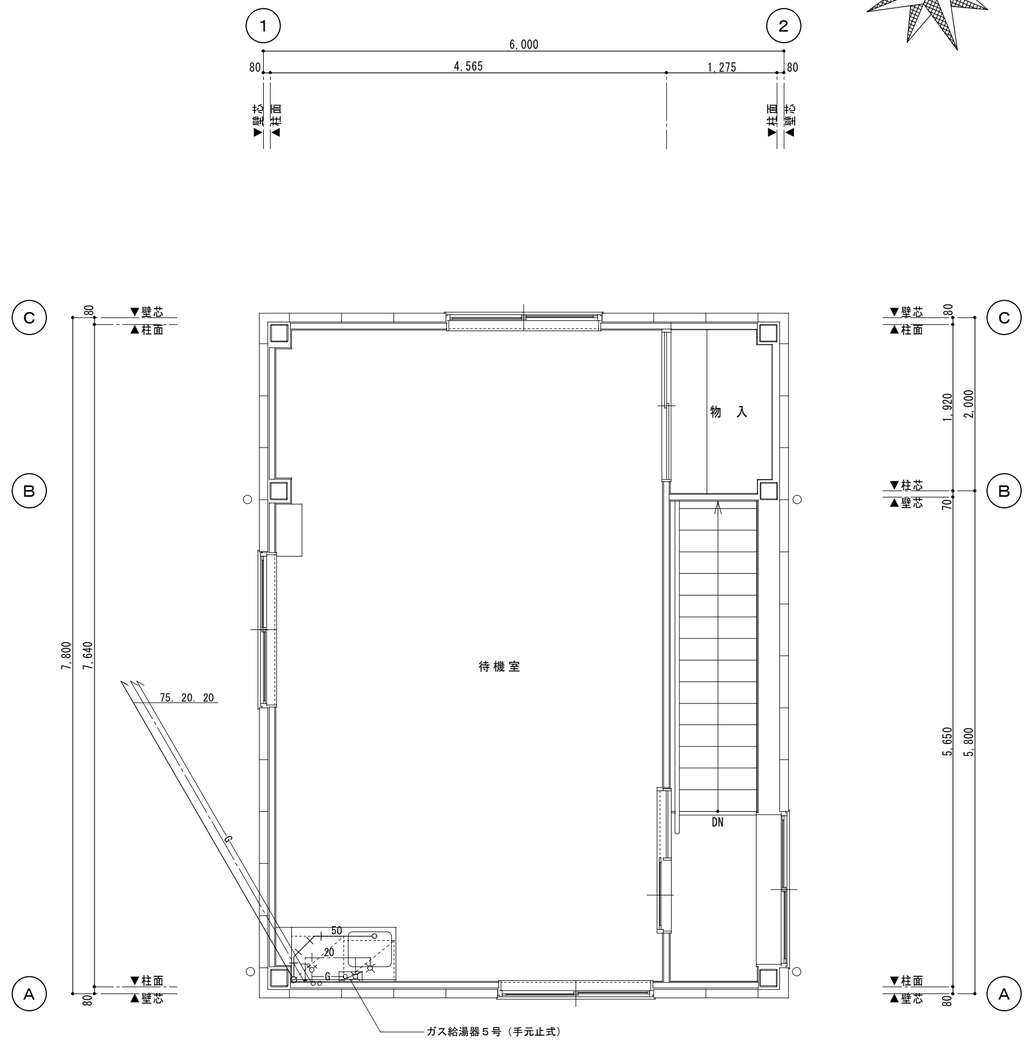
工事名 可児市消防団消防車庫第４分団第１部新築工事

図面名 機械設備配置図
凡例・衛生設備機器表

SCALE 1:200



1階平面図　S=1/50



2階平面図　1/50

汚水桝・雨水桝（小口径塩ﾋﾞ桝）一覧表				
No	桝深さ H	管底	桝天端	備　考
S-1	550	-515(0)	+35	
S-2	555	-520(-5)	+35	
S-3	615	-580(-60)	+35	
S-4	620	-595(-15)	+25	
S-5	620	-600(-5)	+20	
S-6	655	-695(-95)	-40	
公桝	1,250	-705(-10) -1,295(-840)	-45	
R-1	300	-260(0)	+40	（溜桝）
R-2	405	-370(-110)	+35	（溜桝）
R-3	435	-400(-30)	+35	（溜桝）
R-4	300	-290(0)	+10	（溜桝）
R-5	360	-400(-110)	-40	（溜桝）

※桝天端、管底はB.Mからの高低差を示す。

MEMO

一級建築士事務所
岐阜県知事登録
第８６３０号　一級建築士第93340号　野中　和弘
野中建築事務所

NO	DATE
M-03	H27.06

工事名　可児市消防団消防車庫第４分団第１部新築工事

図面名　機械設備平面図　SCALE 1:50

鉄骨構造仕様書

1．一般事項　（適用事項は○印で示す）

1．　技術関連図書（最新版）

1．　日本建築学会　建築工事標準仕様書　ＪＡＳＳ６　鉄骨工事
2．　日本建築学会　鉄骨工事技術指針　工場製作編
3．　日本建築学会　鉄骨精度測定指針
4．　日本建築学会　高力ボルト接合設計施工指針
5．　日本建築学会　鋼構造建築溶接部の超音波探傷検査規準・同解説
6．　日本建築学会　鋼構造設計規準
7．　国土交通省大臣官房官庁営繕部監修　建築工事共通仕様書
8．　建設省住宅局建築指導課　ＳＣＳＳ－Ｈ９７　鉄骨構造標準接合部　Ｈ形鋼編

2．　製作工場は、下記３項のいずれかで監督員の承認した工場とする

1	国土交通大臣認定工場	グレード	S	H	M	Ⓡ	J
2	岐阜鐵骨グループ工場（国土交通大臣認定工場）	グレード	H	M	Ⓡ	J	
3							

注）グレードの適用範囲

Ｊグレード　１．鉄骨溶接構造の３階以下の建築物（延べ面積５００㎡以内、高さ１３ｍ以下かつ軒高１０ｍ以下のもの）である。
２．４００Ｎ級鋼で板厚１６㎜以下の鋼材。

Ｒグレード　１．鉄骨溶接構造の５階以下の建築物（延べ面積３０００㎡以内、高さ２０ｍ以下のもの）。
２．４００Ｎ及び４９０Ｎ級鋼で板厚２５㎜以下の鋼材。

Ｍグレード　１．鉄骨溶接構造の４００Ｎ及び４９０Ｎ級鋼で板厚４０㎜以下の鋼材。

Ｈグレード　１．鉄骨溶接構造の４００Ｎ、４９０Ｎ及び５２０Ｎ級鋼で板厚６０㎜以下の鋼材。

Ｓグレード　１．全ての鉄骨溶接構造。

3．　鉄骨工事着手前に提出する書類

1．　認定工場認定書写し（指定ゴム印のあるもの）
2．　工場製作要領書
3．　溶接工事作業計画書

4．　現場建方時に製作工場名表示看板を掲げる事（建設省住指発第３４７号）

5．　鉄骨工事完了後提出する書類

1．　鋼材規格証明書（実物又は裏書きミルシート）
＊鋼材は全てＪＩＳ規格品とする
2．　高力ボルト規格証明書
3．　防錆塗料成分証明書
4．　鉄骨工事施工状況報告書の内、製作工場に求められる書類
5．　中間検査（岐阜県告示４８０号）において製作工場が求められる書類（特記による）
6．　社内検査報告書

2．材料　（適用事項は○印で示す）

1．　鋼材の材質

材質	形状	使用箇所
⊙ ＳＳ４００	⊙ 形鋼　⊙ 鋼板	大梁、小梁
・ ＳＮ４００Ａ	・ 形鋼　・ 鋼板	
⊙ ＳＮ４００Ｂ	・ 形鋼　⊙ 鋼板	ｶﾞｾｯﾄﾌﾟﾚｰﾄ、ﾀﾞｲﾔﾌﾗﾑ
⊙ ＳＮ４００Ｃ	・ 形鋼　⊙ 鋼板	ｶﾞｾｯﾄﾌﾟﾚｰﾄ、ﾀﾞｲﾔﾌﾗﾑ
⊙ ＳＳＣ４００	・ 形鋼	母屋
・ ＳＴＫ　４００ ⊙ ＳＴＫＲ４００	・ 鋼管 ・ 角形鋼管	間柱、座屈止
・ ＳＴＫ　４９０ ・ ＳＴＫＲ４９０	・ 鋼管 ・ 角形鋼管	
・ ＳＮ４９０Ｂ	・ 特記した形鋼　鋼板（ｔ≦４０）	
・ ＳＮ４９０Ｃ	・ 特記した形鋼　鋼板（ｔ≦４０）	
⊙ ＢＣＲ２９５ ・ ＢＣＰ２３５	・ 冷間成型角形鋼管	主柱、
・ ＢＣＰ３２５	・ 冷間成型角形鋼管	

2．　ボルト

・ 高力ボルト　⊙ Ｆ１０Ｔ　⊙ Ｓ１０Ｔ認定品　⊙ Ｍ１６　・ Ｍ２０　・ Ｍ２２
・ 中ボルト　Ｍ12
・ アンカーボルト　（間柱部）　Ｍ16　Ｌ＝450 ｍｍ　　ﾅｯﾄ（・ｼﾝｸﾞﾙ　・ﾀﾞ(ﾌﾞ)ﾙ）
・ アンカーボルト　（階段部）　φ16　Ｌ＝350 ｍｍ　　ﾅｯﾄ（・ｼﾝｸﾞﾙ　・ﾀﾞ(ﾌﾞ)ﾙ）
・ 頭付スタッド　　φ　Ｌ＝　ｍｍ　使用箇所（・ 柱　・ 梁）

3．　防錆塗料は下記の通りとする。

塗料種類	１種	２種	塗り回数
Ｋ－５６２１			工場　２回 現場タッチアップ　１回
Ｋ－５６２２			
Ｋ－５６２３			
Ｋ－５６２５	◯		

3．検査　（適用事項は■印で示す）　●

1．　工事監理者が行う検査項目

■現寸検査　■組立・開先検査　■製品検査　■建方検査　□

2．　溶接及び接合部を検査し工事監理者に報告すること工事監理者が行う検査項目

検査箇所	検査方法	検査率又は検査数 工場	検査率又は検査数 第三者	備考
■　突合せ溶接部	超音波探傷検査	100 %	30 %	
■　隅肉溶接部	外観（目視）検査	100 %	%	
□	マクロ試験・その他	個	個	
第三者検査機関名	■　監督員の認める認定検査機関とする			
	□			
	□			
	□			
	□			
現場溶接部については原則として第三者による全数検査を行うこと。				

工作標準

1．切断　（ＪＡＳＳ６）

1．　鋼材の切断面はいちじるしい切欠きを生じない様にする。ノッチの深さは１㎜以下とする。
2．　せん断切断する場合の鋼材の板厚は、１３㎜以下とする。
3．　切断面のバリは取り除く。

2．開先加工　（ＪＡＳＳ６）

1．　開先の加工は切削加工機又は自動ガス切断機により行うことを原則とする。
2．　開先加工面は、あらさ２００μｍＲｙ以下、ノッチ深さは２㎜以下とする。
3．　開先加工及びスカラップ加工は特記による。
□　ノンスカラップ　　■　スカラップ

3．孔あけ加工　（ＪＡＳＳ６）

1．　高力ボルト用孔の孔あけ加工は、ドリルあけとする。接合面をブラスト処理する場合は、ブラスト前に孔あけ加工する。
2．　ボルト・アンカーボルト・鉄筋貫通孔はドリルあけを原則とするが、板厚１３㎜以下の時は、せん断孔としてもよい。但し、切断面にバリなどが生じた場合は、グラインダーなどにより修正する。
3．　アンカーボルト孔・セパ孔・設備貫通孔等で、径３０㎜以上はガス孔としてもよい。
4．　孔径は下記とする。

（単位：㎜）

種類	孔径　ｄ	公称軸径　ｄ１
高力ボルト	ｄ１＋２．０ ｄ１＋３．０	ｄ１＜２７ ｄ１≧２７
ボルト	ｄ１＋０．５	－
アンカーボルト	ｄ１＋５．０	－

4．摩擦面の処理　（ＪＡＳＳ６）

すべり係数が０．４５以上確保できる下記の通りとする。

1．　自然発生 ―――― デイスクグラインター等で黒皮などを、スプライスプレートの全面の範囲について除去した後、自然放置して発生させた赤さび状態を確保する。
2．　ブラスト処理 ―― ショットブラスト等で５０μｍＲｙ以上のあらさを確保する。

5．溶接　（ＪＡＳＳ６）

1．　組立溶接・本溶接ともＪＩＳ　Ｚ　３８０１又はＪＩＳ　Ｚ　３８４１有資格者が行なう。
2．　溶接に使用する材料は母材の材質に適合したものを使用する。
3．　開先のある溶接の両端には、健全な溶接の全断面が確保できるようにエンドタブを用いる。但し、工事監理者の承認があればその他適切な方法を用いることができる。
4．　気温－５℃を下回る場合は、溶接を行ってはならない。気温が－５℃から５℃においては、溶接部より１００㎜の範囲の母材部分を適切に加熱すれば溶接することができる。
5．　突合せ継手およびＴ継手の余盛高さ
完全溶込み溶接の突合せ継手の余盛高さは０㎜以上とし、Ｔ継手の余盛高さは突合せる材の厚さの１／４とし、材の厚さが４０㎜を超える場合は１０㎜とする。このときの許容差はＪＡＳＳ６－付則６「鉄骨精度検査基準」による。余盛は応力集中を避けるため滑らかに仕上げ、過大であったりビード表面形状に不整があってはならない。

6．　溶接材料と入熱、パス間温度の組合せは、下記鋼材の種類４００Ｎ及び４９０Ｎ級鋼の項による。但し、４９０Ｎ級鋼のＳＴＫＲ・ＢＣＰの場合は、ＹＧＷ－１８、１９で入熱３０ＫＪ／㎝以下、パス間温度２５０℃以下とし、４００Ｎ級鋼のＳＴＫＲ・ＢＣＲ及びＢＣＰの場合は、ＹＧＷ－１１、１５で入熱３０ＫＪ／㎝以下、パス間温度２５０℃以下とする。

鋼材の種類と溶接材料

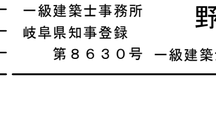
鋼材の種類	溶接材料	入熱（ＫＪ／㎝）	パス間温度（℃）
４００Ｎ級鋼	ＪＩＳ　Ｚ　3211　3212	４０以下	３５０以下
	ＹＧＷ－１１、１５		
	ＹＧＷ－１８、１９		
	ＪＩＳ　Ｚ　３２１４		
	ＹＧＡ－５０Ｗ、５０Ｐ		
４９０Ｎ級鋼	ＪＩＳ　Ｚ　３２１２	４０以下	３５０以下
	ＹＧＷ－１１、１５	３０以下	２５０以下
	ＹＧＷ－１８、１９	４０以下	３５０以下
	ＪＩＳ　Ｚ　３２１４	４０以下	３５０以下
	ＹＧＡ－５０Ｗ、５０Ｐ		

7．　構造耐力上主要な部分の溶接部は、割れ、内部欠陥等の構造耐力上支障のある欠陥がないものとする。
8．　突合わせ継手の食い違いは、板厚が１５㎜以下では１．５㎜以下、１５㎜を越える場合は、板厚の１／１０以下かつ３㎜以下とする。
9．　柱仕口部における梁フランジは、通しダイアフラムの場合は、ダイアフラムの板厚の範囲に収まること。内ダイアフラムの場合のダイアフラムと梁フランジのずれ量は、はりのフランジ厚ｂｔｆが柱のフランジ厚ｃｔｆ以下の時はｂｔｆの１／４かつ５㎜以下、ｂｔｆがｃｔｆを越える時にはｂｔｆの１／５かつ４㎜以下とする。
10．　０．３㎜を越えるアンダーカットはあってはならない。但し、アンダーカット部分の長さの総和が溶接部分全体の長さの１０％以下であり、かつ、その断面が鋭角的でない場合は、アンダーカットの深さを１㎜以下とすることができる。

溶接基準図　（注）ｆ：余盛　Ｇ：ルート間隔　Ｒ：ルート面　Ｓ：サイズ（単位㎜）

（１）　すみ肉溶接

両側溶接 ①
片側溶接 ①

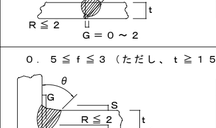


	ｔ≦１６			
ｔ	8以下	9～10	11～13	14～16
ｓ	6	7	10	12

●但し片側溶接の場合はＳ＝ｔとする
●ｔはｔ１、ｔ２の小なる方とする
余盛は（１＋０．１Ｓ）㎜以下とする

（２）　突合せ溶接（平継手　Ｔ形継手）

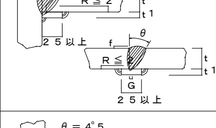
(裏はつり後溶接) ②



０．５≦ｆ≦３（ただし、ｔ≧１５のとき４㎜とする）

ｔ	６＜ｔ
溶接姿勢	Ｆ．Ｖ

③

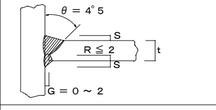


０．５≦ｆ≦３（ただし、ｔ≧１５のとき４㎜とする）　Ｓ＝ｔ／４

	ＭＣ			ＧＣ．ＮＧＣ		
ｔ	θ	Ｇ	ｔ１	θ	Ｇ	ｔ１
6≦ｔ＜12	45	6	9	35	6	9
12≦ｔ＜19	35	6	9	35	9	9
19≦ｔ	35	6	9	35	9	9
溶接姿勢	Ｆ・Ｖ					

●補強すみ肉溶接を付加する

(裏はつり後溶接) ④

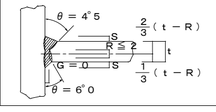


Ｓ＝ｔ／４

ｔ	6＜ｔ＜16
溶接姿勢	Ｆ．Ｖ

●両側に補強すみ肉溶接を付加する

(裏はつり後溶接) ⑤



Ｓ＝ｔ／４

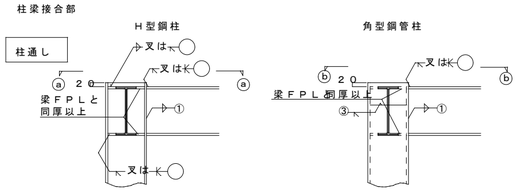
ｔ	ｔ≧16
溶接姿勢	Ｆ．Ｖ

●両側に補強すみ肉溶接を付加する

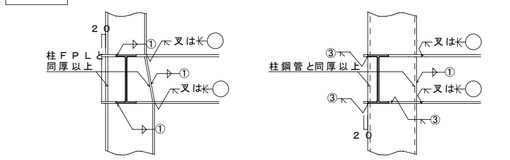
仕口の標準　○内に上記溶接基準図の溶接番号を記入のこと。

柱梁接合部

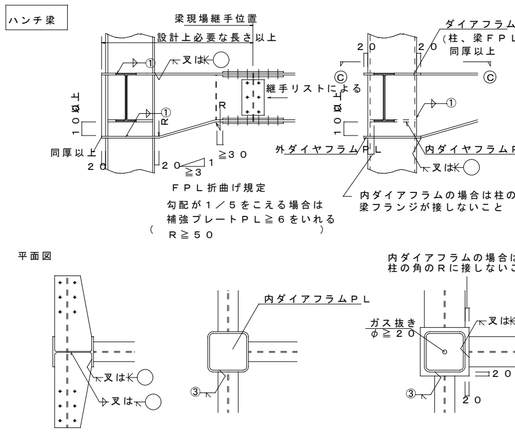
柱通し



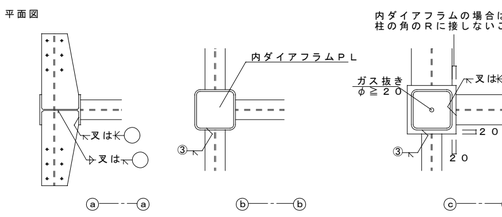
梁通し



ハンチ梁

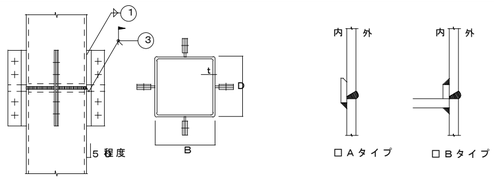


平面図



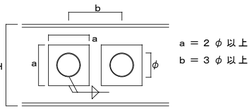
角型鋼管柱継手（現場溶接）

角型鋼管現場継手　　注）現場溶接は原則として超音波探傷検査を１００％行なう



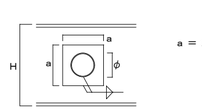
貫通孔補強

０．２Ｈ＜φ≦０．３Ｈ



補強プレートはウェブプレート厚さ以上

０．３Ｈ＜φ＜０．４Ｈ



補強プレートはウェブプレート２倍以上

φが０．２Ｈ以下は補強なし
ウェブプレート厚さが１０㎜を越える場合は両面補強とする
φが０．４Ｈ以上は特記による
スリーブは梁せいの中央１／２の範囲とする

MEMO

一級建築士事務所
岐阜県知事登録
第８６３０号　一級建築士第93340号　野中　和弘

野中建築事務所

NO	DATE	工事名
S-01	H27.06	可児市消防団消防車庫第４分団第１部新築工事

図面名　鉄骨構造仕様書

デッキプレート合成スラブ設計・施工標準

ＪＦＥ建材株式会社

ＱＬデッキ合成スラブの設計・施工は、日本建築学会「各種合成構造設計指針・同解説」、鋼材倶楽部「デッキプレート床構造設計・施工規準」、ＱＬデッキ設計マニュアル・同施工マニュアルによる。

設　　計

材料／デッキプレート　　[ISO 9001認証取得]

デッキプレート種類			表面処理
ＱＬデッキ	■ＱＬ９９－５０－１２　□ＱＬ９９－５０－１６ □ＱＬ９９－７５－１２　□ＱＬ９９－７５－１６		■裏面防錆処理 ■ＱＬプライマー（Ｐ）　□（　　） □亜鉛メッキ（Ｇ） □Ｚ１２　□Ｚ２７
ＱＬセルラー	□ＧＫＸ－５０－１２　□ＧＫＸ－５０－１６ □ＧＫＸ－７５－１２　□ＧＫＸ－７５－１６		亜鉛メッキ　Ｚ２７限定
材　質	ＪＩＳ Ｇ ３３５２に定めるＳＤＰ１Ｔ、ＳＤＰ２、ＳＤＰ２Ｇ		

材料／コンクリート

種　　類	■普通コンクリート　□軽量コンクリート　（□１種　□２種）
設計基準強度	■１８　□２１　□（　）Ｎ／mm^2
厚さ（デッキ山上）	□６０　□７０　■８０　□８５　□９０　□９５　□１００　□（　）mm

材料／溶接金網・異形鉄筋

■ 溶 接 金 網	ＪＩＳ Ｇ ３５５１　■φ６－１５０×１５０　□φ６－１００×１００
□ 異 形 鉄 筋	ＪＩＳ Ｇ ３１１２、３１１７　□Ｄ１０－@２００　□（　）

接　　合

■焼抜き栓溶接	下記焼抜き栓溶接の項による
□ 発射打込みびょう	別途発射打込みびょうの仕様による
□頭付きスタッド	ＪＩＳ Ｂ １１９８　□φ１３　□φ１６　□φ１９　□φ２２
□そ　の　他	

耐　　火

	１　時　間	２　時　間
連　続　支　持	□ＦＰ０６０ＦＬ－９０９５	□ＦＰ１２０ＦＬ－９１０７
単　純　支　持	□ＦＰ０６０ＦＬ－９１０１	□ＦＰ１２０ＦＬ－９１１３
そ　の　他 □指定なし	□（　　） □（　　）	□（　　） □（　　）

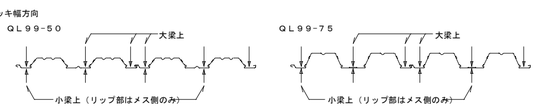
特　　記

支保工有無	その他：
■ 無　□ 有	

上欄内の採用項目□にレを記して下さい。

焼抜き栓溶接

デッキ幅方向



デッキスパン方向

「ＱＬデッキ設計マニュアル」に基づいて決定する。

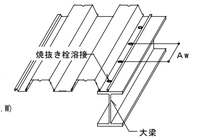
$$Aw = \frac{1.5Qa}{QD} \times 100cm \text{ かつ } 60cm \text{ 以下}$$

Qa：焼抜き栓溶接１個当たりの長期許容せん断力（Ｎ）
ＱＤ：設計最大せん断力（Ｎ／m）
Ａｗ：焼抜き栓溶接ピッチ

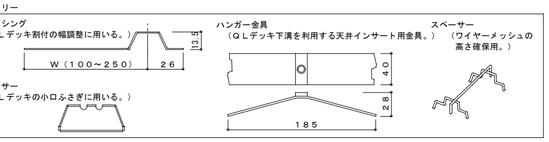
板厚	Ｑａ（Ｎ）
１．２	４，９００
１．６	７，３５０（ＳＰＷ）、６，８６０（Ａ．Ｐ．Ｗ）

Ａｗ＝（　５０　）cm

（注）接合に頭付きスタッドを用いる場合、焼抜き栓溶接は不要



アクセサリー

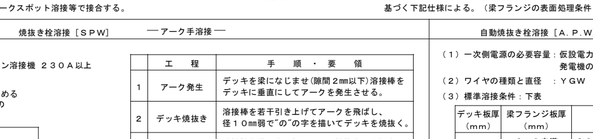


耐　火　仕　様

【連続支持合成スラブ】

支　持　梁　：鉄骨梁 及び 大梁：鉄筋コンクリート梁又は鉄骨鉄筋コンクリート梁、小梁：鉄骨梁
コンクリート：設計基準強度１８Ｎ／mm^{2}以上の普通コンクリート、及び、軽量コンクリート（１種・２種）

耐火時間	コンクリート種類	デッキのサイズ	支持スパン	コンクリート厚さ	溶接金網又は異形鉄筋（Ｄ１０－@２００）	許容積載荷重
床、１時間耐火 FP060FL-9095	普通コンクリート	ＱＬ９９－５０	３．０ｍ 以下	８０mm 以上	φ６－１５０x１５０	算出式 注５）Ａ 参照
		ＱＬ９９－７５	３．４ｍ 以下			算出式 注５）Ｂ 参照
			３．６ｍ 以下	９０mm 以上	φ６－１００x１００	４，４００N/m^{2}以下 注2）
	軽量コンクリート	ＱＬ９９－５０	３．０ｍ 以下	８０mm 以上	φ６－１５０x１５０	算出式 注５）Ａ 参照
		ＱＬ９９－７５	３．４ｍ 以下			算出式 注５）Ｂ 参照
床、２時間耐火 FP120FL-9107	普通コンクリート	ＱＬ９９－５０	２．７ｍ 以下	９５mm 以上	φ６－１００x１００	算出式 注５）Ａ 参照
		ＱＬ９９－７５	３．４ｍ 以下	９０mm 以上		算出式 注５）Ｂ 参照
			３．６ｍ 以下	９５mm 以上	Ｄ１０－@２００	５，４００N/m^{2}以下 注2）
	軽量コンクリート	ＱＬ９９－５０	２．７ｍ 以下	８５mm 以上	φ６－１００x１００	算出式 注５）Ａ 参照
		ＱＬ９９－７５	３．４ｍ 以下			算出式 注５）Ｂ 参照
			３．６ｍ 以下	９０mm 以上	Ｄ１０－@２００	５，４００N/m^{2}以下 注2）



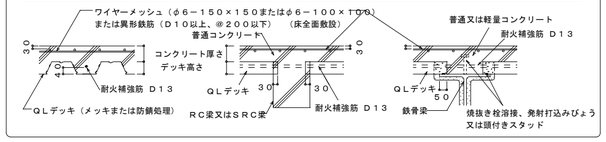
【単純支持合成スラブ】

支　持　梁　：鉄骨梁
コンクリート：設計基準強度１８Ｎ／mm^{2}以上の普通コンクリート、及び、軽量コンクリート（１種・２種）
耐火補強筋　：Ｄ１３（デッキプレート各溝@３００）

耐火時間	コンクリート種類	デッキのサイズ	支持スパン	コンクリート厚さ	溶接金網又は異形鉄筋（Ｄ１０－@２００）	許容積載荷重
床、１時間耐火 FP060FL-9101	普通コンクリート	ＱＬ９９－５０	２．７ｍ 以下	８０mm 以上	φ６－１５０x１５０	算出式 注５）Ａ 参照
		ＱＬ９９－７５	３．４ｍ 以下			算出式 注５）Ｂ 参照
	軽量コンクリート	ＱＬ９９－５０	２．７ｍ 以下			算出式 注５）Ａ 参照
		ＱＬ９９－７５	３．４ｍ 以下			算出式 注５）Ｂ 参照
床、２時間耐火 FP120FL-9113	普通コンクリート	ＱＬ９９－５０	２．７ｍ 以下	９５mm 以上	φ６－１００x１００	算出式 注５）Ａ 参照
		ＱＬ９９－７５	３．４ｍ 以下	９０mm 以上		算出式 注５）Ｂ 参照
	軽量コンクリート	ＱＬ９９－５０	２．７ｍ 以下	８５mm 以上		算出式 注５）Ａ 参照
		ＱＬ９９－７５	３．４ｍ 以下			算出式 注５）Ｂ 参照

支　持　梁　：鉄筋コンクリート梁又は鉄骨鉄筋コンクリート梁の場合
コンクリート：設計基準強度１８Ｎ／mm^{2}以上の普通コンクリート
耐火補強筋　：Ｄ１３（デッキプレート各溝@３００）

耐火時間	コンクリート種類	デッキのサイズ	支持スパン	コンクリート厚さ	溶接金網又は異形鉄筋（Ｄ１０－@２００）	許容積載荷重
床、１時間耐火 FP060FL-9101	普通コンクリート	ＱＬ９９－５０	２．７ｍ 以下	８０mm 以上	φ６－１５０x１５０	算出式 注５）Ａ 参照
		ＱＬ９９－７５	３．４ｍ 以下			算出式 注５）Ｂ 参照
床、２時間耐火 FP120FL-9113	普通コンクリート	ＱＬ９９－５０	２．７ｍ 以下	９５mm 以上	φ６－１００x１００	算出式 注５）Ａ 参照
		ＱＬ９９－７５	３．４ｍ 以下	９０mm 以上		算出式 注５）Ｂ 参照



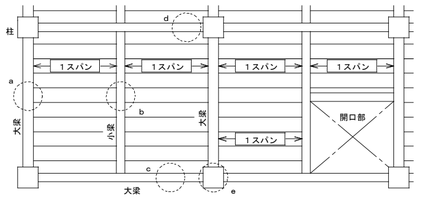
注１）スパンとは鉄骨梁の場合デッキプレートを支持する梁の中心間距離、鉄筋コンクリートの場合梁内法寸法をいう。
注２）スパンが３．４ｍを超える場合は、合成スラブと梁とは頭付きスタッド（軸径１６mm以上、ピッチ３００mm以下）で結合する。
注３）鉄骨梁の場合、梁との接合は焼抜き栓溶接、発射打込みびょう、または頭付きスタッドを用いる。
注４）梁の耐火被覆　梁に１、２または３時間の耐火性能が要求される場合は、それらに応じ耐火被覆を施す。
注５）許容積載荷重Ｗ　算出式　　ℓ：支持スパン（ｍ）

［Ａ］ＱＬ９９－５０	［Ｂ］ＱＬ９９－７５
$W = 5,400 \times (\frac{2.7}{\ell})^2 \leq 9,800\ N/m^2$	$W = 5,400 \times (\frac{3.4}{\ell})^2 \leq 9,800\ N/m^2$

付帯条件　　デッキプレートは２スパン以上にわたって連続的に小ばり等によって、ほぼ等間隔に支持されるものとする。

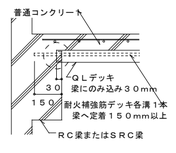
標　準　納　まり

支持梁：鉄筋コンクリート及び鉄骨鉄筋コンクリート梁

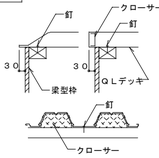


a：外周梁（デッキスパン方向）
b：内部梁（　〃　〃　）
c：外周梁（デッキ幅方向）
d：内部梁（　〃　〃　）
e：柱廻り

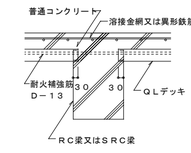
a部　建物外回り デッキスパン方向



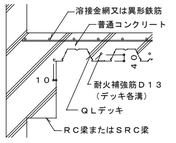
a部　左図円部詳細



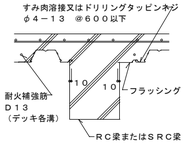
b部　内部大梁、小梁 デッキスパン方向



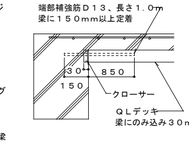
c部　建物外回り デッキ幅方向



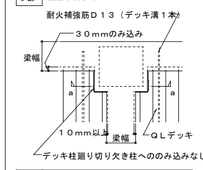
d部　建物内部大梁 デッキ幅方向



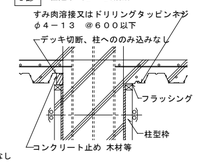
a部　外周梁（デッキ連続の時）



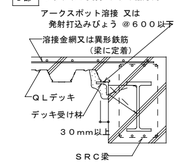
e部　柱廻り納まり



e部　柱廻り（ａ－ａ断面）

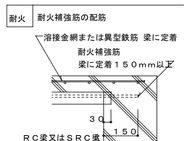


c部　ブラケット支持 デッキ幅方向



a部　ブラケット支持（デッキ連続の時）

耐火　耐火補強筋の配筋



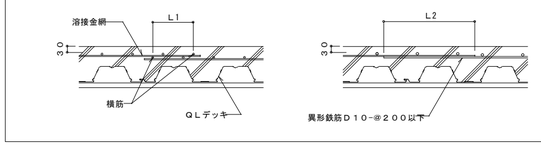
デッキ幅方向は鉄骨梁の納まりを参照のこと

溶接金網

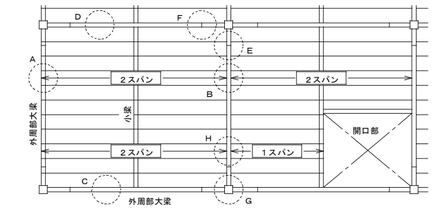
コンクリート表面よりのかぶり厚さが３０mmになるようレベル保持し、全面に配筋する。

溶接金網の重ね代Ｌ１：
１メッシュと５０mm以上
φ６－１５０×１５０は２００mm以上
φ６－１００×１００は１５０mm以上

異形鉄筋の重ね代Ｌ２：
４５Ｄ以上

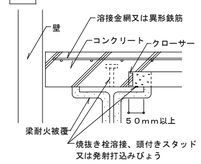


支持梁：鉄骨梁

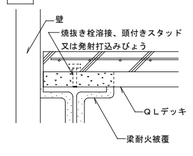


A：外周梁（デッキスパン方向）
B：内部梁（　〃　〃　）
C：外周梁（デッキ幅方向）
D：内部梁（　〃　〃　）
E：梁継手（デッキスパン方向）
F：　〃　（デッキ幅方向）
G：柱廻り
H：連続支持と単純支持

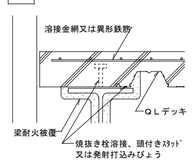
A部　外周梁 デッキスパン方向１



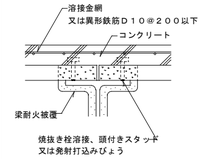
A部　外周梁 デッキスパン方向２



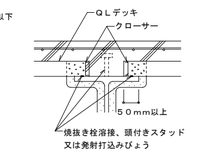
C部　外周梁 デッキ幅方向



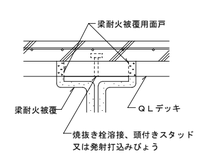
B部　デッキを突き合わせた場合



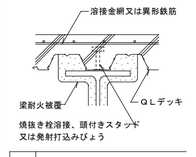
B部　デッキを離した場合



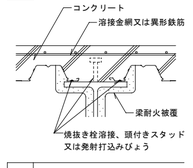
B部　デッキを連続にした場合



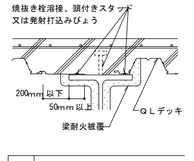
D部　デッキ幅方向 デッキを連続した場合



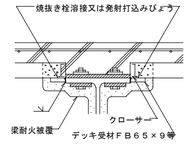
D部　デッキを離した場合



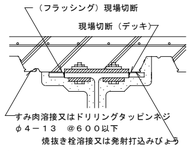
D部　梁との間に隙間がある場合



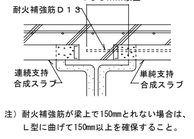
E部　梁継手部 デッキスパン方向



F部　梁継手部 デッキ幅方向

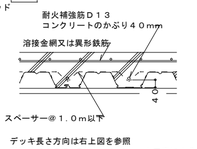


H部　連続支持と単純支持取り合部



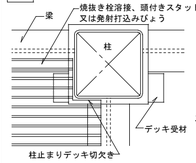
注）耐火補強筋が梁上で150mmとれない場合は、Ｌ型に曲げて150mm以上を確保すること。

耐火　耐火補強筋の配筋



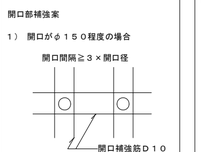
デッキ長さ方向は右上図を参照
配筋はＪＡＳＳ ５鉄筋コンクリート工事による

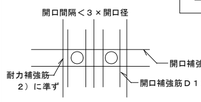
G部　柱廻り



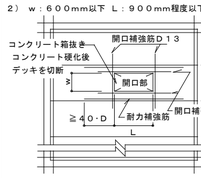
開口部補強案

１）開口がφ１５０程度の場合

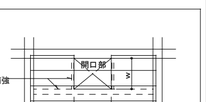


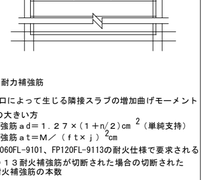


２）ｗ：６００mm以下　Ｌ：９００mm程度以下



３）ｗ＞６００mmの場合





施工

施工順序

墨　出　し
↓
敷込み仮止め溶接
↓
デッキと梁との接合
１）頭付きスタッド
２）発射打込みびょう
３）焼抜き栓溶接
↓
溶接金網敷込み
↓
コンクリート打設
↓
検　　査

敷　込　み

１）墨出し線に合わせて１枚目のデッキプレートを仮止め溶接した後、順次適当な枚数（５～１０枚）ごとに仮止め溶接する。

２）デッキプレートの溝部が各大梁上に乗るように敷込む。（５０mm以上）

３）デッキプレートの長さ方向の梁上のかかり幅は、５０mm 以上に敷込む。

デッキと梁との接合

１）頭付きスタッド
仕様及び打設位置は別途設計図による。
デッキプレートと梁とはアークスポット溶接等で接合する。

２）発射打込みびょう
別途発射打込みびょうの施工要領による。

３）焼抜き栓溶接
平成１４年４月１６日　国土交通省告示第３２６号 第２接合ハ(4)焼抜き栓溶接に基づく下記仕様による。（梁フランジの表面処理条件：黒皮または一般錆止め塗装）

焼抜き栓溶接［ＳＰＷ］　―アーク手溶接―

（１）溶接機
交流アーク溶接機　ＡＷ２５０Ａ以上　エンジン溶接機　２３０Ａ以上

（２）溶接棒
ＪＩＳ Ｚ ３２１１のD4316、JIS Z 3212のD5016 に定める
低水素系被覆アーク溶接棒で棒径４mmφのもの

（３）標準溶接条件

梁フランジ板厚	溶　接　電　流
６mm以上	１９０～２３０Ａ（標準２１０Ａ）

（４）溶接工の資格
ＪＩＳ Ｚ ３８０１、JIS Z 3841 における基本級の有資格者

（５）手順・要領
右の１～４の順に行う。

	工　程	手　順　・　要　領
1	アーク発生	デッキを梁になじませ(隙間２mm以下)溶接棒をデッキに垂直にしてアークを発生させる。
2	デッキ焼抜き	溶接棒を若干引き上げてアークを飛ばし、径１０mm弱で"の"の字を描いてデッキを焼抜く。
3	押し込み・溶着	溶接棒を梁上まで押し込み、焼抜きの内側をなぞるように円中央へ２～３回転しながら運棒。
4	整　　形	溶着金属を整え、中央部でそっと溶接棒を引き上げる。スラグを除去して仕上がりを確認。

溶接時間の目安；電流値２１０Ａ(標準)の場合８秒程度

自動焼抜き栓溶接［Ａ．Ｐ．Ｗ］　―ＣＯ２アークスポット溶接―

（１）一次側電源の必要容量：仮設電力の場合　１８ＫＶＡ以上　３相　２００Ｖ
発電機の場合　　３５ＫＶＡ以上　３相　２００Ｖ

（２）ワイヤの種類と直径　：ＹＧＷ　１１、１２　φ１．２mm

（３）標準溶接条件：下表

デッキ板厚（mm）	梁フランジ板厚（mm）	電流（Ａ）	電圧（Ｖ）	アークタイム（秒）
１．２	６～９未満	３００～３２０	３３～３５	３．０～４．０×１度打ち
	９以上	３００～３２０	３３～３５	３．０～４．０×２度打ち
１．６	６～９未満	３００～３２０	３４～３６	３．５～４．５×１度打ち
	９以上	３００～３２０	３４～３６	４．０～４．５×２度打ち

注１．デッキプレート　板厚１．２、１．６mm　表面条件：Ｚ１２、Ｚ２７、裏面塗装
２．ＣＯ２ガス流量：２０Ｌ／分以上

検　　査

【焼抜き栓溶接（ＳＰＷ）及び自動焼抜き栓溶接（Ａ．Ｐ．Ｗ）】

□事前検査
ＳＰＷ：適正な溶接を行うための下記の方法で電流値をチェックする。
１）検流計での計測
２）溶接棒の消費長さによる確認 ―― 未使用の規定の溶接棒を用いて、アーク長さを約３mmに保持し、１０mm程度の円を描いて１０秒間溶接した時の溶接棒の消費長さが４５～５３mmであること。
Ａ．Ｐ．Ｗ：試し溶接を行って溶接径を確認する。

□溶接後の外観検査
１）溶接箇所の確認　２）焼き切れ、余盛り不足の有無
３）標準余盛り径　ＳＰＷ：１８mm以上　Ａ．Ｐ．Ｗ：２５mm±３

□不良部の補修
ＳＰＷ　の場合：スラグ除去後、梁にデッキプレートを密着させて再溶接する。
不具合箇所に溶着金属を流し込む要領で補修。
Ａ．Ｐ．Ｗの場合：重ね溶接して補修する。

【そ　の　他】
(1)デッキ相互の嵌合状況　(2)溶接金網の敷込み状況　(3)開口部の補強状況

MEMO

一級建築士事務所
岐阜県知事登録
第８６３０号　一級建築士第93340号　野中　和弘

野中建築事務所

NO	DATE
S-02	H27.06

工事名　可児市消防団消防車庫第４分団第１部新築工事

図面名　デッキプレート合成スラブ設計・施工標準

ベースパック　型Ⅰ

角形鋼管
F値295N/mm² 以下
□-150×150 ～ □-300×300 用

（財）日本建築センターによる一般評定「BCJ評定-ST0093-14」（平成26年11月4日付）

ベースパック柱脚工法　標準図

設計
施工

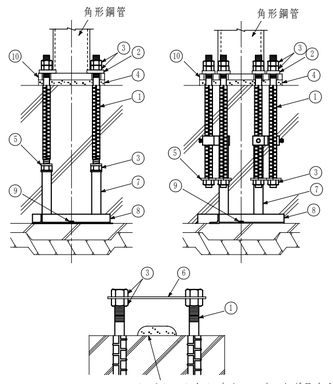
●ベースパック柱脚工法の設計は「ベースパック柱脚工法設計ハンドブック」による。

岡部株式会社　TEL03（3624）5336
旭化成建材株式会社　TEL03（3296）3515

2014年12月作成

1．工法概要

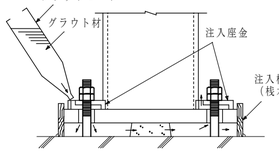
1．1 構成部材



① アンカーボルト
② 注入座金
③ Mナット
④ ベースパックグラウト(グラウト材)
⑤ 定着座金
⑥ テンプレート
⑦ フレームポスト
⑧ フレームベース
⑨ ステコンアンカー（コンクリートアンカー）
⑩ ベースプレート

(注) 上記①～⑩の構成部材はベースパック構成部品として供給される。
(注) 上記⑥～⑨は現場状況により仕様が異なる場合がある。

1．2 柱脚の定着方法概要



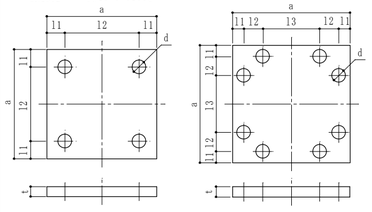
2．柱

F値(N/mm²)	鋼種	採用
235	BCP235	
	STKR400	
295	BCR295	

3．構成部材・寸法

3．1 ベースプレート

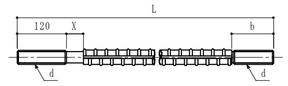
●材質
SN490B　【JIS G 3136】



3．2 アンカーボルト（Mアンカーボルト）

【建築基準法第３７条第二号に基づく国土交通大臣認定材料】

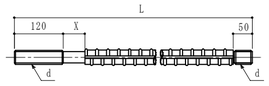
i）アンカーフレーム Aタイプの場合



単位 mm

呼び d	異形筋呼び名	L 注1)	X	b 注1)
M27	D29	650	45	128
M30	D32	695	45	133
M33	D35	690,735	45	95,140
M36	D38	770	60	130
M39	D41	770,810	60	98,135

ii）アンカーフレーム Cタイプ の場合

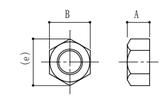


単位 mm

呼び d	異形筋呼び名	L	X
M30	D32	695	45
M33	D35	720	45
M36	D38	770	60

注1)据付け高さが低い場合に短いアンカーボルトを使用する。

3．3 Mナット　【建築基準法第３７条第二号に基づく国土交通大臣認定材料】

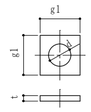


単位 mm

呼び	A	B	(e)
M27	22	41	47
M30	24	46	53
M33	26	50	58
M36	29	55	64
M39	31	60	69

3．4 定着座金

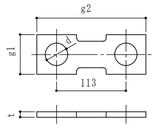
i）アンカーフレーム Aタイプの場合



単位 mm

適用アンカーボルト	g1	t	d	材質
M27	55	9	28	SS400
M30	55	9	31	
M33	60	9	34	
M36	65	12	37	
M39	80	12	40	

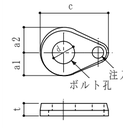
ii）アンカーフレーム Cタイプ の場合



単位 mm

適用アンカーボルト	g1	g2	t	d	材質
M30	55	168	9	32	SS400
M33	60	173	9	35	
M36	65	178	9	38	

3．5 注入座金　【建築基準法第３７条第二号に基づく国土交通大臣認定材料】

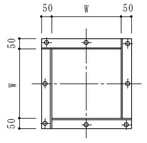


単位 mm

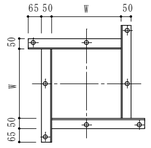
記号	適用アンカーボルト	a1	a2	c	t	d
PM27	M27	32	42	101	18	28
PM30	M30	32	42	101	18	31
PM33	M33	35	45	110	18	34
PM36	M36	35	45	110	18	37
PM39	M39	38	48	118	18	40

3．6 フレームベース

i）Aタイプ



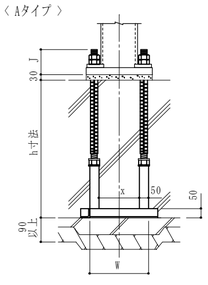
ii）Cタイプ



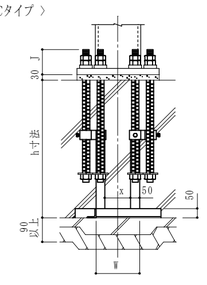
3．7 アンカーフレーム形状および据付け時諸寸法

●ベースパックの据付け高さ（h寸法）はフレームベース下端からコンクリート柱型天端までを示す。据付けに最低限必要な高さ（最低h寸法）は下表に記載の値とする。

〈 Aタイプ 〉



〈 Cタイプ 〉



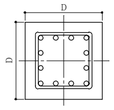
単位 mm

採用	ベースパック記号	柱 外径(mm)	柱 板厚(mm)	ベースプレート 材質	形状	寸法(mm) a	t	11	12	13	d	アンカーボルト 本数-呼び	材質	アンカーフレームタイプ	コンクリート柱型 寸法(mm) D	配筋 立上り筋	配筋 フープ筋	設計基準強度(N/mm²)	フレームベース 寸法(mm) W	フレームポスト間 寸法(mm) x	最低h寸法 (mm)	J寸法 (mm)
	15-12V	□-150×150	t≦12	SN490B	(イ)	300	28	50	200	-	φ45	4-M27	SD490	A	500	12-D16	D13@100	21以上	250	150	550	135
	17-12V	□-175×175	t≦12	SN490B	(イ)	320	32	45	230	-	φ45	4-M30	SD490	A	530	12-D19	D13@100	21以上	280	180	600	135
○	20-09V	□-200×200	t≦9	SN490B	(イ)	360	28	50	260	-	φ45	4-M30	SD490	A	560	12-D16	D13@100	21以上	310	210	600	135
	20-12V	□-200×200	t≦12	SN490B	(イ)	360	32	50	260	-	φ50	4-M33	SD490	A	560	12-D19	D13@100	21以上	310	210	600	135
	25-09V	□-250×250	t≦9	SN490B	(イ)	420	32	55	310	-	φ55	4-M36	SD490	A	610	12-D19	D13@100	21以上	360	260	650	150
	25-12V	□-250×250	t≦12	SN490B	(イ)	420	36	55	310	-	φ55	4-M39	SD490	A	630	12-D19	D13@100	21以上	370	270	650	150
	25-16V	□-250×250	t≦16	SN490B	(ハ)	450	32	50	80	190	φ50	8-M33	SD490	C	620	12-D19	D13@100	21以上	240	140	650	135
	30-09V	□-300×300	t≦9	SN490B	(イ)	480	36	60	360	-	φ55	4-M39	SD490	A	680	12-D22	D13@100	21以上	420	320	650	150
	30-12V	□-300×300	t≦12	SN490B	(ハ)	520	32	50	80	260	φ50	8-M30	SD490	C	700	12-D22	D13@100	21以上	310	210	650	135
	30-16V	□-300×300	t≦16	SN490B	(ハ)	520	40	50	80	260	φ55	8-M36	SD490	C	710	12-D22	D13@100	21以上	310	210	700	150
	30-19V	□-300×300	t≦19	SN490B	(ハ)	550	50	50	80	290	φ55	8-M36	SD490	C	740	12-D22	D13@100	21以上	340	240	700	150

4．コンクリート柱型

4．1 形状・材質

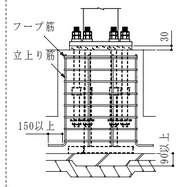
●形状
柱型寸法を標準から変更する場合は、別紙「ベースパック柱脚工法における柱型寸法最大・最小値一覧」による。



●コンクリート
普通コンクリートとし、設計基準強度は21N/mm² 以上とする。

●鉄筋
SD295(D13,D16)
SD345(D19,D22)

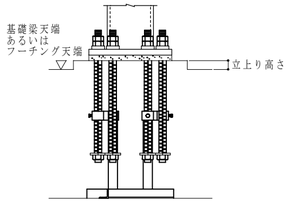
4．2 配筋



※トップフープはダブルとする

4．3 基礎立上がり

●基礎立上がり高さは50mm以下とする。
※ただし基礎立上がり高さが50mmを超え300mm以下の場合、Lシリーズを使用することができる。

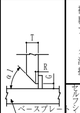


5．工場製作（溶接）

■組立
●ベースプレートの中心線（ｶﾀﾞﾁ線）に柱材軸心を合わせる。

■溶接方法（完全溶込み溶接）
●完全溶込み溶接とする。　（JASS 6 鉄骨工事による）

完全溶込み溶接の開先標準（JASS 6 鉄骨工事 2007年版より ）

図	溶接方法	適用板厚T(mm)	ルート間隔G(mm) 標準値	ルート間隔G(mm) 許容差	ルート面R(mm) 標準値	ルート面R(mm) 許容差	開先角度α(°) 標準値	開先角度α(°) 許容差	溶接姿勢
	被覆アーク溶接	6～	7	-2,+∞ (-3,+∞)	2	-2,+1 (-2,+2)	α1:45	+2.5,+∞ (-5,+∞)	下向き
			9	-2,+∞ (-3,+∞)	2	-2,+1 (-2,+2)	α1:35		
	ガスシールドアーク溶接 フラックス入りワイヤアーク溶接	6～	6	-2,+∞ (-3,+∞)	2	-2,+1 (-2,+2)	α1:45	+2.5,+∞ (-5,+∞)	下向き
			7	-2,+∞ (-3,+∞)	2	-2,+1 (-2,+2)	α1:35		

許容差 記号+∞は制限無しを示す。
・2段書きは「鉄骨精度検査基準」に規定する許容差(上段：管理許容差、下段括弧内:限界許容差)を示す。

■ベースプレートの予熱
●気温(鋼材表面温度)が5℃以上でのベースプレートの予熱は次に示す予熱温度標準により行う。その他必要に応じて適切な予熱をする。

溶接方法	鋼種	板厚(mm) t<32	32≦t<40	40≦t≦50
低水素系被覆アーク溶接	SN490B	予熱なし	50 ℃	50 ℃
CO_2ガスシールドアーク溶接	SN490B	予熱なし	予熱なし	予熱なし

■検査方法：溶接部の検査は超音波探傷検査により行う。
■施工管理：7．本工法の施工及び施工管理参照。

6．工事場施工

6．1 基礎工事

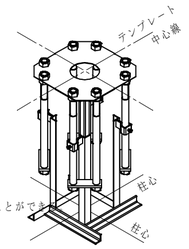
●柱脚部の捨コンの厚さは90mm以上とし、表面は平滑に仕上げる。

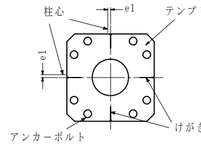
6．2 アンカーボルト据付け

●アンカーボルト（フレーム）の組立ては、4隅のアンカーボルト4本で組立てを行う。

●フレームベースはステコンアンカーにより水平に固定する。

●位置決めは、テンプレートの中心線と地墨等の柱心を合致させることにより行い、標準許容差は下図による。





e1:柱心とテンプレートのけがき線との許容差

標準許容差	
	-2≦e1≦2
	基準高さより誤差は
	-3≦e≦10

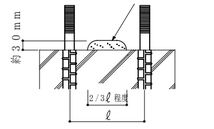
6．3 配筋およびコンクリート打設

●配筋はアンカーボルト（フレーム）との取り合いを考慮する。

●コンクリート打設前にテンプレート位置精度を確認する。

6．4 建方

●レベルモルタルはベースパックグラウト（グラウト材）を使用し大きさは右図による。



6．5 アンカーボルトの本締め（弛み止め）

●本締めはグラウト材の充填前に行い、ダブルナットを標準とする。

6．6 ベースパックグラウト(グラウト材)の注入

●グラウト材のカクハンは、グラウト材1袋（6kg）に対して、計量カップで1.0~1.1 ℓ の水を加え、電動カクハン機で混練することにより行う。

●グラウト材の注入は、グラウトロートを注入座金にセットし、グラウト材の自重圧により他の注入座金からグラウト材が噴き出るまで行う。

7．本工法の施工及び施工管理

●本工法は、管理者又は施工者（元請）の管理のもとで実施するものとする。

●本工法のうち6．2アンカーボルト据付け及び6．6ベースパックグラウトの注入は、ベースパック施工技術委員会によって認定された有資格者（ベースパック施工管理技術者・施工技能者）が施工を実施し、チェックシート等により施工管理を行うものとする。

●ベースプレート溶接部の施工管理は、鉄骨製作業者に属する鉄骨製作管理技術者等による。

MEMO

一級建築士事務所
岐阜県知事登録
第８６３０号
野中建築事務所
一級建築士第93340号　野中　和弘

NO S-03　DATE H27.06

工事名　可児市消防団消防車庫第４分団第１部新築工事

図面名　鉄骨柱脚仕様書（ﾍﾞｰｽﾊﾟｯｸ）

使用構造材料及び施工方法等計画書

1．細目は■印をつけたものを適用する。
2．その他特記事項は（　　）内に記載する。
3．■印の提出書類は工事監理者に提出する。
4．単位は、特記ない場合㎜とする。ｔ＝厚さ、φ＝直径、Ｌ＝長さ

０１　鉄筋工事

１．一般事項	標準仕様	■公共建築工事標準仕様書（建築工事編）　国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 □ＪＡＳＳ　５　日本建築学会
２．鉄筋	規格	ＪＩＳＳ Ｇ ３１１２による。 ■ＳＤ２９５Ａ（Ｄ１０～Ｄ１６）　□ＳＤ２９５Ｂ ■ＳＤ３４５（Ｄ１９以上）　□ＳＤ３９０ □その他（　　）
３．継手	種類	■重ね継手（Ｄ１０～Ｄ１６）　■ガス圧接継手（Ｄ１９～Ｄ２９） □その他（　　） ＊ＳＤ２９５Ａはガス圧接継手としてはならない
４．溶接金網	規格	ＪＩＳＳ Ｇ ３５５１による。
	径・間隔	φ６、@１００
５．スペーサー	材質	□モルタル製　■プラスチック製　■スチール製（床用） □コンクリート製
６．フープ形状	形状	■Ｈ形（１３５°フック）　□Ｗ－Ｉ形（溶接閉鎖形） □Ｗ－Ｉ形（溶接閉鎖形）（パネルゾーン部） □Ｗ－Ⅱ形（溶接閉鎖形１３５°フック付き）－－柱頭　頂部のみ □ＦＢ溶接　□Ｓ形（スパイラル筋）　□丸形
７．ガス圧接完了後の検査・試験	検査	外観検査
	試験	■超音波探傷試験　□引張試験
	方法	試験は１組の作業班が１日に行った圧接箇所ごと（２００箇所を超える時は２００箇所ごと）に１回行い、１回の試験は３本とする。
	試験機関	公的又は準公的機関で行う。
８．提出書類		■鋼材検査証明書　■各種試験成績表

０２　コンクリート工事

１．一般事項	レディミクスト コンクリートの類別	■Ⅰ類　□Ⅱ類
２．材料	セメント （JIS A 5308規格品）	■ポルトランドセメント（■普通　□早強　□中庸熱　□耐硫酸塩） □高炉セメント　（□Ａ種　□Ｂ種　□Ｃ種） □シリカセメント（□Ａ種　□Ｂ種　□Ｃ種） □フライアッシュセメント（□Ａ種　□Ｂ種　□Ｃ種）
	骨材	■粗骨材（■砂利　□砕石　□高炉スラグ粗骨材） ■細骨材（■川砂　□山砂　□人工軽量骨材）
	混和剤	■ＡＥ減水剤（Ｆｃ＝１８Ｎ/㎟～２４Ｎ/㎟に適用）　□流動化剤 □高性能ＡＥ減水剤（Ｆｃ＝２７Ｎ/㎟～３６Ｎ/㎟に適用）
	混和材	□フライアッシュ　□膨張材
	水	□上水道水　■井戸水　■工業用水
３．普通コンクリートの調合	調合	

設計基準強度	種　類	スランプ（cm）	混　和　剤	使用箇所
Ｆｃ＝２１Ｎ/㎟	Ⅰ類　普通コンクリート	１８	ＡＥ減水剤	基礎･地中梁･布基礎
Ｆｃ＝１８Ｎ/㎟	Ⅰ類　普通コンクリート	１５	ＡＥ減水剤	２階スラブ
Ｆｃ＝１８Ｎ/㎟	Ⅰ類　普通コンクリート	１５	ＡＥ減水剤	土間･捨てコン

※基礎・２階スラブコンクリートは、標準仕様書による、季節補正を行うこと。

４．軽量コンクリート		直接土に接する部分には、軽量コンクリートは使用しない。 天然軽量骨材（火山礫等）は使用しない。
	種類	□１種　□２種
	気乾単位容積重量 （ｔ/m³）	□１．４　□１．５　□１．６　□１．７　□１．８ □１．９　□２．０
５．無筋コンクリート	種類	■捨てコンクリート（ｔ３０～５０）　□保護コンクリート（ｔ　） □ラップルコンクリート
６．寒中･暑中コンクリート （季節補正値Ｓ）	適用期間	打設日の平均気温が２５℃以上　＋６Ｎ／㎟ 打設時～２８日までの日平均気温が８℃以上　＋３Ｎ／㎟ 打設時～２８日までの日平均気温が８℃未満　＋６Ｎ／㎟
７．試験 ［　］内数値は Ｆｃ＝２７～３６Ｎ/㎟に適用	材料試験	■セメント物理試験　■骨材ふるい分け試験 □骨材の洗い試験　□砂の有機不純物試験　■砂の塩分試験 ■アルカリシリカ反応性試験　□その他（　）
	まだ固まらない コンクリートの試験	■スランプ試験　■空気量試験　■単位容積質量試験 ■塩化物量試験
	塩化物量試験	試料採取は工事現場の荷卸し場所とし、（財）国土開発技術研究センターの技術評価を受けた塩化物量測定器を用いて行い、試験結果の記録及び測定器の表示部を１回の測定ごとに撮影した写真（カラー）にて報告をする。測定検査は１日１回以上かつコンクリート１５０m³［１００m³］ごととし、同一試料における３回の測定の平均値を試験値とする。
	コンクリート強度試験	コンクリート強度試験の為の試料採取は、打込み工区ごと、打込み日ごと、また打込み量が１５０m³［１００m³］を超える場合は１５０m³［１００m³］ごと、又はその端数ごとに適切な間隔を空けた３台の運搬車から１台ごとに１組の供試体（材齢７日用、２８日用、型枠脱型用にそれぞれ１組以上）を採取する。
	試験機関	公的又は準公的機関で行う。
８．型枠	材料	■合板（■ｔ１２　□ｔ１５） □金属製型枠パネル　□その他（　）
		はく離材はコンクリートの品質及び表面仕上げ材料の付着に有害な影響を与えないものとする。

型枠存置期間

種類	せき板		支柱		
部位	基礎，はり側，柱，壁		スラブ下		梁下
セメントの種類 / 存置期間中の平均気温	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント，混合セメントのＡ種	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント，混合セメントのＡ種	左記のすべてのセメント
コンクリートの在齢による場合（日） 15℃以上	２	３	８	１７	２８
5℃以上	３	５	１２	２５	２８
0℃以上	５	８	１５	２８	２８
コンクリートの圧縮強度による場合	圧縮強度が５Ｎ/㎟以上となるまで。		圧縮強度が設計基準強度（Ｆｃ）の８５%以上		圧縮強度が設計基準強度以上

９．運搬・打込み ［　］内数値は Ｆｃ＝２７～３６Ｎ/㎟に適用	運搬　コンクリートはその種類、品質及び施行条件に適した方法により分離、漏れ、及び品質の変化ができるだけ少ない様に運搬する。
	打込み　コンクリートが分離しないように、打込む場所へ直接かつ静かに入れて十分に締固め、コンクリートが落ち着いてから次のコンクリートをを打込む。
	打継ぎ　打込み継続における打継ぎ時間間隔の限度は、外気温が２５℃未満の場合は１５０分［９０分］、２５℃以上の場合は１２０分［６０分］とし、先に打込まれたコンクリートの再振動可能時間以内とする。
１０．特殊工法	プレストレスト コンクリート構造　□プレテンション　□ポストテンション □フルプレストレッシング　□パーシャルプレストレッシング □プレストレスト鉄筋コンクリート
	ＰＣ鋼線　□ＳＷＰＲ１　□ＳＷＰＤ１
	ＰＣ鋼より線　□ＳＷＰＲ　□その他（　）

１１．提出書類		■レディミクストコンクリート配合報告書　■セメント試験成績表 ■コンクリート用化学混和剤試験結果報告書　■骨材試験成績表 ■レディミクストコンクリート中の塩化物測定記録表 ■コンクリート強度試験成績報告書

０３　鉄骨工事

１．鋼材	建築構造用圧延鋼材	□ＳＮ４００Ａ　■ＳＮ４００Ｂ　■ＳＮ４００Ｃ □ＳＮ４９０Ｂ　■ＳＮ４９０Ｃ　□その他（　）
	一般構造用圧延鋼材	■ＳＳ４００　□ＳＳ４９０　□その他（　）
	溶接構造用圧延鋼材	□ＳＭ４９０Ａ　□ＳＭ４９０Ｂ　□その他（　）
	一般構造用軽量形鋼	■ＳＳＣ４００
	一般構造用炭素鋼鋼管	□ＳＴＫ４００　□ＳＴＫ４９０
	一般構造用角形鋼管	■ＳＴＫＲ４００　□ＳＴＫＲ４９０
	建築構造用冷間成形角形鋼管	■ＢＣＲ２９５　□ＢＣＰ２３５　□ＢＣＰ３２５
２．高力ボルト	高力ボルト	■ＪＩＳ Ｂ １１８６の規格品とする。 （□Ｆ８Ｔ　□Ｆ１０Ｔ　□その他（　）） □トルシア形高力ボルト（　） （■Ｆ１０Ｔ　■Ｓ１０Ｔ　□その他（　））
	普通ボルト	ＪＩＳ Ｂ １１８０の規格品とする。 ■Ｍ１２　□Ｍ１６　□Ｍ２０　□Ｍ２２
	スタッドボルト	ＪＩＳ Ｂ １１９８の規格品とする。 □φ１６　□φ１９　□φ２２　□その他（　）） □Ｌ＝８０　□Ｌ＝１００　□Ｌ＝１５０ □その他（Ｌ＝　）
３．アンカーボルト	工法	□固定埋込み工法　■可動埋込み工法　■ベースパック
	材料	□ＳＳ４００　□ＳＳ４９０　□ＳＳ５４０　■ＳＮＲ４００ □ＳＤ３４５　□ＳＤ３９０　■ＳＤ４９０
４．デッキプレート	合成スラブ用	□スーパーＥデッキ・Ｅデッキ（日鉄建材工業） （□ＥＺ５０　□ＥＺ７５　□ＥＶ５０　□ＥＵＡ） ■ＱＬデッキ（ＪＦＥ建材） （■QL99-50-12　□QL99-75-12　□QL99-50-16　□QL99-75-16） □ＮＫＫ－Ｃデッキ（日本鋼管ライトスチール） （□Ｃ５０　□Ｃ７５） ■その他（Ｖデッキ　）
	型枠用	メーカー　品番　□同等品
	電路用	メーカー　品番　□同等品
	厚さ	□１．２　□１．６　□その他（　）
５．ベースプレート	材料	■在来　□ハイベース（日立機材） ■ベースパック（旭化成建材）　□ＮＣベース（日本鋳造）
６．試験・検査	試験	■超音波探傷試験　（社内検査１００%，第三者機関ＡＯＱＬ４．０%） □隅肉溶接外観検査（社内検査　%，第三者機関　%） □高力ボルト軸力確認試験　□高力ボルト締付け検査 □その他（　）
７．提出書類		■鉄骨工事工場製作要領書　■認定書　■鋼材検査証明書 ■ハイテンションボルト試験成績表　■プレース検査成績書 □デッキプレート鋼材試験成績書　■超音波探傷試験報告書 ■製品検査報告書　□溶接工事作業計画書 □溶接工事施工報告書

MEMO

一級建築士事務所
岐阜県知事登録
第８６３０号
野中建築事務所
一級建築士第93340号　野中　和弘

NO S-04　DATE H27.06

工事名　可児市消防団消防車庫第４分団第１部新築工事

図面名　主要構造材及び施工方法等計画書

エスミコラム工法地業特記仕様書

1　工事概要

本地業は、セメントミルクを用いた機械式撹拌深層混合処理工法による地盤改良地業である。
このエ法は、セメント系固化材を原地盤と撹拌混合し、原地盤を固化する方法によって
地盤改良を行うものである。

2　一般事項

本地業は、本特記仕様書によるほか、「改訂版　建築物のための改良地盤の設計及び品質管理指針
平成24年11月」（（財）日本建築センター、以下指針という）による。

3　特記事項

（1）　コラムの径、掘削深度（改良長+空掘長）、本数配置等は設計図書による。コラムの径
長さ・本数・位置及びセメントミルクの配合等について土質や地盤状況により変更
した方が適切と判断される場合は、監督員の承認の上に変更することができる。

(2)　コラムの設計基準強度はＦc=700kN/m^2（0.70N/mm^2）、造成後の改良体強度に対し
Ｆ検定結果による変動係数２５％以下、不良率１０％を確保するものとする。
Ｆ検定 ： 各施工業者で既往の調査結果から下記の品質項目を確認したもの。
①改良体強度の分布に関する正規分布の適合度の判定。
②土質毎の変動係数の信頼性の確認。
（指針（P463～470）の算定方法による。）

(3)　設計の要求する性能を確保するため、適切な配合管理、施工管理および品質検査を実施する。

(4)　セメントミルクを用いた機械式撹拌深層混合処理工法の専門工事会社（エスミコラム協会所属会員）
を本工事施工業者とする。

(5)　固化材と改良対象土を確実に混合撹拌することができ、共回り現象を防止する撹拌装置を装備
する施工機械を用いる。

(6)　地盤改良の設計及び施工に関して、ISO9001認証を取得している機械撹拌式深層混合処理工法
の専門工事会社を本工事施工業者とする。

(7)　工法の選定においては、(財)日本建築総合試験所等　公的機関における性能証明を取得した工法
とし、施工会社は上記工法を自社で取得している会社に限るものとする。
協会員として施工権を取得している会社は、性能証明取得会社とは見なさないものとする。

4　施工計画

工事に先立ち、施工計画書を監査員に提出する。施工計画書は、次の事項を明記する。

①工法概要
②工事概容（工事名称・工事場所）
③施工内容
（工法・使用材料・設計基準強度・合格判定強度・室内目標強度・コラム径・コラム数量等）
④施工機器および仮設設備と配置
⑤工事期間及び工程
⑥施工仕様(固化材配合・スラリー注入量等)
⑦施工要領（注入液の製造・コラム施工フロー等）
⑧施工管理の方法
⑨品質検査の方法
⑩施工管理体制
（本工事施工業者名及び責任者名・各種作業の主たる従事者の組織表等）
⑪安全対策

5　施工

（1）　作業地盤は、施工機械が傾斜・転倒しないように養生する。

(2)　必要に応じ監督員の立ち会いのもとで試験打ちを行う。ボーリングデータ等地盤の状況が
把握できる地点の近くで試験打ちを行い、所定の下部地盤に到達した時に次の事項を確認し
管理指標値を決定する。

①深さ
②オーガの抵抗値（電動オーガーは 電流値、油圧オーガーは トルク値）
③貫入速度の変化

(3)　基本的な施工手順を以下に示す。施工の障害になる事項が判明した場合は別途検討する。

①撹拌装置をコラム芯にセットする。
②所定の空掘深度まで掘削する。
③ミルクを吐出しながら混合撹拌する。
④所定深度に到達したら、ミルクの吐出を停止し、先端処理を行う。
⑤撹拌装置を回転させながら引き上げる。
⑥本工事により排出された発生残土は場内処分とする。
⑦施工に対して疑義が生じた場合は、ただちに監督員と協議し、その指示を受ける。

6　施工機械

（1）　固化材と改良対象土を確実に混合撹拌することができ、共廻り現象を防止する撹拌装置を
装備する施工機械を用いる。

(2)　所定の施工管理項目を計測、記録できる管理装置を用いる。

(3)　改良機本体は、本地業の施工仕様を満足できる施工制御機器を装備したもので、自走式とする。

(4)　ミキシングプラントは、所定吐出量を十分供給できるものとする。

7　配合管理

（1）　セメントミルクに使用する固化材は、セメント系固化材とする。

(2)　配合強度
配合管理目標変動係数を想定し、「9　品質検査」に規定する抜き取り個所数Ｎから
表1を用いて α_tを決め、配合強度 X_f を設定する。

$X_f = F_c \cdot \alpha_t$

X_f：配合強度
F_c：設計基準強度
α_t：割り増し係数

表 1　割り増し係数（$L_{(a)}$=95%, V_d=25%の場合）

抜き取りヶ所数 N ／ 配合管理目標変動係数V_d	1	2	3	4～6	7～8	9～
25%	2.900	2.301	2.090	1.907	1.799	1.718

(3)　W/Cと固化材量
室内配合試験の結果あるいは過去の工事実績に基づいて、配合強度を満足するように決定する。

$X_f = X_f / \alpha_{f1}$

X_f：室内配合強度
X_f：配合強度
α_{f1}：現場/室内強度比（強度比 0．6）

(4)　注入固化ミルクの配合及び使用量は、下記を原則とする。
（事前に現状土による室内配合試験を実施し、配合量を決定する。）

①固化材料　：　セメント系固化材（TL-4型同等品）
水　（飲料水・工業用水等）
②配　合　：　W／C＝70%
③使 用 量　：　添加量は300kg/m^3
とする。

8　施工管理

（1）　施工の安定性を確保するために下記に示す項目について施工管理する。

①形状・寸法
鉛直性　：改良機本体のリーダー内に設置された傾斜計で管理する。
コラム芯：事前にコラム芯にマークを設ける。
掘削深度：深度計で計測し記録する。
改良径　：撹拌装置の形状・寸法を記録する。
②セメントミルク
材料　　：水、固化材を計量する。
ミルク比重　：比重計（マッドバランス等）で計測する。
ミルク吐出量：流量計で計測し記録する。
③撹拌混合度
貫入・引き上げ速度：速度計で計測し記録する。
撹拌装置　　：掘削翼、撹拌翼の枚数を確認する。
④下部地盤
掘進速度、オーガー抵抗値（電流値またはトルク値）
：掘削深度は深度計で管理する。
：支持地盤確認は掘削中のオーガーの抵抗値,試掘調査等総合判断
により管理する。
⑤改良天端処理
コラム頭部の位置を所定の仕上がり高さにするため、施工後適切な時期にバックホー等
でコラム頭部を削り取って天端処理を行う。ただし、深基礎等、現場状況により改良天端処理が
不可能な場合は、根切り工掘削時に改良体を損傷しないようにコラム頭部を削り取ること。

(2)　施工の立会い
建築工事の請負者は、本地業責任者（請負業者の中から選定）及び施工責任者を定め、両者
は本地業の施工中は立ち会うものとする。

9　品質検査

（1）　検査対象群、検査対象層及び調査ヶ所数
①検査対象群は概ねコラム300本を1単位とする。
②検査対象層は粘性土層であり設計対象層を粘性土層とする。
③検査手法は強度のバラツキを想定する場合は検査手法Aによる。その場合は、選定工法による
改良体の強度のバラツキデータを添付すること。
④調査ヶ所数（検査対象群に対して）

表 2　調査ヶ所数

検査手法A	現場供試体（ﾓｰﾙﾄﾞｺｱ）	2ヶ所×6本(材令7,28日各3本)

(2)　合否の判定
①設計対象層についての抜取り1ヶ所に対し3個の供試体を採取し、その平均強度をその箇所
の強度とする。
②一軸圧縮試験は第三者で行うものとする。
③検査手法Aによる品質検査
合否の判定は設計対象層におけるNヶ所（抜取ヶ所数）の一軸圧縮試験結果が、下式を満足
する場合を合格と判定する。

$X_N \geqq X_L = F_c + k_a \cdot \sigma_d = F_c + k_a \{ F_c \cdot V_d / (1-1.3V_d) \}$

X_N：Ｎヶ所の一軸圧縮強度の平均値
X_L：合格判定値
F_c：設計基準強度
k_a：合格判定係数
σ_d：標準偏差　$\sigma_d = V_d \cdot q_{ud}$
V_d：変動係数、性能証明による

表 3　合格判定係数

抜き取りヶ所数 N	1	2	3	4～6	7～8	9～
合格判定係数　k_a	1.9	1.7	1.6	1.5	1.4	1.3

(3)　六価クロム溶出試験
国土交通省　国官技第16号、国営建第1号（平成13年4月20日）　「セメント及びセメント系
固化材を使用した改良土の六価クロム溶出試験要領（案）」による六価クロム溶出試験を実施し、
試験結果を提出するものとする。
事前配合試験段階　　1検体

10　報告

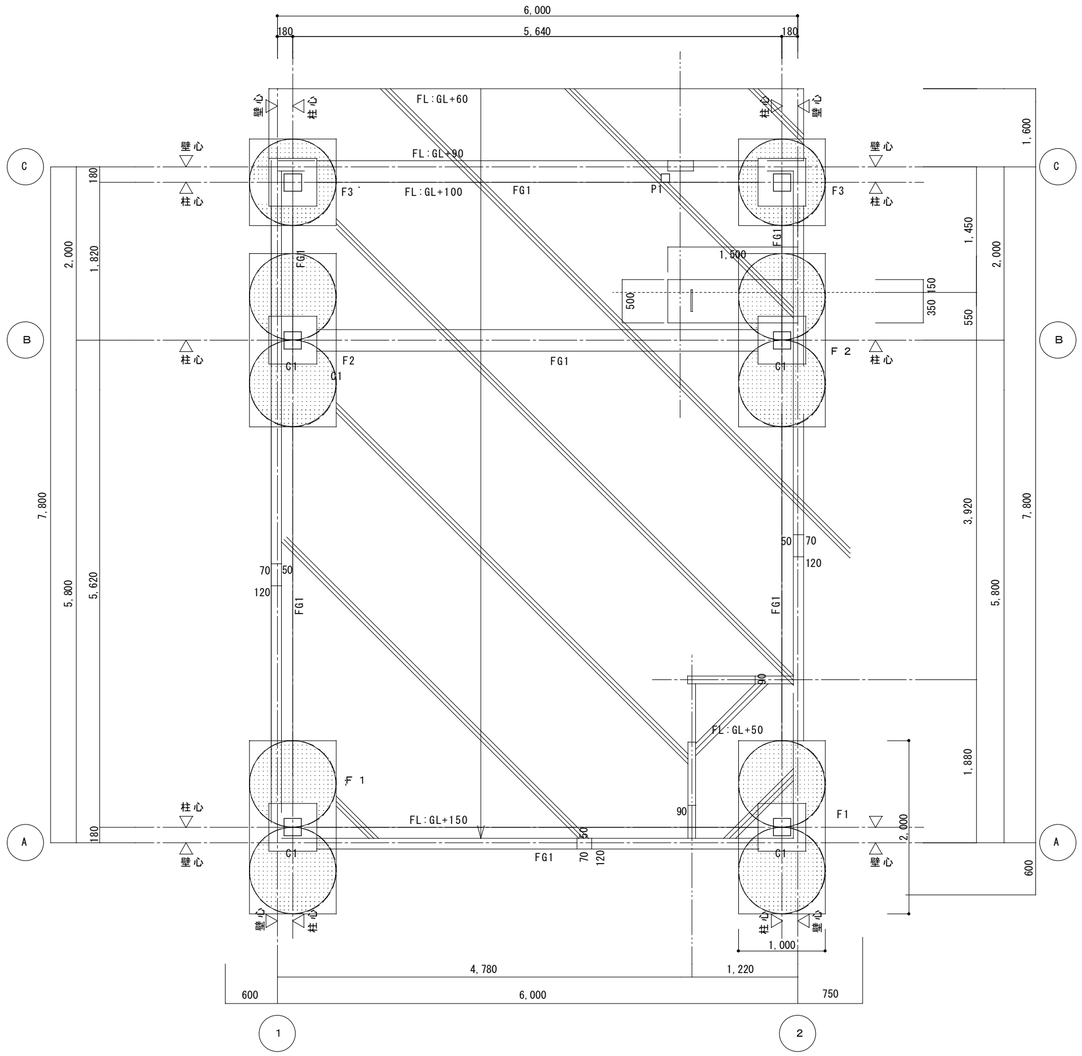
工事完了後、次の項目について報告書をまとめ、監督員に提出する。

①コラムの施工数量
②コラム番号及び施工進捗図
③コラムの施工日・径・長さ・掘削深度
④スラリー比重値
⑤固化材の使用量
⑥コアの強度管理試験・合格判定結果

MEMO

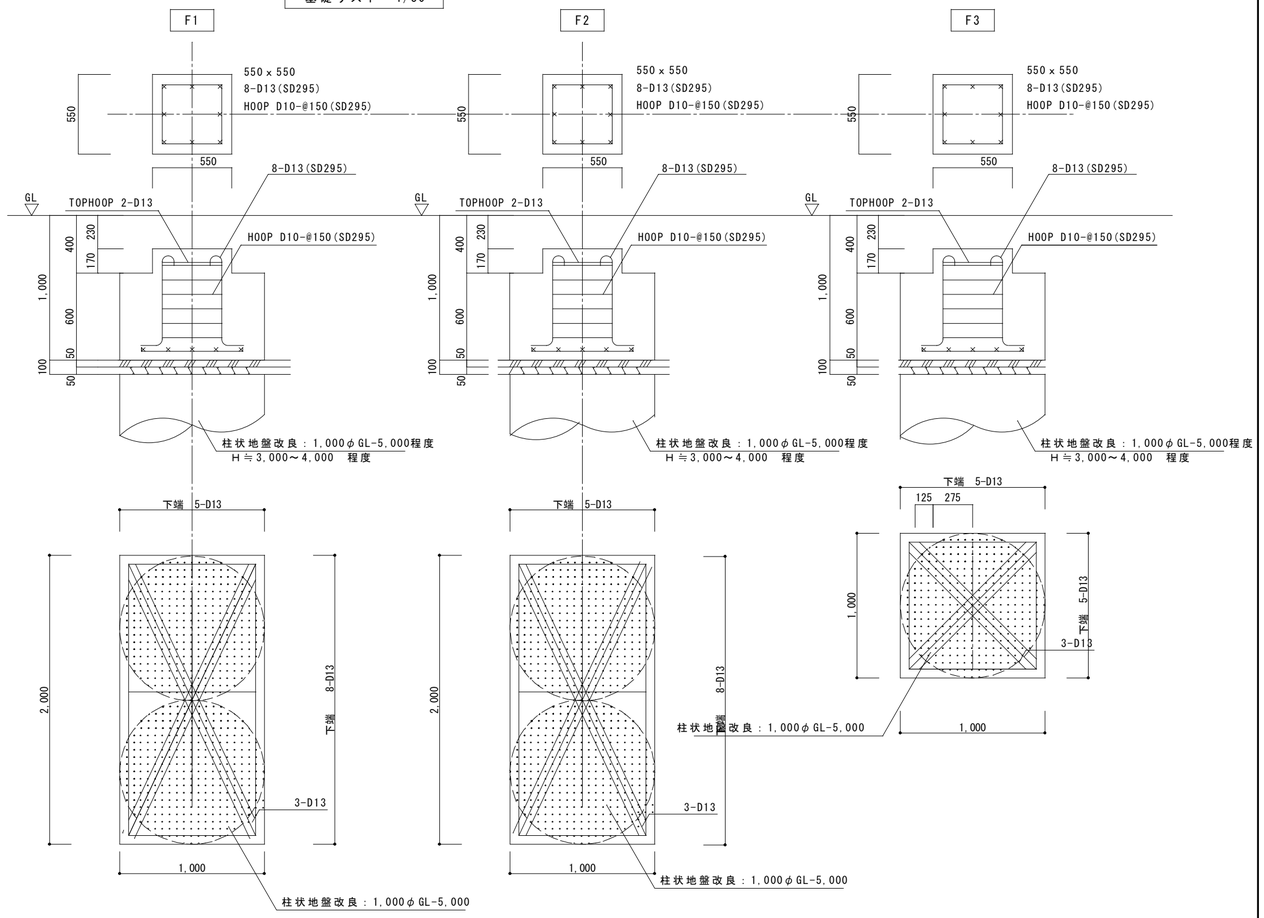
一級建築士事務所
岐阜県知事登録
第８６３０号
野中建築事務所
一級建築士第93340号　野中　和弘

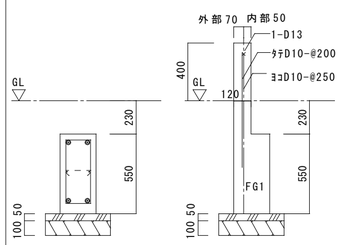
NO　S-05
DATE　H27.06
工事名　可児市消防団消防車庫第４分団第１部新築工事
図面名　エスミコラム工法地業特記仕様書



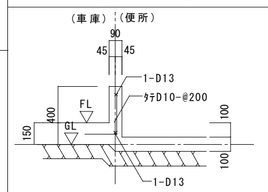
基礎伏図　1/50

基礎リスト　1/30

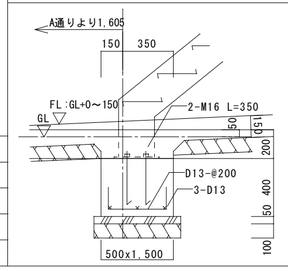


階	符号 場所	FG1	ALC基礎 立上り
	位 置	全断面	
F 層	断 面		
	B x D	250x550	
	上端筋	2-D19	
	下端筋	2-D19	
	ＳＴＰ	□ D10-@200	
	備 考	特記なき限り、・腹筋2-D10 ・巾止め筋 D10-@1,000	

WC間仕切り 立上り



階段基礎



高さ基準
GL　＝　ＫＢＭ±0
1FL　＝　設計ＧＬ+150

特記事項
1、コンクリート強度
躯体・基礎　FC 21 N/mm2
土間　FC 18 N/mm2
捨て　FC 18 N/mm2
階上床　FC 18 N/mm2
2、鉄筋
13φ以下　ＳＤ２９５　19φ以上　ＳＤ３４５
3、土間コンクリート
ｔ＝150　（便所のみt=100）
補強筋　D13-@200　シングルクロス
4、階上床　デッキコンクリート
ｔ＝80(山上)
補強筋　6φ-＃150　ワイヤーメッシュ

D10	D13	D16	D19
	×	○	◎

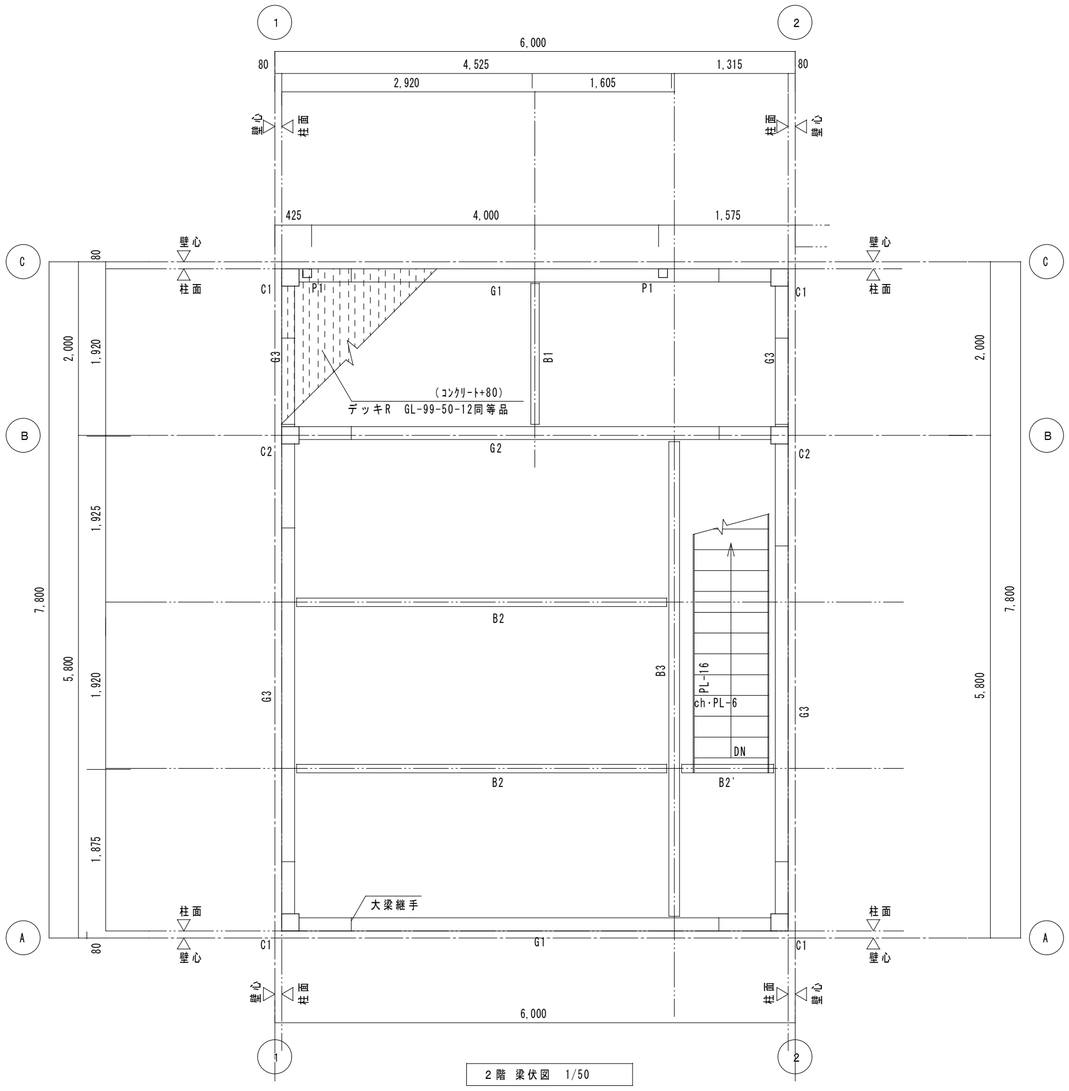
MEMO

一級建築士事務所
岐阜県知事登録
第８６３０号　一級建築士第93340号　野中　和弘
野中建築事務所

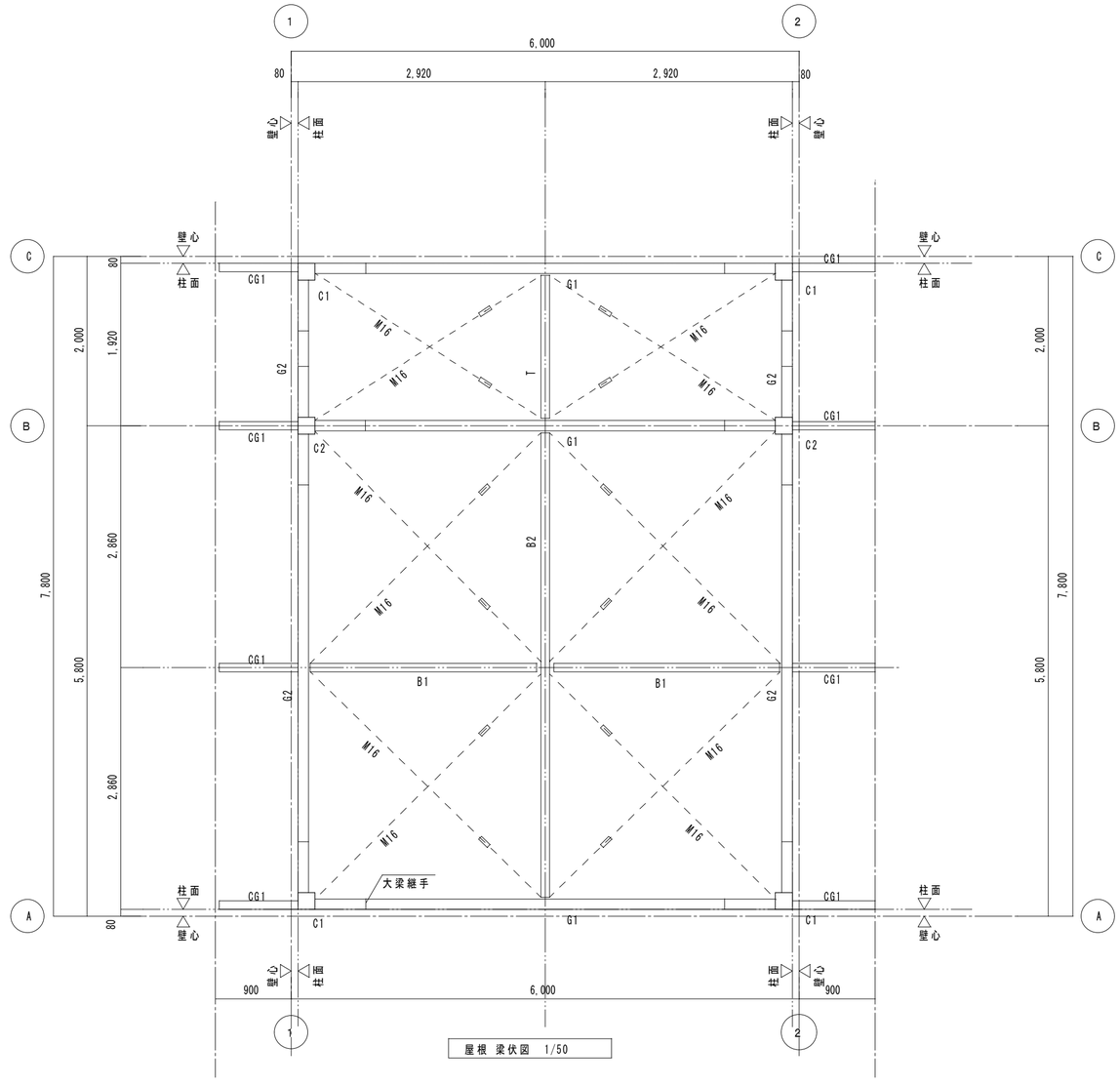
NO	DATE
S-06	H27.06

工事名　可児市消防団消防車庫第４分団第１部新築工事

図面名　基礎伏図・基礎ﾘｽﾄ　　SCALE 1:50



2階 梁伏図 1/50



屋根 梁伏図 1/50

鉄骨部材リスト

柱・大梁		大梁・小梁		小梁・片持梁		つなぎ・間柱・その他	
1C1	□－ 200×200× 9 BCR295	2G1，2，3	H－ 350×175×7×11 SS400	2B3	H－ 300×150×6.5×9		
	ベースパック20-09R		joint f:2PL- 9·8-M20(HTB) w:2PL- 6·6-M20(HTB)		G PL-9·3-M20(HTB)		
	BPL-360×360×32 アンカーボルト 4-M30(SD490)	RG1，2	H－ 248×124×5×8	RB 2	H－ 200×100×5．5×8	P1	□－ 100×100×3.2
1C2	□－ 200×200× 9 BCR295		joint f:1PL-12·8-M16(HTB) w:2PL- 6·4-M16(HTB)		G PL-9·2-M20(HTB)		BPL-6×300×120·2-M16 L=400
	ベースパック20-09R	2B1	H－ 198×99×4.5×7	T，2B2'	H－ 150×75×5×7	ﾌﾟﾚｰｽ 水平·垂直	M16 ターンバックル付
	BPL-360×360×32 アンカーボルト 4-M30(SD490)		G PL-9·2-M20(HTB)		G PL-6·2-M16(HTB)	母屋	C－ 100×50×20×2.3
2C1	□－ 200×200× 6 BCR295	2B2	H－ 248×124×5×8	RCG1	2C－ 100×50×20×2.3	ﾃﾞｯｷﾌﾟﾚｰﾄ	QL50 (h=50 · t=1.2) 合成スラブ
2C2	□－ 200×200× 6 BCR295		G PL-9·2-M20(HTB)				ｺﾝｸﾘｰﾄ Fc18N 山上t=80 ,ﾜｲﾔｰﾒｯｼｭ 6- #150
鉄 骨：柱BCR295 梁SS400		大梁継手：継手は、『SCSS－H97 鉄骨工事標準接合部』による。（保有耐力接合）		［ベースパック以外のベースプレート・ダイヤフラム・リブプレート等の使用鋼板は、SN490C規格品を使用する。（16.0mm未満はSN 490B）］			
HTB(ﾄﾙｼｱ形)：S10T		大梁スカラップ：r=35mm					

MEMO

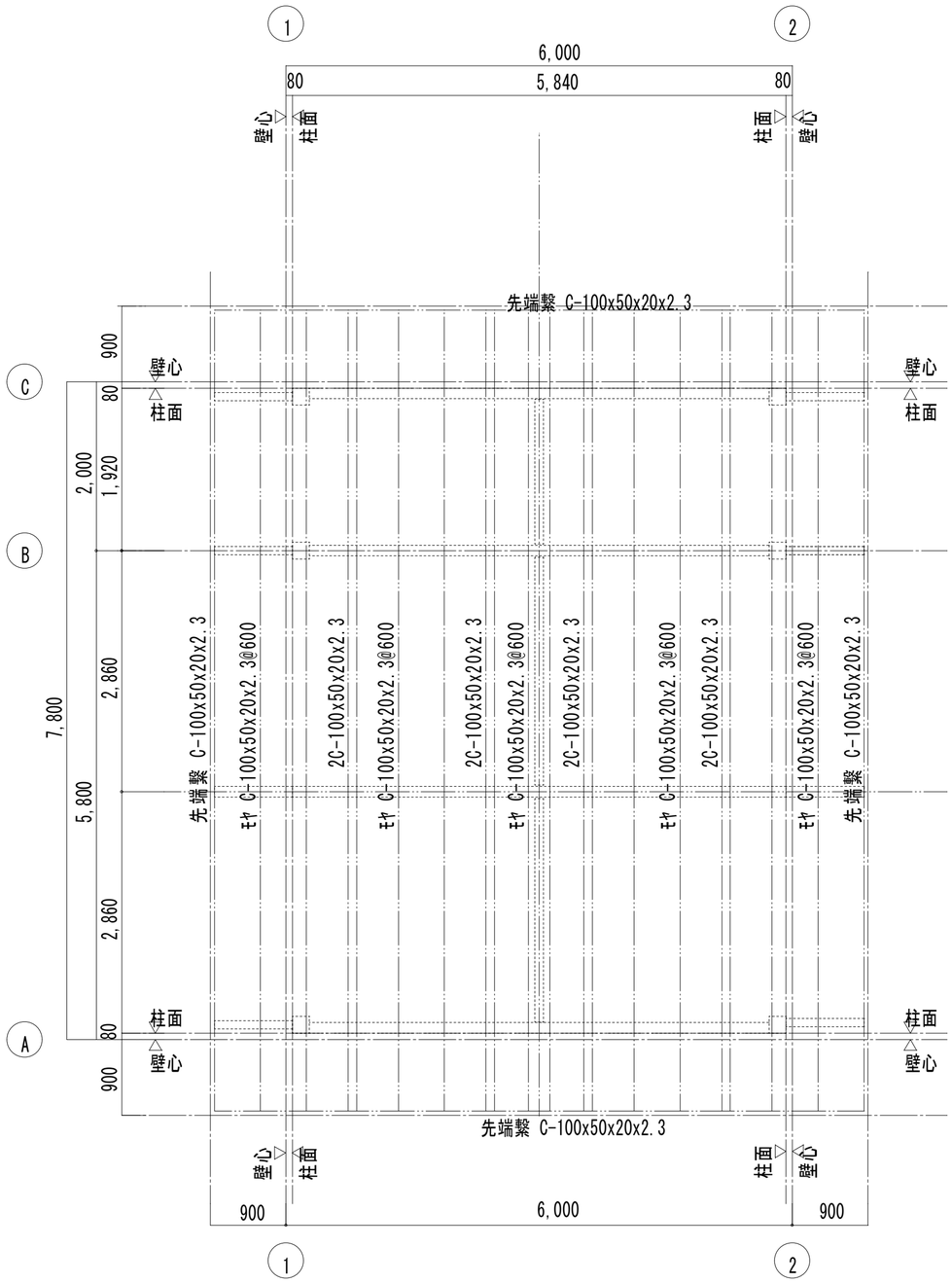
一級建築士事務所
岐阜県知事登録
第８６３０号 一級建築士第93340号 野中 和弘

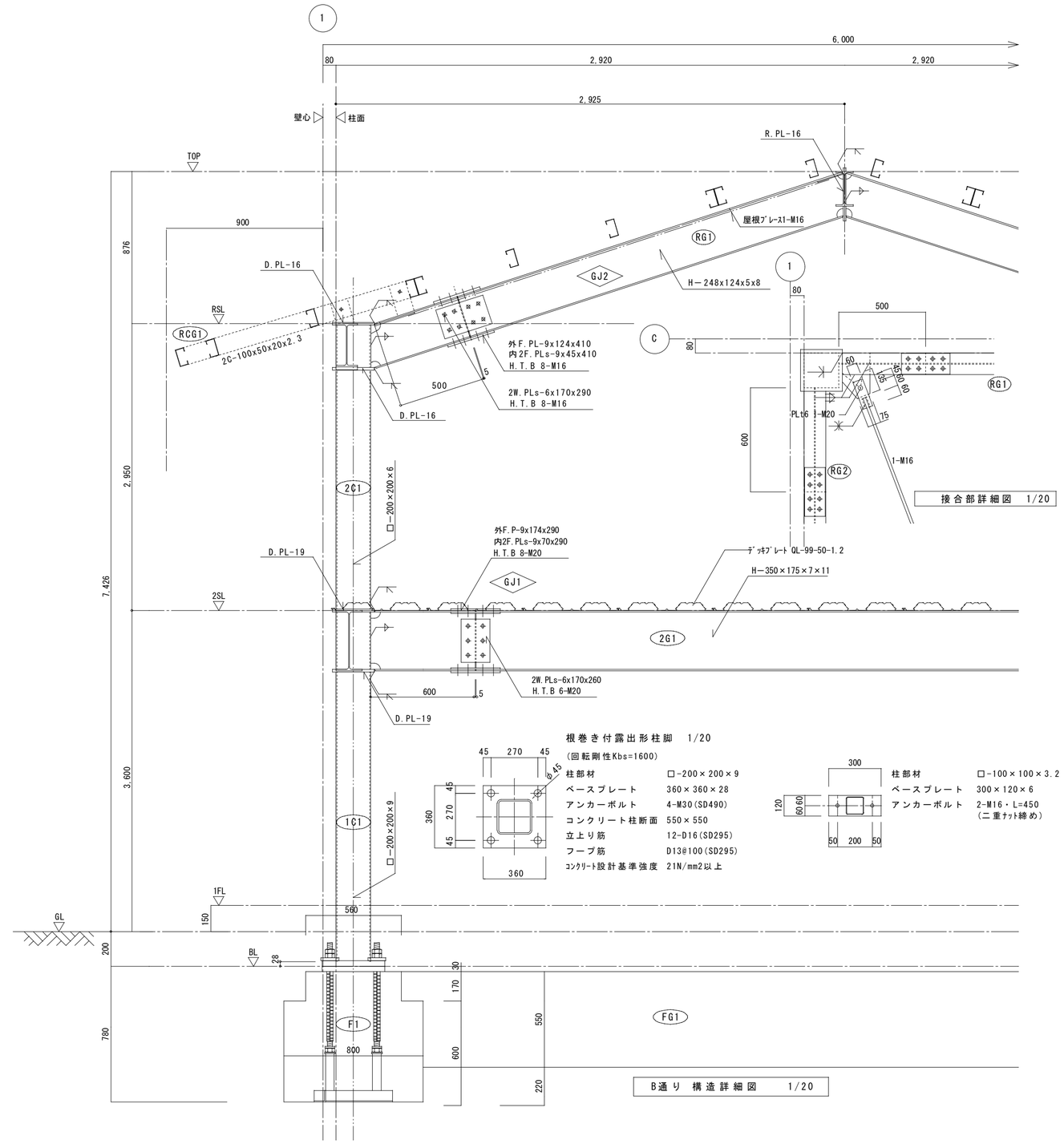
野中建築事務所

NO S-07 | DATE H27.06

工事名 可児市消防団消防車庫第４分団第１部新築工事

図面名 2階・小屋梁伏図 | SCALE 1:50





設計GL＝BM+40

MEMO

一級建築士事務所
岐阜県知事登録
第８６３０号

野中建築事務所

一級建築士第93340号 野中 和弘

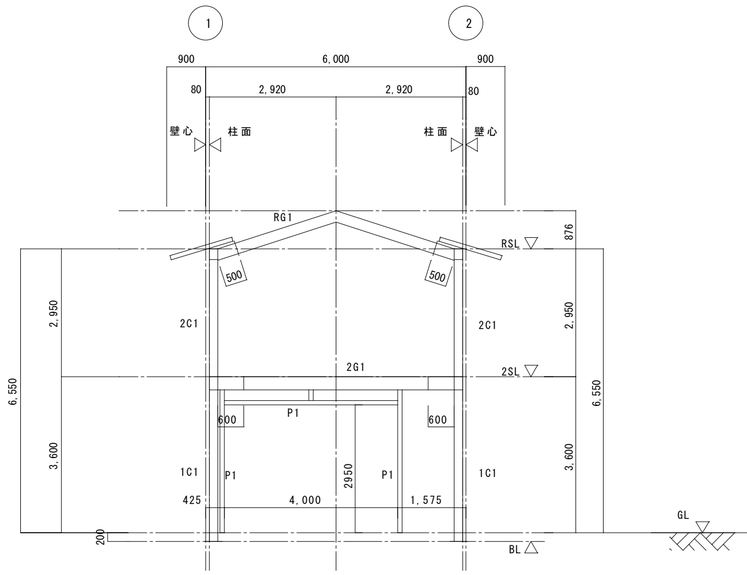
NO S-08

DATE H27.06

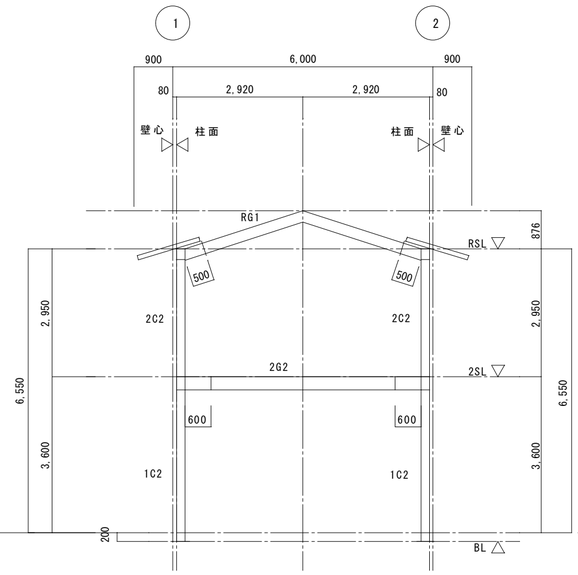
工事名 可児市消防団消防車庫第４分団第１部新築工事

図面名 屋根伏図・B通り鉄骨詳細図

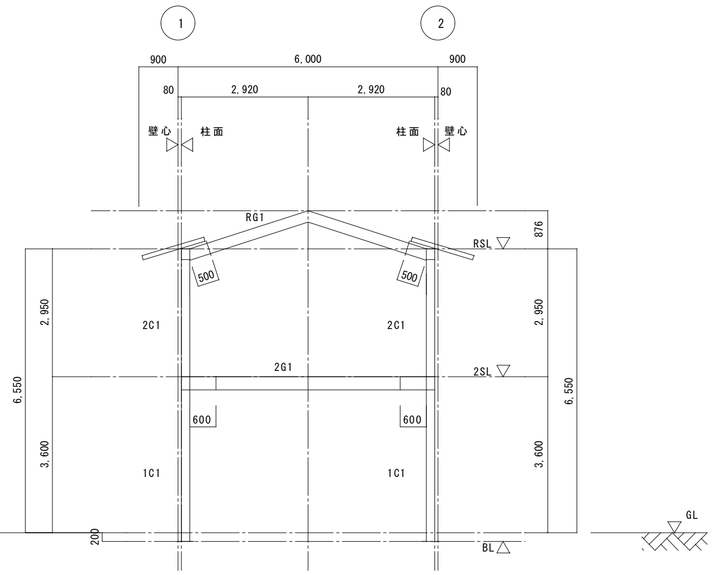
SCALE 1:20



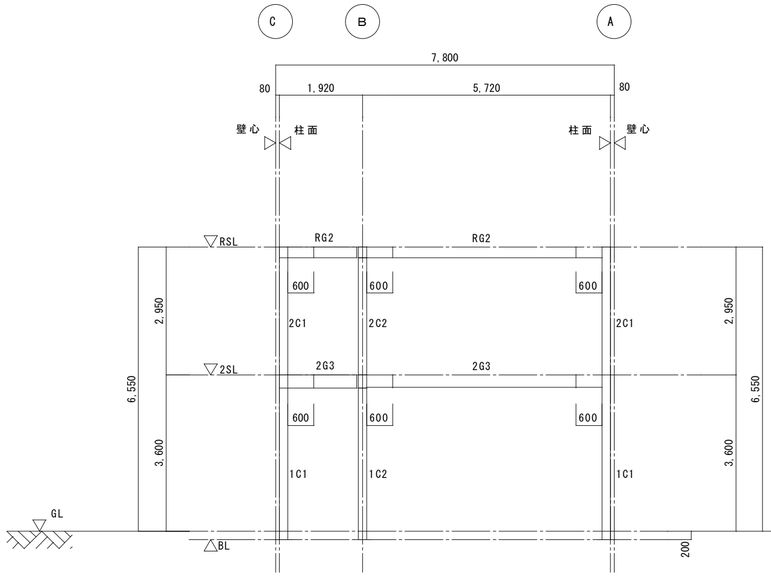
C通り　軸組図　1/100



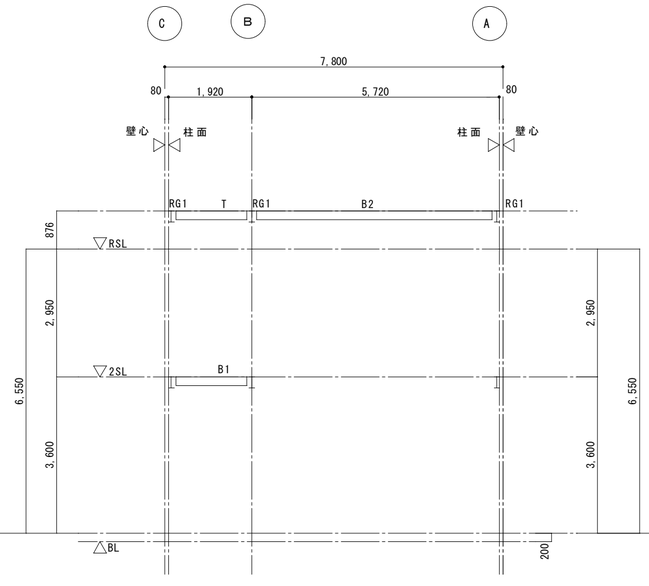
B通り　軸組図　1/100



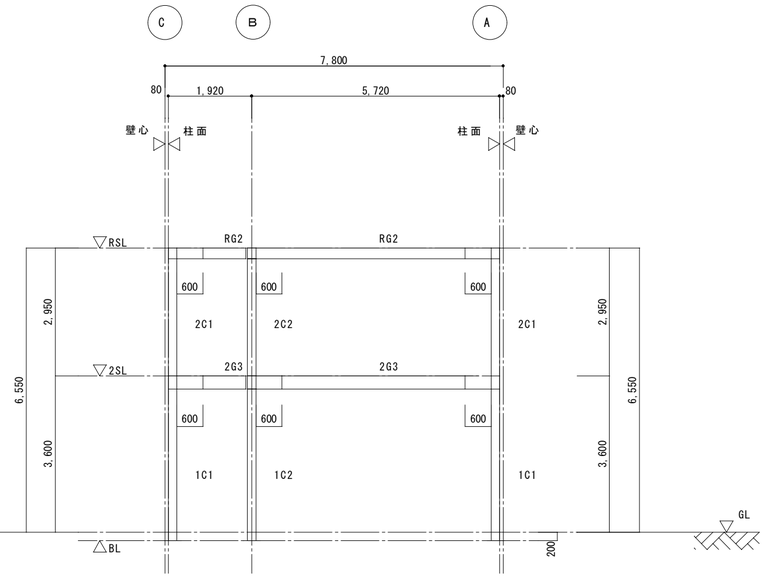
A通り　軸組図　1/100



１通り　軸組図　1/100



１通り+3000　軸組図　1/100



２通り　軸組図　1/100

MEMO

一級建築士事務所
岐阜県知事登録
第８６３０号

野中建築事務所

一級建築士第93340号　野中　和弘

NO S-09

DATE H27.06

工事名　可児市消防団消防車庫第４分団第１部新築工事

図面名　軸組図

SCALE 1:100